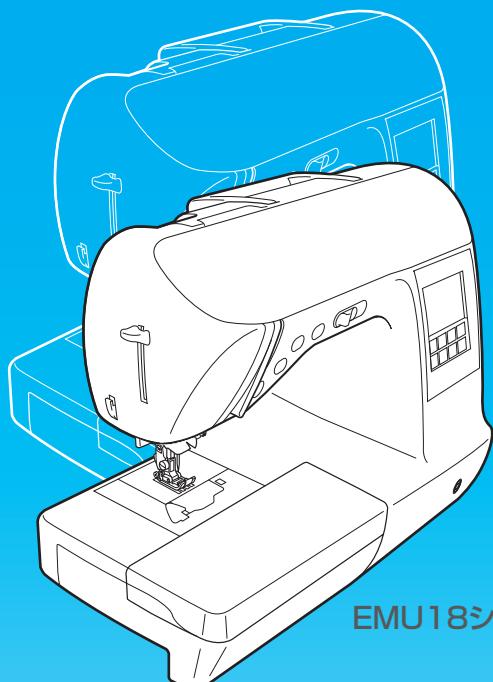
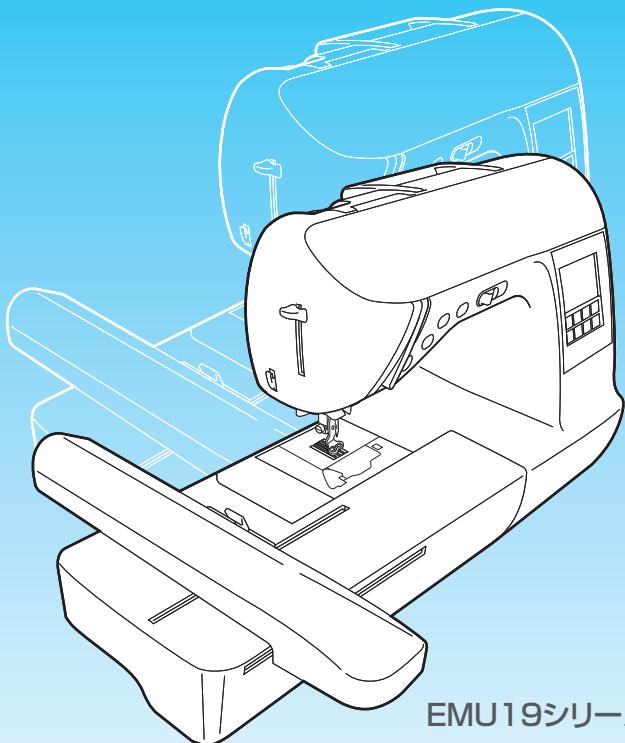


取扱説明書

コンピューターミシン
EMU18/EMU19シリーズ



EMU18シリーズ



EMU19シリーズ

brother

1 ぬう前の準備

ぬう前に必要な準備を説明します。

2 ぬい方の基本

基本のぬい方と上手にぬうコツなどを説明します。

3 いろいろなぬい方

いろいろなぬい方とその使い方を説明します。

4 刺しゅう

刺しゅうの手順を説明します。

5 付録

ミシンのお手入れと困ったときの対処方法などを紹介します。

- ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
- 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使用されている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。



警告

- この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。



注意

- この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用されている絵文字の意味は次のとおりです。



特定しない禁止事項



特定しない危険通告



針の下に指を入れないでください



感電の危険があります



分解してはいけません



火災の危険があります



水に濡らしてはいけません



特定しない義務行為



電源プラグを抜いてください

本製品を安全にお使いいただくために、次のことがらを守ってください。



警告

- 一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。

- ミシンのそばを離れるとき
- ミシンを使用したあと
- 使用中に停電したとき
- 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
- 雷が鳴りはじめたとき



!**注意**



- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。



- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。



- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。



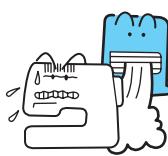
- 電源コードは、赤い印以上に引き出さないでください。



- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。



- 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は0~40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。



- 火の気のあるもののそばでは使用しないでください。（火の消えていないたばこ、ろうそくなど）火災の原因になります。



- 野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。また濡れたときはお近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」フリーダイヤル 0120-340-233にご連絡ください。



注意



- 以下の場所に設置、保管をしないでください。故障の原因になります。

- 温度が著しく高くなる場所
- 温度が著しく低くなる場所
- 急激に温度が変化する場所
- 湿気、湯気の多い場所
- 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- 屋外や直射日光の当たる場所
- ほこり、油煙の多い場所



- スプレー製品などを使用する部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。



- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてケガをする原因となります。



- ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から30cm以上離して使用してください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。



- ミシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。



⚠ 注意



- ミシン本体の重さは約8kgあります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。



- ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたり、すべて落としたりして、ケガの原因となります。



- ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとケガ・故障の原因となります。



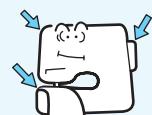
- お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・ケガの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」フリーダイヤル0120-340-233にご依頼ください。



- 取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ケガ・感電の原因となります。



- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、ブーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。



- リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべてのときにケガをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。



- 針と押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガをするおそれがあります。



- 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。





注意



- 針の下などに指を入れないでください。ケガをするおそれがあります。



- 上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。



- 万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。



- ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。



- お子様の玩具として使用しないでください。お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは、お子様がケガをしないよう十分注意してください。



- フットコントローラーの上に物を置かないでください。ケガ・故障の原因となります。



注意



- 刺しゅう機を取り付けたままミシンを移動させないでください。
刺しゅう機が落下してケガをするおそれがあります。



お願い

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
職業用として使用する場合の保証はいたしかねますのでご了承ください。
- 仕様および外観は、品質改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら「お客様相談室(ミシン119番)」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。

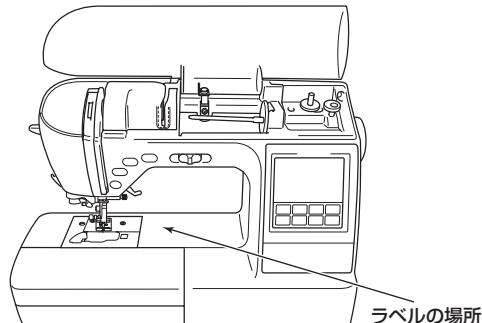
警告ラベルについて

ミシンには下記の警告ラベルが表示されています。

各警告ラベルの内容を十分理解し、記載事項を守って作業を行ってください。

また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。

万ーラベルがはがれていったり、読みとれなくなった場合は速やかに弊社にご連絡ください。



もくじ

安全にお使いいただくために	1
警告ラベルについて	6
はじめに	12
製品の特長	12
付属品を確認してください	13
付属品 (EMU18シリーズ／EMU19シリーズ共通)	13
付属品 (EMU18シリーズ)	16
付属品 (EMU19シリーズ)	17
付属品早見表	18
別売品 (EMU18シリーズ)	19
別売品 (EMU19シリーズ)	21
各部の名前とはたらき	23
前面	23
針・押え部分	24
右側面・背面	24
操作スイッチ	25
操作パネル	26
1 ぬう前の準備	27
電源を入れましょう	28
電源に関する注意	28
電源を入れる	29
電源を切る	29
液晶画面の操作	30
液晶画面の見方	30
ミシンの設定を確認・変更する	31
ミシンの使い方を確認する	33
糸をセットしましょう	35
下糸を巻く	35
下糸をセットする	41
上糸を通す	42
2本針を使う	46
下糸を引き出してからぬう	49
針を交換する	50
布地と針の種類による針の使い分け	50
針を交換する	51
押えを交換する	53
押えを交換する	53
押えホルダーを取り外す	55

筒ものや大きなものをぬう	56
フリーアームにする	56
エクストラテーブルを使う	56
ワイドテーブルを使う	57

2 ぬい方の基本 59

ぬってみましょう	60
ソーイングの手順	60
布地をセットする	61
ミシンをスタートさせる	61
返しぬい／止めぬいをする	64
糸を切る	65
ぬい目を調節する	67
模様の幅を調節する	67
ぬい目の長さを調節する	68
糸調子を調節する	68
便利な機能	70
自動で返しぬい／止めぬいをする	70
自動で糸を切る	71
模様を反転させる	72
模様の設定を記憶させる	72
上手にぬうコツ	74
試しぬいをする	74
ぬう方向を変える	74
カーブをぬう	74
押え圧を調節する	74
厚い布地をぬう	75
面ファスナー（マジックテープ [®] ）をぬう	76
薄い布地をぬう	76
伸びる布地をぬう	76
ビニールや皮をぬう	76
ぬいしろの幅をそろえる	77
ニーリフターを使う（EMU18シリーズのみ）	77

3 いろいろなぬい方 79

ぬい方を選びましょう	80
模様の種類	80
模様を選ぶ	81
ぬいしろを始末する	85
たち目かがり押え<G>を使ったたち目かがり	85
ジグザグ押え<J>を使ったたち目かがり	86
サイドカッター押え<S>を使ったたち目かがり	87
直線ぬいをする	89
しつけぬい	89
布をぬい合わせる	90

すそ上げをする	91
ボタン穴かがりをする／ボタンを付ける	94
ボタン穴かがりをする	95
ボタンを付ける	99
ファスナーを付ける	101
つき合わせ	101
片返し	103
伸びる布地やゴムテープをぬう	106
伸縮ぬい	106
ゴムテープ付け	107
アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう	108
アップリケ	109
パッチワーク（クレイジーキルト）	110
ピーシング	110
キルティング	111
フリーーションキルト	112
振幅コントロールを使ったサテンぬい	113
丈夫にしたいところをぬう	115
三重ぬい	115
かんどめ	116
つくろいぬい（ダーニング）	118
はとめ穴を作る	120
飾りぬいをする	121
ファゴティング	122
スカラップ	123
スモッキング	123
シェルタック	124
つき合わせ	125
ヘアルーム	126
いろいろな模様をぬう	129
模様をきれいにぬうには	129
模様のぬい方	129
模様を組み合わせる	130
模様をくり返しぬう	131
模様を確認する	131
模様の大きさを変える	132
模様の密度を変える	132
模様の長さを変える	133
模様を反転させる	134
模様を記憶させる	134
模様を調整する	136

4 刺しゅう 139

きれいに刺しゅうをするには	140
用意するもの	140
刺しゅうの手順	142
刺しゅう押え<Q>を取り付ける	143
刺しゅう押え<Q>を取り付ける	143
刺しゅう押え<Q>を取り外す	145
刺しゅう機を取り付ける	146
刺しゅう機を取り付ける	146
刺しゅう機を取り外す	148
布地を用意する	150
布地に接着芯を貼る	150
布地を刺しゅう枠に張る	151
刺しゅう枠を取り付ける	154
刺しゅう枠を取り付ける	154
刺しゅう枠を取り外す	155
刺しゅう模様を選びましょう	156
刺しゅう模様の種類	156
液晶画面の操作	157
文字模様を選ぶ	159
絵柄模様を選ぶ	162
枠模様を選ぶ	162
刺しゅうカードを使う	163
刺しゅうをしてみましょう	165
絵柄模様を刺しゅうする	165
アプリケをする	167
1. アップリケピースを作る	167
2. 土台の布地にアプリケの位置をぬう	168
3. アップリケピースを土台用の布地に貼り付ける	169
4. 残りのパーツをぬいあげる	169
こんなとき	170
レイアウトを調整する	170
糸調子を調節する	172
刺しゅうし直したいとき	172
途中で糸がなくなったとき	173
刺しゅうを中断するとき	173
模様の記憶機能を使う	176
刺しゅうデータに関する注意	176
USBフラッシュメモリーから模様を呼び出す	178
模様を記憶させる	181
模様を呼び出す	181

5 付録 183

お手入れ	184
注油に関して	184
ミシンを保管するときのご注意	184
本体表面の掃除	184
かまの掃除	184
困ったとき	186
よくあるご相談	186
上糸がつる	186
布裏で糸がからまる	187
糸調子が合わない	189
布がミシンに入り込んでとれなくなった	190
こんなときには	194
液晶画面のメッセージ表示	198
液晶画面に何も表示されないとき	201
電子音	201
アップグレードの方法	203
本体仕様	204
さくいん	205

はじめに

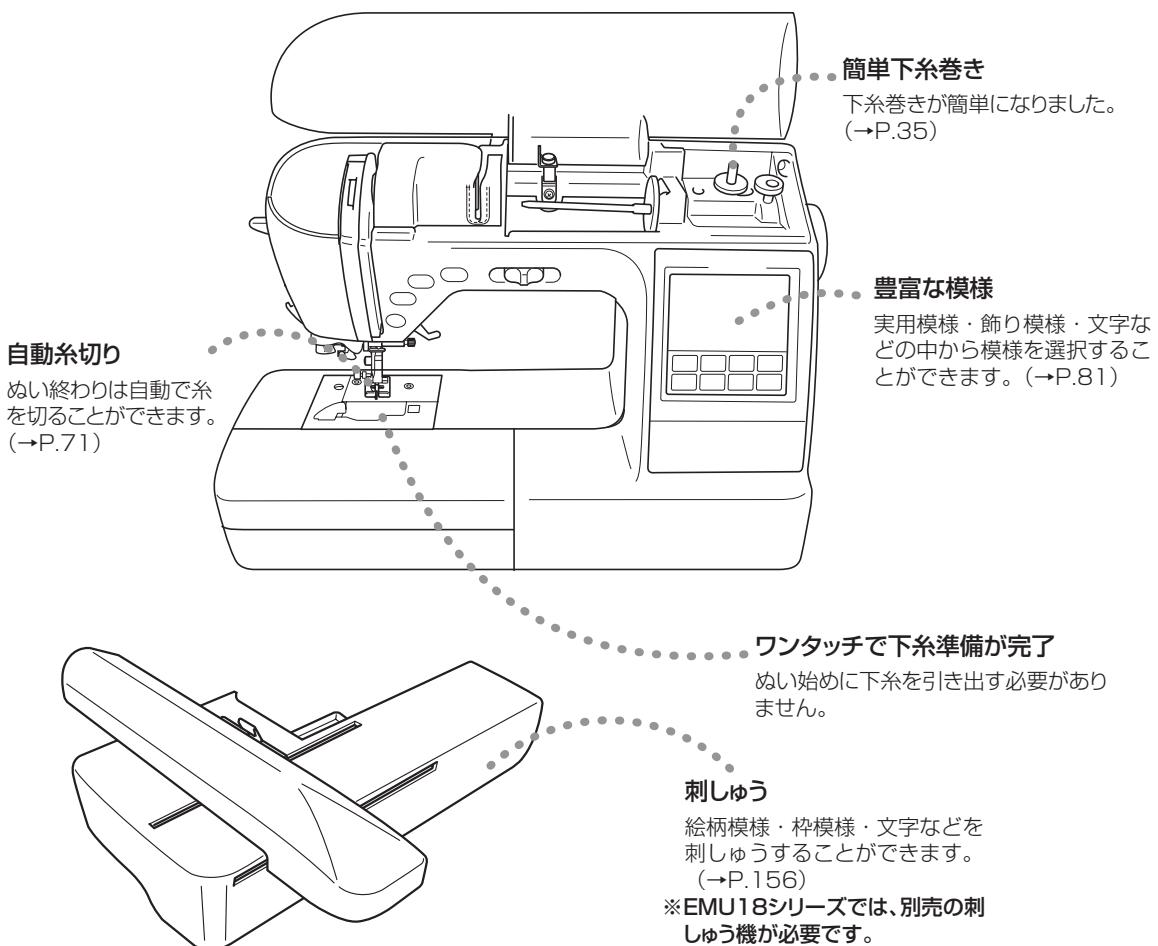
このたびは、本製品をお買い上げいただきまことにありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」(→P.1)をよくお読みいただき、この取扱説明書をご覧になり各機能の正しい使い方を十分にご理解の上、末永くご愛用ください。
また、取扱説明書は読み終わったあともいつでもご覧になれるところに保管してください。

製品の特長

この取扱説明書は、EMU18シリーズおよびEMU19シリーズ用です。お買い上げの製品に合わせて説明をお読みください。

EMU18シリーズ：実用模様・飾り模様・文字をぬうことができます。また、別売の刺しゅう機を使用すると、絵柄模様・枠模様・文字を刺しゅうすることもできます。

EMU19シリーズ：実用模様・飾り模様・文字をぬったり、絵柄模様・枠模様・文字を刺しゅうしたりすることができます。



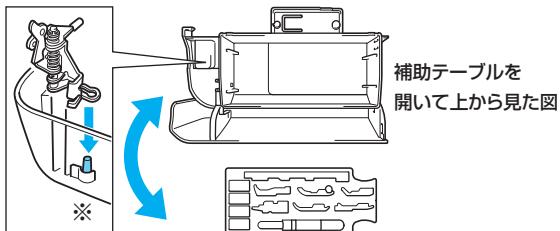
付属品を確認してください

箱を開けたら、お買い上げの製品に合わせて、まず次の付属品が揃っているか確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

付属品(EMU18シリーズ／EMU19シリーズ共通)

付属品トレイ

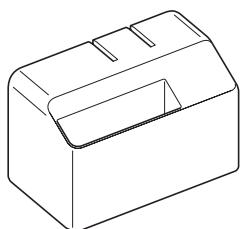
補助テーブル内にセットし、押え・リッパー・ボビンを収納します。



※ 刺しゅう押え <Q> は EMU18 シリーズには付属していません。

ハードケース

ミシンを使用しないときは、ケースをかぶせて収納してください。



フットコントローラー

ミシンを足で操作するときに使用します。



糸こま押え

上糸をセットするときに使用します。糸こまの大きさによって大／中／小を使い分けます。

購入時、糸こま押え（中）はミシンの糸たて棒にセットされています。



ドライバー

ミシン針を交換するときなどに使用します。



ネジ回し

針板カバーを開閉するときに使用します。



はとめ穴パンチ

はとめ穴をあけるときに使用します。



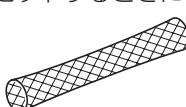
ミシンブラシ

かまなどの細かい部分のほこりを取り除くときに使用します。



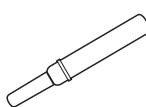
糸こまネット

張りが強い糸をセットするときに使用します。



リッパー

ぬい目をほどいたり、ボタン穴を切り開くときに使用します。



はさみ

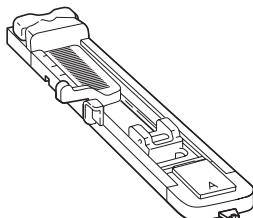
糸などを切ります。



押え

ぬい方に合った押えが用意されています。
詳細は、「押えを交換する」(→P.53)で説明します。

ボタン穴かがり押え<A>



たち目かがり押え<G>



片押え<I>



ジグザグ押え<J>

押え固定ピンが付いています。
※押え固定ピンは、厚い布地のぬい始めなど、段差があつて布地を送ることができないときに使用します。(→P.75)
※購入時は、ミシン本体の押えホルダーに取り付けられています。



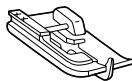
ボタン付け押え<M>



模様ぬい押え<N>



まつりぬい押え<R>



ボビン

下糸を巻いて使用します。本製品純正のボビンが4個付属されています。そのうちの1個は、購入時にかまにセットされています。



ミシン針 (HA × 1)

4種類(計6本)の針が付属されています。糸の太さや布地によって使い分けます。

- 詳細は、「布地と針の種類による針の使い分け」(→P.50)で説明します。

黄	#11(2本)
赤	#14(2本)
緑	#16(1本)
ニット用・金	#11(1本)

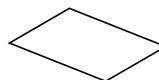
ぬい糸

実用ぬい用のミシン糸 #60 白です。
※ 刺しゅうには使用できません。



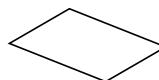
布地ブロード

薄地をぬうときの試しづらいに使用します。



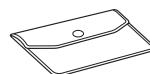
サンフェロン

フェルトに接着芯を貼ったものです。刺しゅうの試しづらいに使用します。



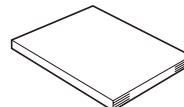
付属品バック

付属品を収納します。



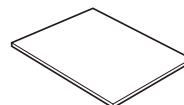
取扱説明書

本書です。大切に保管してください。



模様一覧

模様のサンプルが確認できます。



かんたん操作ガイド

下糸・上糸のセットが確認できます。



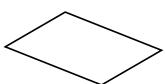
取扱説明 DVD

ミシンの基本的な使い方を DVD で紹介しています。



保証書

ミシンを修理するときなどに必要です。大切に保管してください。

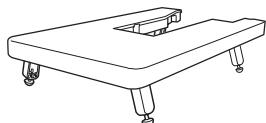


付属品(EMU18シリーズ)

EMU18シリーズ／EMU19シリーズ共通の付属品(→P.13)の他に、EMU18シリーズには、次の部品が付属されています。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ワイドテーブル

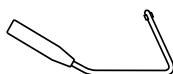
大きな作品をぬうときに、作業スペースを広げるために使用します。



ニーリフター

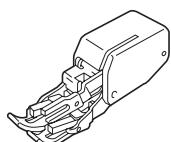
ひざで押えを上げ下げするときに使用します。ワイドテーブルの裏面に取り付けて収納します。

※ 購入時は、ワイドテーブルの裏面に取り付けられています。



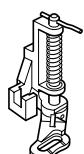
ウォーキングフット

ビニールや皮など、ぬいにくいくらいの布地やぬいぐるしやすい布地をぬうときに使用します。



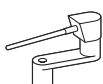
キルト押え

フリーモーションキルトをするときに使用します。



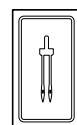
補助糸たて棒

2本針でぬうときに使用します。



2本針

2色の糸を同時に使用して、並行に模様をぬうときに使用します。

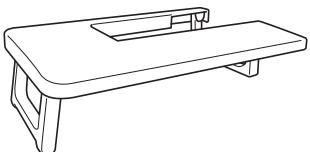


付属品(EMU19シリーズ)

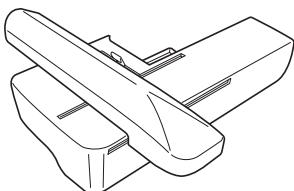
EMU18シリーズ／EMU19シリーズ共通の付属品(→P.13)の他に、EMU19シリーズには、次の部品が付属されています。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

エクストラテーブル

大きなものをぬうときに、作業スペースを広げるために使用します。

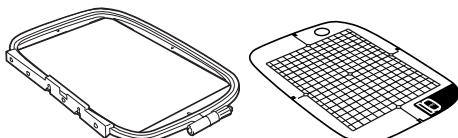


刺しゅう機



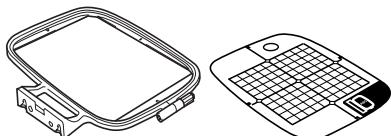
刺しゅう枠・刺しゅうシート [L]

縦 18cm × 横 13cm までの範囲で刺しゅうができます。



刺しゅう枠・刺しゅうシート [M]

縦 10cm × 横 10cm までの範囲で刺しゅうができます。



刺しゅう押え <Q>



かんたん操作ガイド (刺しゅう)

刺しゅうの準備の手順が確認できます。



付属品早見表

部品名	EMU18シリーズ	EMU19シリーズ
ハードケース	●	●
エクストラテーブル	△	●
ワイドテーブル	●	△
フットコントローラー	●	●
糸こま押え【大】【中】【小】	●	●
ドライバー	●	●
ネジ回し	●	●
はとめ穴パンチ	●	●
ミシンブラシ	●	●
糸こまネット	●	●
リッパー	●	●
はさみ	●	●
ボビン	●	●
ぬい糸	●	●
付属品トレイ	●	●
付属品パック	●	●
補助糸たて棒	●	△
キルター	△	△
ニーリフター	●	—
刺しゅう機	△*	●
取扱説明書	●	●
模様一覧	●	●
かんたん操作ガイド	●	●
かんたん操作ガイド(刺しゅう)	△*	●
取扱説明DVD	●	●
保証書	●	●
押え		
ボタン穴かがり押え<A>	●	●
たち目かがり押え<G>	●	●
片押え<I>	●	●
ジグザグ押え<J>	●	●
ボタン付け押え<M>	●	●
模様ぬい押え<N>	●	●
まつりぬい押え<R>	●	●
刺しゅう押え<Q>	△*	●
ウォーキングフット	●	△
キルト押え	●	△
ガイド付まつりぬい押え	△	△
サイドカッター押え	△	△
針		
ミシン針(HA×1)	●	●
2本針	●	△
ウイングニードル	△	△
刺しゅう糸		
ウルトラボス39色セット	△	△
ウルトラボス23色セット	△	△
ウルトラボス22色セット	△	△
カントリー糸40色セット	△	△
カントリー糸21色セット	△	△
刺しゅう専用下糸500m巻き	△	△
刺しゅう専用下糸1300m巻き	△	△
接着芯		
刺しゅう用接着芯	△	△
刺しゅう用水溶性シート	△	△
その他の刺しゅう用品		
刺しゅう枠・刺しゅうシート【LL】	△	△
刺しゅう枠・刺しゅうシート【L】	△*	●
刺しゅう枠・刺しゅうシート【M】	△*	●
刺しゅう枠・刺しゅうシート【S】	△	△
布地プロード	●	●
サンフェロン	●	●
刺しゅうカード	△	△

●:付属品 △:別売品 —:使用できません

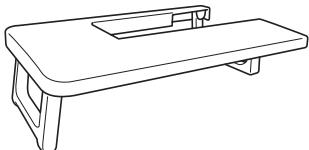
*別売刺しゅう機セットに同梱されています。

別売品(EMU18シリーズ)

EMU18シリーズには、別売品として次の製品を用意しています。お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にお問い合わせください。

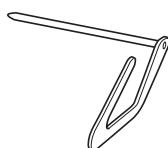
エクストラテーブル

大きなものをぬうときに、作業スペースを広げるために使用します。(モデル: EXT1)



キルター

ウォーキングフットや押えホルダーのキルター用の穴に差し込んで使用します。キルティングをするときに、ぬい目を等間隔にそろえてぬうことができます。(モデル: F016N)



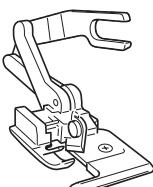
ガイド付まつりぬい押え

ガイドを布端に合わせて調節し、一定の幅のぬいしろでぬうことができます。(モデル: F017N)



サイドカッター押え

布端を切りながら、たち目かがりなどをするときに使用します。(モデル: F054)

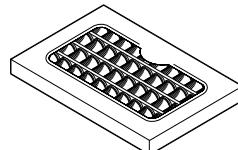


ウィングニードル

針穴を大きく開けてレース風の飾り模様をぬうときに使用します。(モデル: WN001)



刺しゅう糸



ウルトラポス 39色セット
(モデル: ETS39)

ウルトラポス 23色セット
(モデル: ETS23)

ウルトラポス 22色セット
(モデル: ETS22)

カントリー糸 40色セット
(モデル: CTS40)

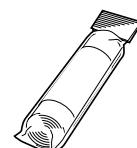
カントリー糸 21色セット
(モデル: CTS21)

刺しゅう専用下糸 500m巻き
(モデル: EBTO1)

刺しゅう専用下糸 1300m巻き
(モデル: EBTO2)

刺しゅう用接着芯

刺しゅうする布地の裏にアイロンで貼ります。
(モデル: BM3)



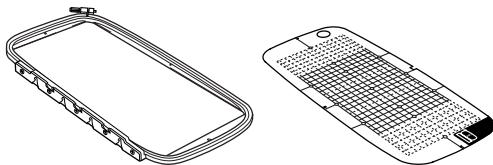
刺しゅう用水溶性シート

薄手の布地やタオルなどの起毛した布地に刺しゅうをするときに使用します。洗濯するとシートが溶けます。(モデル: BM4)



刺しゅう枠・刺しゅうシート [LL]

縦 30cm × 横 13cm までの範囲で刺しゅうができます。組み合わせ模様や大きな模様を刺しゅうするときに使用します。(モデル : EF85)



刺しゅう枠・刺しゅうシート [S]

小さい布地を張るときに使用します。縦 2cm × 横 6cm までの刺しゅうができます。(モデル : EF82)



刺しゅうカード

刺しゅう模様が内蔵されているカードです。ミシン本体の刺しゅうカード差し込み口に差し込んで使用します。テーマ別にいろいろなカードがあります。

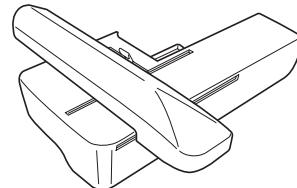
※ 外国で販売されている刺しゅうカードは使用できません。



別売刺しゅう機セット

次の部品が同梱されています。
(モデル : ES150)

刺しゅう機



USBケーブル

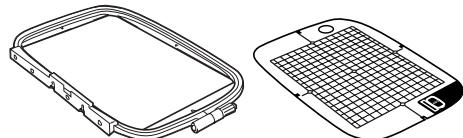
※ EMU18 シリーズでは USB ケーブルは使用しません。



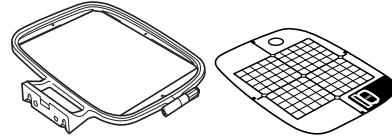
刺しゅう押え<Q>



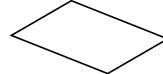
刺しゅう枠・刺しゅうシート [L]



刺しゅう枠・刺しゅうシート [M]



取扱説明書



かんたん操作ガイド (刺しゅう)

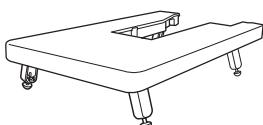


別売品(EMU19シリーズ)

EMU19シリーズには、別売品として次の製品を用意しています。お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にお問い合わせください。

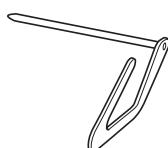
ワイドテーブル

大きな作品をぬうときに、作業スペースを広げるために使用します。(モデル: WT5)



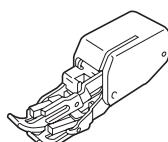
キルター

ウォーキングフットや押えホルダーのキルター用の穴に差し込んで使用します。キルティングをするときに、ぬい目を等間隔にそろえてぬうことができます。(モデル: F016N)



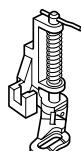
ウォーキングフット

ビニールや皮など、ぬいにくい布地やぬいはずしやすい布地をぬうときに使用します。(モデル: F033)



キルト押え

フリーモーションキルトをするときに使用します。(モデル: F005N)



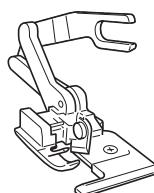
ガイド付まつりぬい押え

押えのガイドを布端に合わせて調節し、一定の幅のぬいしろでぬうことができます。(モデル: F017N)



サイドカッターパターン

布端を切りながら、たち目かぎりなどをするときに使用します。(モデル: F054)



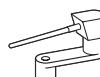
ウイングニードル

針穴を大きく開けてレース風の飾り模様をぬうときに使用します。(モデル: WN001)



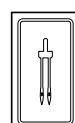
補助糸たて棒

2本針でぬうときに使用します。(部品コード: XC4654-151)

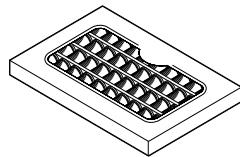


2本針

2色の糸を同時に使用して、並行に模様をぬうときに使用します。(部品コード: X59296-121)



刺しゅう糸



ウルトラポス 39 色セット

(モデル : ETS39)

ウルトラポス 23 色セット

(モデル : ETS23)

ウルトラポス 22 色セット

(モデル : ETS22)

カントリー糸 40 色セット

(モデル : CTS40)

カントリー糸 21 色セット

(モデル : CTS21)

刺しゅう専用下糸 500m 巻き

(モデル : EBT01)

刺しゅう専用下糸 1300m 巻き

(モデル : EBT02)

刺しゅう用接着芯

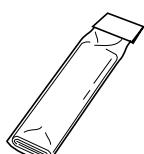
刺しゅうする布地の裏にアイロンで貼ります。

(モデル : BM3)



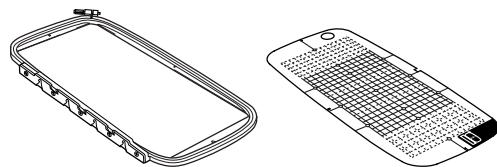
刺しゅう用水溶性シート

薄手の布地やタオルなどの起毛した布地に刺しゅうをするときに使用します。洗濯するとシートが溶けます。(モデル : BM4)



刺しゅう枠・刺しゅうシート [LL]

縦 30cm × 横 13cm までの範囲で刺しゅうができます。組み合わせ模様や大きな模様を刺しゅうするときに使用します。(モデル : EF85)



刺しゅう枠・刺しゅうシート [S]

小さい布地を張るときに使用します。縦 2cm × 横 6cm までの刺しゅうができます。(モデル : EF82)



刺しゅうカード

刺しゅう模様が内蔵されているカードです。ミシン本体の刺しゅうカード差し込み口に差し込んで使用します。テーマ別にいろいろなカードがあります。

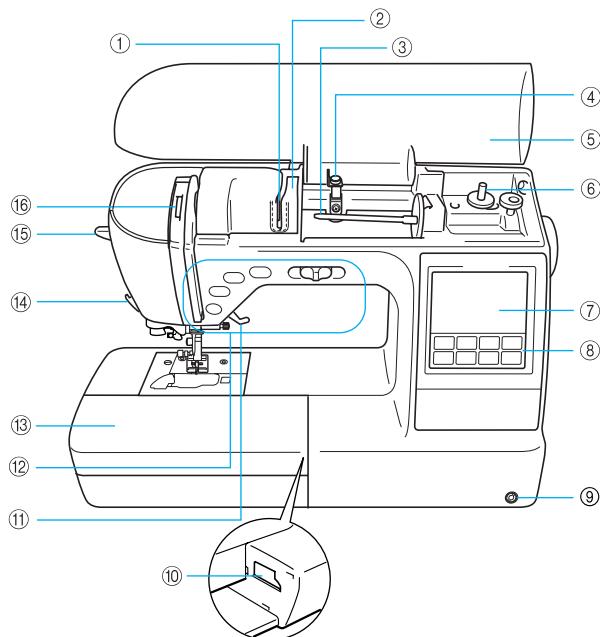
※ 外国で販売されている刺しゅうカードは使用できません。



各部の名前とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名前とはたらきを説明します。ミシンを使用する前に、よく読んで名前を覚えておきましょう。

前面



①糸案内板

上糸を通すときに糸をかけます。

②糸案内カバー

上糸を通すときに糸をかけます。

③糸たて棒

糸こまを差し込みます。

④下糸巻き案内

下糸を巻くときに糸をかけます。

⑤上ふた

上糸を通すときや下糸を巻くときに開けます。

⑥下糸巻き装置

下糸をボビンに巻くときに使用します。

⑦液晶画面

選択した模様の設定値やメッセージが表示されます。

⑧操作パネル

模様を選択したり、ミシンの使い方を確認したりします。
(→P.26)

⑨ニーリフター差し込み口(EMU18シリーズのみ)

ニーリフターを差し込みます。

*ニーリフターは、EMU19シリーズには使用できません。

⑩刺しゅう機差し込み口

刺しゅう機のコネクターを差し込みます。

*刺しゅう機は、EMU18シリーズでは別売品です。

⑪押えレバー

押えを上げ下げします。

⑫操作スイッチとスピードコントロールレバー

ミシンをスタートさせるときや針を上げ下げするときなど、ミシンのさまざまな操作に使用します。(→P.25)

⑬補助テーブル

中に抑えやボビンなどを収納します。そこで口などの筒ものを持ったときには取り外します。

⑭糸切り

ぬい終わったときに、糸を引っかけて切れます。

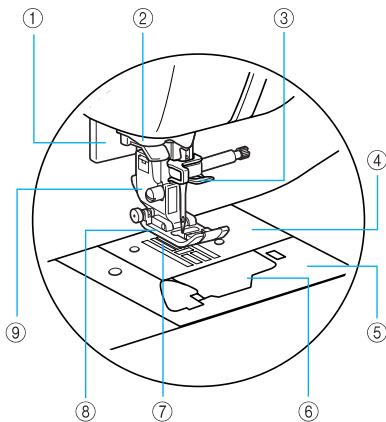
⑮糸通しレバー

針穴に糸を通すときに使用します。

⑯てんびん確認窓

てんびんの位置を確認します。

針・押え部分



① ボタン穴かがりレバー

ボタン穴かがりやかんどめをするときに使用します。

② 糸案内皿

糸穴に糸を通すときに糸をかけます。

③ 針棒糸かけ

上糸をかけます。

④ 針板

まっすぐにぬうための目盛りが付いています。

⑤ 針板カバー

かまの掃除をするときに取り外します。

⑥ 針板ふた

下糸をセットするときに開けます。

⑦ 送り歯

ぬう方向に布地を送ります。

⑧ 押え

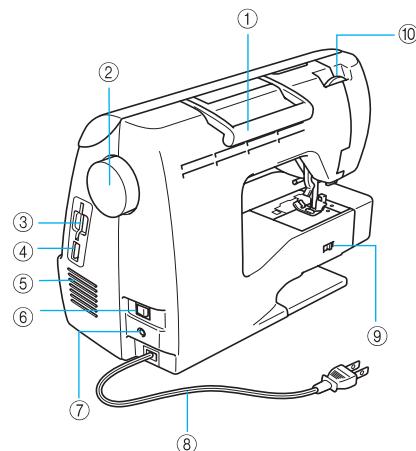
布地を押さえます。付属の押えの中からぬい方に合った押えを使用します。

※付属の押えは、EMU18シリーズでは9種類、EMU19シリーズでは8種類です。

⑨ 押えホルダー

押えを取り付けます。

右側面・背面



① ハンドル

ミシンの持ち運びに使用します。

② ブーリー

ぬい目を1針ずつ送ったり、針を上げ下げするときに手前に回します。

③ 刺しゅうカード差し込み口

別売の刺しゅうカードを差し込みます。

④ USBポートコネクター(USBフラッシュメモリー(USBフラッシュドライブ)専用)

USBフラッシュメモリー(USBフラッシュドライブ)に保存された刺しゅう模様データをミシンに取り込むとき、USBフラッシュメモリーをここに差し込みます。

⑤ 換気口

モーターの換気用の穴です。ミシンを設置するときは、ここをふさがないようにしてください。

⑥ 電源スイッチ

電源を入れるときと切るときに押します。

⑦ フットコントローラージャック

フットコントローラーのプラグを差し込みます。

⑧ 電源コード

家庭用電源コンセント(AC100V)に接続します。

⑨ ドロップレバー

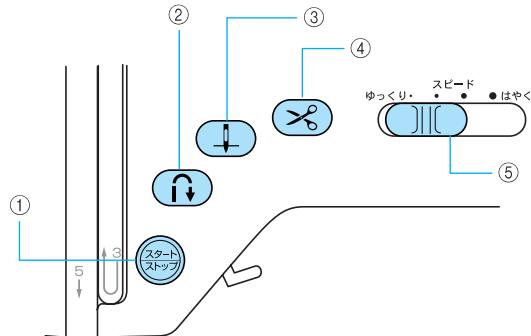
送り歯を下げるときに使用します。

⑩ 押え圧ダイヤル

押え圧を調節します。

操作スイッチ

操作スイッチで、ミシンの基本的な操作が簡単に行えます。



①スタート／ストップスイッチ (スタート/ストップ)

ミシンをスタートさせるときとストップさせるときに押します。ぬい始めとスイッチを押している間はゆっくりとぬいます。購入時は、針が下がった（布地に刺さった）状態でストップするように設定されています。詳細は、「ミシンをスタートさせる」（→P.61）で説明します。スイッチはミシンの状態によって色が変わります。

緑：スタートできる状態のとき／縫製中

赤：スタートできない状態のとき

橙：下糸を巻いているとき／下糸巻き軸が右側に入っているとき

②返しひいスイッチ (②)

ぬい始めやぬい終わりの、返しひいまたは止めぬいをするときに押します。返しひいの場合は、スイッチを押ししている間逆方向にぬいます。止めぬいの場合は、スイッチを押したままにすると、同じ場所で3~5針重ねてぬつて止まります。詳細は、「返しひい／止めぬいをする」（→P.64）で説明します。

③針上下スイッチ (④)

針を上げ下げするときに押します。ぬい方向を変えるときや細かいところをぬうときに使用します。また、繰り返し押すと、1針ずつぬうことができます。

④糸切りスイッチ (ⓧ)

ぬい終わりに、上糸と下糸を自動的に切るときに押します。詳細は、「糸を切る」（→P.65）で説明します。

⑤スピードコントロールレバー

ぬう速度を調節するときに使用します。左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。

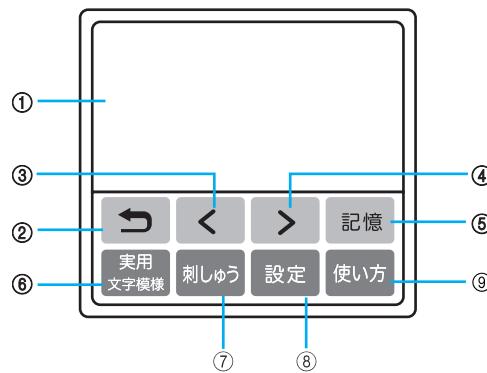
注意



- 糸を切った後に糸切りスイッチを押さないでください。針が折れたり糸がからんだりするおそれがあります。また、故障の原因になります。

操作パネル

前面の操作パネルで、模様を選択したり設定したりすることができます。



① 液晶画面

選択した模様の設定値やメッセージが表示されます。液晶画面に表示されるキーを指で押して操作します。詳細は、「液晶画面の操作」(→P.30)で説明します。

② 戻るキー



液晶画面の表示を1つ前に戻すときに押します。

③ 前ページキー



液晶画面に表示されていない項目があるときに、前の画面を表示します。

④ 次ページキー



液晶画面に表示されていない項目があるときに、次の画面を表示します。

⑤ 記憶キー



組み合わせ模様や文字模様をミシンに記憶させるときに押します。

⑥ 実用／文字模様キー



直線ぬい、ジグザグ、ボタン穴かがり、まつりぬいなどの実用ぬいをするときや、文字やサテンステッチ、クロスステッチなどの模様をぬうときに押します。

⑦ 刺しゅうキー



刺しゅうをするときに押します。

※EMU18シリーズでは、別売の刺しゅう機が必要です。

⑧ 設定キー



針停止位置やブザー音などの設定を変更するときに押します。

⑨ 使い方キー



ミシンの使い方を確認するときに押します。上糸セット・下糸巻き・下糸セット・針交換・刺しゅう機取り付け／取り外し・刺しゅう枠取り付け／取り外し・刺しゅう押え取り付け・押え交換についての簡単な説明が表示されます。



1 むう前の準備

ここでは、むう前に必要な準備を説明します。

電源を入れましょう	28
液晶画面の操作.....	30
糸をセットしましょう	35
針を交換する	50
押えを交換する	53
筒ものや大きなものをむう	56

電源を入れましょう

ミシンの電源を入れます。

電源に関する注意

電源について気をつけなければいけないことを説明します。



警告



- 一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
 - ミシンのそばを離れるとき
 - ミシンを使用したあと
 - 使用中に停電したとき
 - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
 - 雷が鳴りはじめたとき
- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。



注意

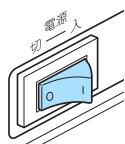


- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。
- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

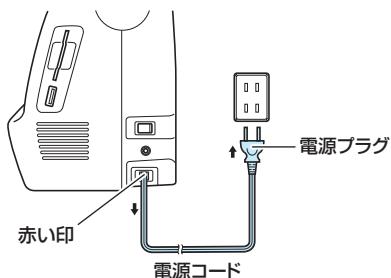
電源を入れる

ミシンの電源を入れます。

- 1 電源スイッチが「切」になっていることを確認します。



- 2 電源コードを引き出し、電源プラグを家庭用電源コンセント (AC100V) に差し込みます。



お願い

- 電源コードは、赤い印以上引き出さないでください。

- 3 ミシン本体右側面の電源スイッチの右側（I側）を押して「入」にします。



- ▶ 電源が入り、ランプと液晶画面、(スタート/ストップスイッチ) が点灯します。

お知らせ

- 電源が入ると針や送り歯が動く音がしますが、故障ではありません。

電源を切る

ミシンを使い終わったら、電源を切れます。また、ミシンを移動させるときは、必ず電源を切ってください。

- 1 ミシンが動いていないことを確認します。

- 2 ミシン本体右側面の電源スイッチの左側（○側）を押して「切」にします。



- ▶ 電源が切れ、ランプと液晶画面、(スタート/ストップスイッチ) が消灯します。

- 3 電源プラグをコンセントから抜きます。

電源プラグを持って抜いてください。

- 4 電源コードを少し引っ張って手を離し、収納します。

お願い

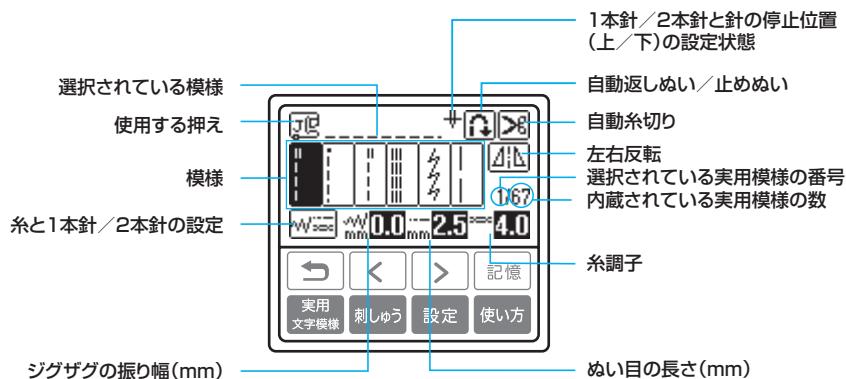
- 使用中に停電が発生したときは、電源を切ってから電源プラグを抜いてください。次に電源を入れるときは、手順に従って正しく操作してください。

液晶画面の操作

ミシン本体前面の液晶画面には、選択した模様の設定値やメッセージが表示されます。液晶画面下の操作キーを押して表示を切り替えて、直接指で液晶画面に触れて操作します。操作キーについては、「操作パネル」（→P.26）を参照してください。

液晶画面の見方

電源を入れると液晶画面が点灯し、次の実用模様の選択画面が表示されます。



お知らせ

- 模様グループの選択画面を表示させるときは、[実用文字模様] を押します。詳細は、「模様の種類」（→P.80）で説明します。
- 刺しゅう機が取り付けられているときは、他の画面が表示されます。詳細は、「刺しゅう模様の種類」（→P.156）で説明します。
※刺しゅう機は、EMU18シリーズでは別売品です。
- 液晶画面に表示されるメッセージについては、「液晶画面のメッセージ表示」（→P.198）を参照してください。
- 機種によっては、電源を入れるとアニメーションが表示されます。アニメーションが表示されているときは、指で液晶画面に触れると上記の画面が表示されます。

ミシンの設定を確認・変更する

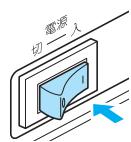
ミシンの機能やぬい方など、設定画面に表示される以下の項目を確認・変更することができます。操作のしかたは次ページで説明します。

項目	表示	内容	設定
針位置		ミシンがストップしたときの針の停止位置を切り替えます。	下 上
振幅コントロール		スピードコントロールレバーでジグザグの振り幅を調節できるように設定します。(→ P.113)	
模様調整(たて)		模様がくずれたときに、模様を上下方向に調整します。	- 9 ~ + 9
糸色表示		刺しゅうの色替の糸色表示を切り替えます。(→ P.157)	ブラザー刺しゅう糸番号／カントリー糸番号／ぬい時間／針数／糸色名
刺しゅう糸調子		刺しゅうのときの糸調子を調節します。	- 8 ~ + 8
刺しゅう最高速度		刺しゅうのときの最高速度を切り替えます。	速く ゆっくり
ブザー		操作音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。(→ P.201)	
オープニング画面		電源を入れたときのオープニング画面を表示するかしないかを設定します。 ● 設定できない機種もあります。	
基線切り替え		電源を入れたときに自動的に選択される直線模様を切り替えます。	左基線 中基線
言語		液晶画面に表示される言語を設定します。	日本語 / ENGLISH / DEUTSCH / FRANÇAIS / ITALIANO / NEDERLANDS / ESPAÑOL / PORTUGUÉS / OTHERS
画面調整		液晶画面の明るさを調整します。	明 暗
プロダクトNO.	—	ミシンのプロダクトナンバーを示します。	—
バージョン	—	ミシンにインストールされているプログラムのバージョンを示します。	—

お知らせ

- 上記の反転表示は購入時の初期設定です。

1 電源を入れます。



▶ 液晶画面が点灯します。

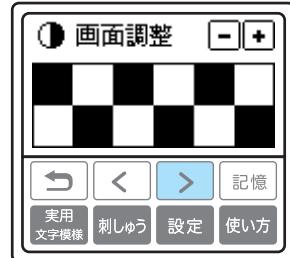
2 操作パネルの **[設定]** (設定キー) を押します。



▶ 設定画面が表示されます。

3 設定を確認・変更します。

[<](前ページキー) **[>]**(次ページキー)で画面を切り替えます。



[例] 針位置を上に変更する場合



- 4 終わったら、 (戻るキー) を押します。



△ もとの画面に戻ります。

お知らせ

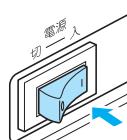
- 「プロダクトNO.」は、ミシン固有の番号です。
- 「バージョン」はミシンにインストールされているプログラムのバージョンです。アップグレードについては、お近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」（フリーダイヤル0120-340-233）にお問い合わせいただくか、ブラザー工業のホームページ（<http://solutions.brother.co.jp/>）で今後掲載される情報を参照してください。
- 変更した設定は、電源を切ってももとに戻りません。

ミシンの使い方を確認する

次の項目については、簡単な説明を液晶画面に表示させて確認することができます。

上糸セット・下糸巻き・下糸セット・針交換・刺しゅう機取り付け／取り外し・刺しゅう枠取り付け／取り外し・刺しゅう押え取り付け・押え交換

- 1 電源を入れます。



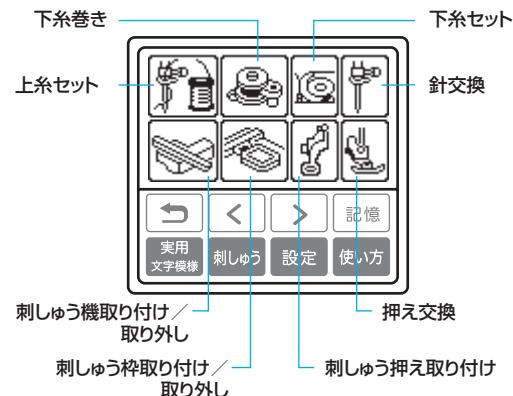
△ 液晶画面が点灯します。

- 2 操作パネルの (使い方キー) を押します。



△ 項目の選択画面が表示されます。

- 3 説明を表示させる項目のキーを押します。



△ 最初の説明画面が表示されます。

お知らせ

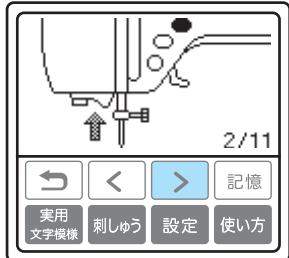
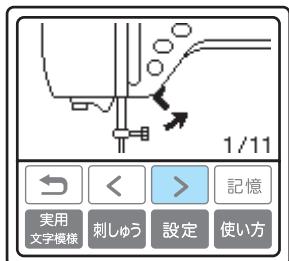
- EMU18シリーズで刺しゅうをする場合は、別売の刺しゅう機が必要です。

- 4** ▶ (次ページキー) を押して、次の画面に切り替えます。

◀ (前ページキー)を押すと、前の画面に戻ります。

➡ (戻るキー)を押すと、項目の選択画面に戻ります。

[例] 上糸セットを押した場合



⋮
⋮



- 5** 終わったら、➡ (戻るキー) を押します。



▶ もとの画面に戻ります。

お知らせ

- 各項目についての詳細は、本取扱説明書で説明します。

糸をセットしましょう

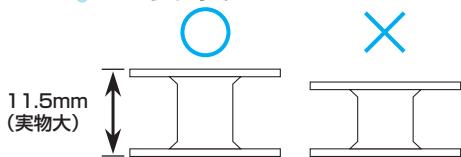
下糸用の糸を巻いたボビンをセットしたあと、上糸用の糸を通します。

下糸を巻く

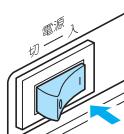
下糸用の糸をボビンに巻きます。糸こまとボビンを用意します。

注意

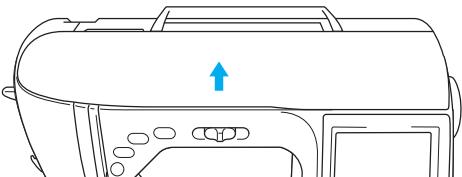
- 付属のボビンは本製品純正のものです。必ず付属品または純正ボビンを使用してください。他のボビンを使用すると、ケガや故障の原因となります。



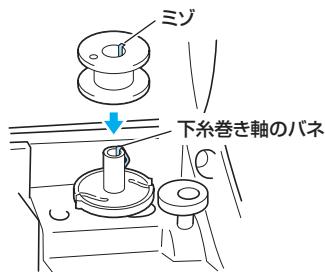
1 電源を入れます。



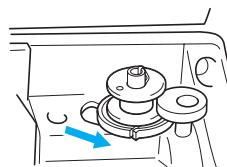
2 上ふたを開けます。



3 ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせて、ボビンを下糸巻き軸に差し込みます。

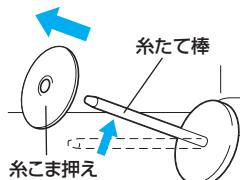


4 ボビンを右側へカチッと音がするまで押します。



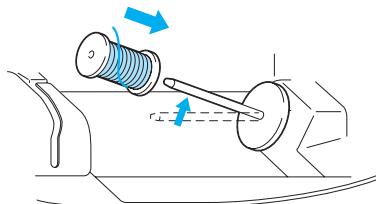
▶ (スタート/ストップスイッチ) が橙に点灯します。

5 糸たて棒を起こし、糸たて棒から糸こま抑えを抜きます。



6 下糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。

糸が手前から出るように差し込みます。

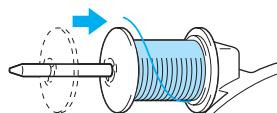


お知らせ

- 刺しゅうをするときは、ブラザーニードル専用下糸を使用してください。
※EMU18シリーズでは、別売の刺しゅう機が必要です。

7 糸こま抑えを糸たて棒に差し込み、糸たて棒をもとの平行の位置に戻します。

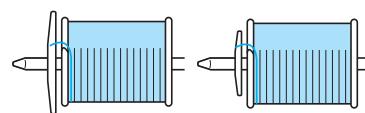
糸こま抑えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。



注意

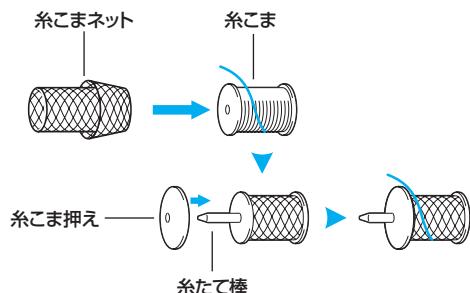


- 糸こまや糸こま抑えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや針折れの原因となります。
- 糸こま抑えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまの直径より小さい糸こま抑えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。



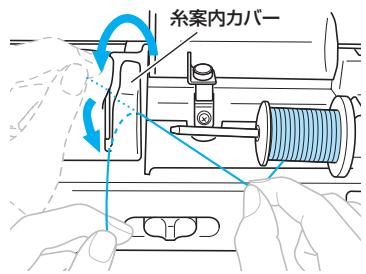
お願い

- ナイロン透明糸やメタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、付属の糸こまネットを糸こまに付けてから糸たて棒にセットしてください。ネットが長い場合は、糸こまの大きさに合わせて折って使用します。
糸こまネットを使用すると、上糸の調子が強くなることがあります。ぬい始める前に、糸調子を確認してください。「糸調子を調節する」(→P.68)を参照してください。

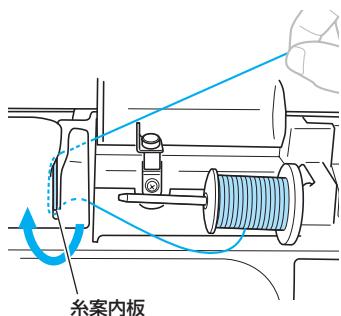


8 糸を糸案内カバーの奥から手前へかけます。

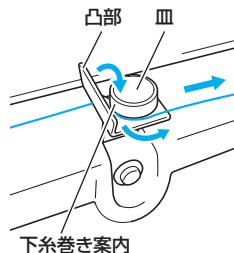
引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



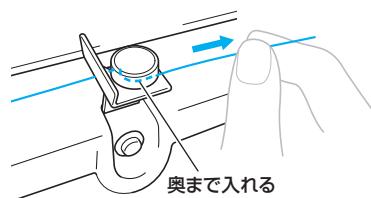
9 糸案内板の下から上へ糸をかけます。



10 下糸巻き案内の凸部の下から糸をかけて、皿の下に通します。

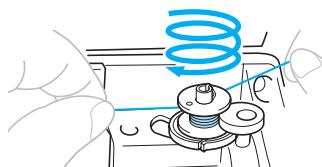


糸が皿の下に確実に通っていることを確認してください。



11 糸を時計まわりに4~5回ボビンに巻きつけます。

引き出した糸がたるまないように左手で持ち、右手で糸端をボビンに巻きつけます。

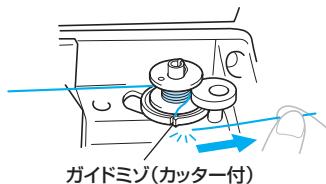


注意



- 糸は、必ずピンと張った状態で時計回りに巻いてください。逆方向へ巻くと、下糸巻き軸に糸が巻きつくことがあります。

- 12** 糸端をボビン受け座のガイドミゾに引っかけて右へ引き、カッターで糸を切ります。



お知らせ

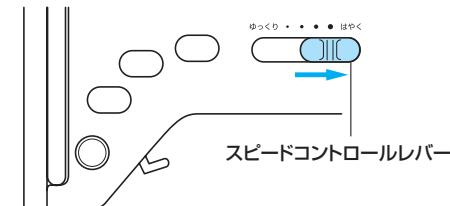
- カッターで糸を切ると糸の端がガイドミゾに固定されるため、下糸をきれいに巻くことができます。



注意

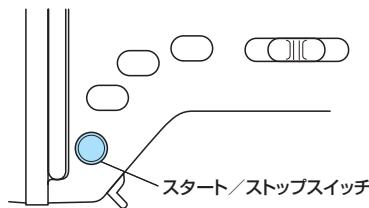
- 必ずガイドミゾのカッターで糸を切ってください。正しく糸を切らずに下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 13** スピードコントロールレバーを右側(はやく)へ動かします。



- 14** (スタート/ストップスイッチ)を1回押します。

フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーを踏みます。



- ▶ ボビンが回転して下糸巻きがスタートし、液晶画面に「下糸巻き中」と表示されます。



お知らせ

- (スタート/ストップスイッチ)を押しても下糸巻きがスタートしないときは、液晶画面にアニメーションが表示されています。指で液晶画面に触れてから、もう1回(スタート/ストップスイッチ)を押してください。

- 15** ボビンの回転がゆっくりになったら、

- (スタート/ストップスイッチ)を1回押します。

フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーから足を離します。

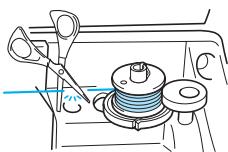
- ▶ 下糸巻きがストップします。



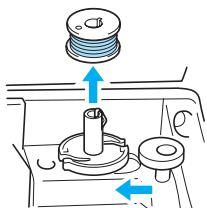
注意

- ボビンの回転がゆっくりになったら、必ず下糸巻きをストップさせてください。無理に続けると故障の原因となります。

16 巻き終わりの糸をはさみで切れます。



17 ボビンを左側へ戻し、下糸巻き軸からボビンを抜きます。



お知らせ

- 下糸巻き軸が右側に押された状態のときは、針は動きません（縫製できません）。

18 糸こま抑えと糸こまを抜きます。

19 上ふたを閉めて、スピードコントローラレバーを左側（ゆっくり）へ戻します。

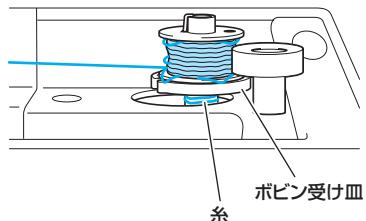
お知らせ

- 下糸を巻いたあとにミシンをスタートさせたりブーリーを回したりすると、ガチャッという音がすることがあります。故障ではありません。

■ ボビン受け座の下に糸がからまってしまったら

糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ボビン受け座の下に糸が巻かれてしまうことがあります。

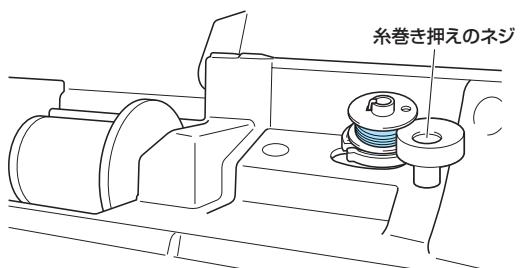
そうなった場合は、以下の手順に従ってボビン受け座の下に巻かれた糸をほどいてください。



注意

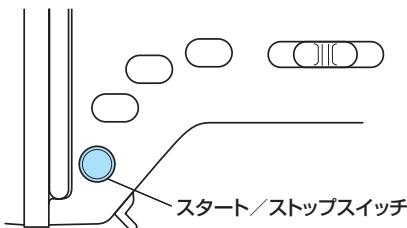


- ボビン受け座の下に糸が巻かれても、ボビン受け座は外さないでください。受け座のカッターでケガをするおそれがあります。
- 糸巻き押さえのネジをゆるめたり、外したりしないでください。ミシン故障の原因となります。ネジを外しても、からまつた糸をほどくことはできません。

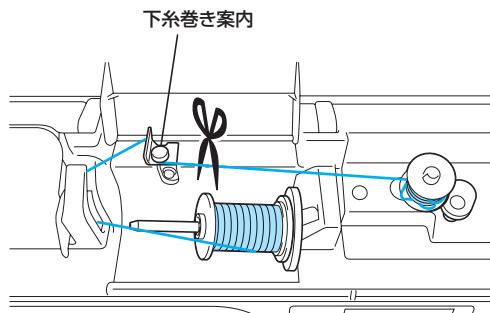


- 1** ボビン受け座の下に下糸がからまり始めたら、 (スタート/ストップスイッチ) を押して、下糸巻きをストップします。

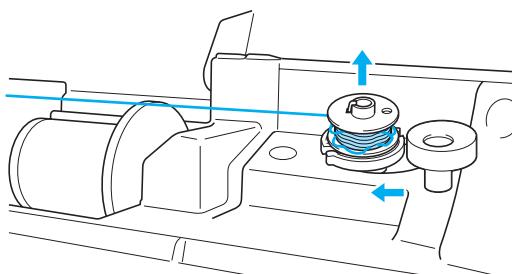
フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーから足を離します。



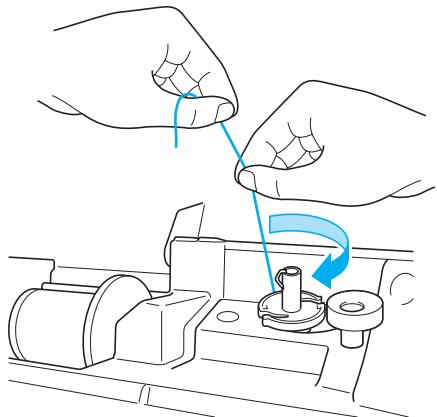
- 2** 下糸巻き案内側で、はさみで糸を切ります。



- 3** 下糸巻き軸を左へ戻し、ボビンを軸から外します。



- 4** 図のように左手で糸端を持ち、右手でボビン近くの糸をゆっくりと時計回りに回して、からまった糸をほどきます。



- 5** 下糸巻きをやり直します。

お願い

- 糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていることを確認してください。 (→P.37)

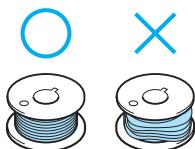
下糸をセットする

下糸を巻いたボビンをかまにセットします。

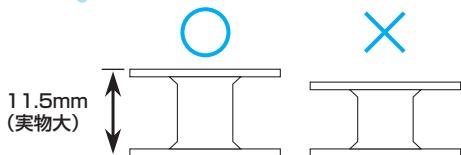
注意



- 必ず正しく巻かれた下糸を使用してください。巻き方が悪い下糸を使用すると、針折れや糸調子不良の原因となります。



- 付属のボビンは本製品純正のものです。必ず付属品または純正ボビンを使用してください。

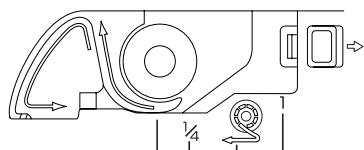


- 下糸をセットするときや交換するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。



お知らせ

- ボビンのセットのしかたは、針板カバーにも表示されています。

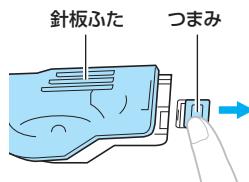


- (+) (針上下スイッチ) を押して針を上に上げ、押えレバーを上げます。

- 電源を切ります。

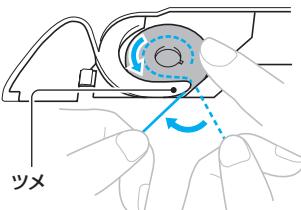
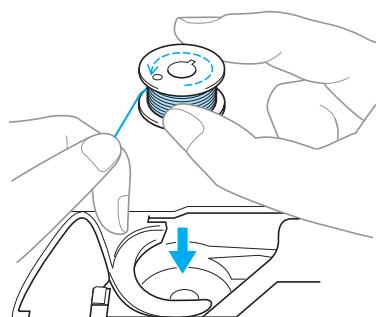


- 針板ふたの右側にあるつまみを右に動かし、針板ふたを取り外します。



▶ 針板ふたが開きます。

- 糸が左巻きになるように、右手でボビンをセットし、左手で巻き終わりの糸を図のようにしっかりとツメに引っかけた後、ミゾにそって糸を軽く引っ張ります。



!**注意**

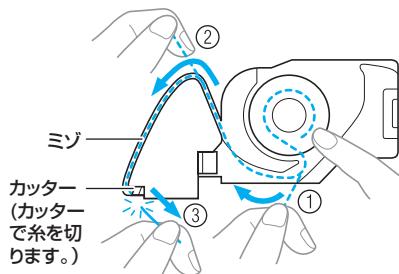


- ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

5 図のように、右手でボビンを軽く押えながら、ミゾにそって糸を通します。 (①、②)

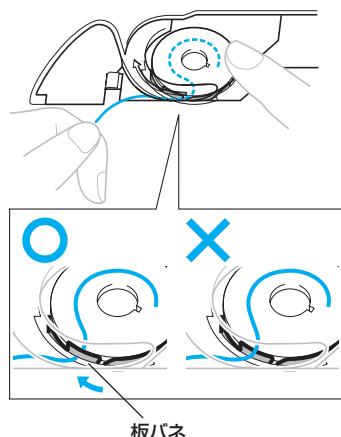
このとき、ボビンが左回りに軽く回ることを確認してください。

その後、手前に引きカッターで糸を切ります。(③)



お願い

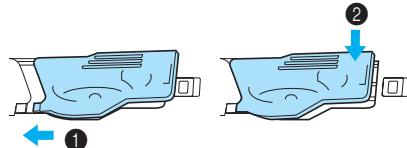
- 内かまの板バネの間に確実に糸が入っていないと、糸調子不良の原因となります。詳細は、「糸調子を調節する」(→P.68)を参照してください。



板バネ

6 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたのタブを針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から押して取り付けます。



▶ 下糸のセットが完了します。

お知らせ

- 下糸を引き出さずにぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、「上糸を通す」(→P.42)に従って上糸を通したあと、「下糸を引き出してからぬう」(→P.49)を参照してください。

上糸を通す

上糸用の糸こまをセットし、針に糸を通します。

!**注意**



- 上糸は、手順に従って正しく通してください。上糸を正しく通していない場合、糸がからんで針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

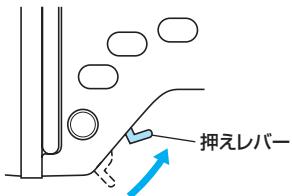
お知らせ

- 糸通し装置は、11~16番のミシン針のみに使用できます。
- ウィングニードルを取り付けているときは、糸通し装置は使用できません。
- 糸通し装置が使用できない場合は、「手で針に糸を通すとき」(→P.46)を参照してください。

1 電源を入れます。



2 押えレバーを上げます。

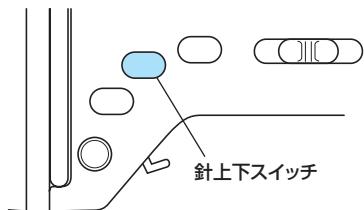


△ 押えが上がります。

お知らせ

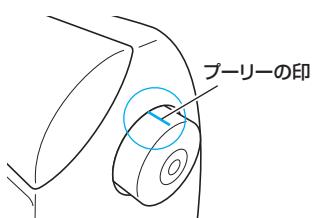
- 押えが下がった状態で上糸を通すことはできません。

3 (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。



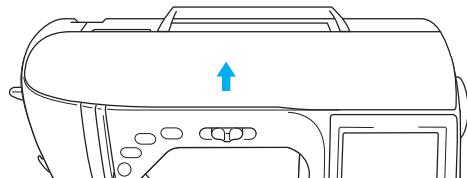
お願い

- 針が確実に上がってないと、糸が針穴に通らないことがあります。必ず、(4) (針上下スイッチ) を押して、針を一番上まで上げてください。
- 針が確実に上がっているときは、ブーリーの印が上側になります。必ず、ブーリーの印が上側になっていることを確認してください。

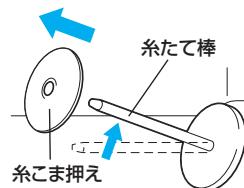


4 電源を切ります。

5 上ふたを開けます。

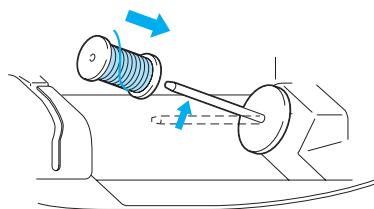


6 糸たて棒を起こし、糸たて棒から糸こま抑えを抜きます。



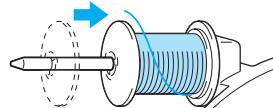
7 上糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。

糸が手前から出るように差し込みます。



8 糸こま抑えを糸たて棒に差し込み、糸たて棒をもとの平行の位置に戻します。

糸こま抑えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。

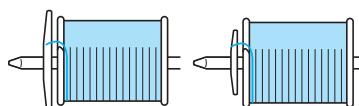




注意

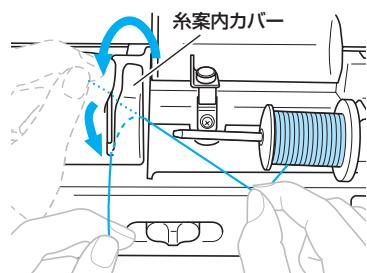


- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや針折れの原因となります。
- 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまの直径より小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、針折れの原因となります。

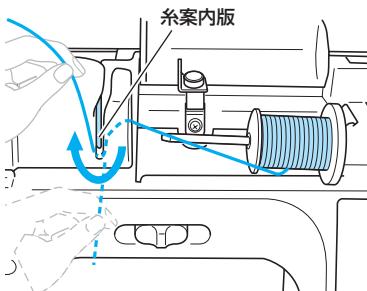


9 糸を糸案内カバーの奥から手前へかけます。

引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



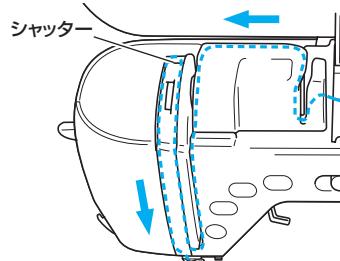
10 糸案内板の下から上へ糸をかけます。



11

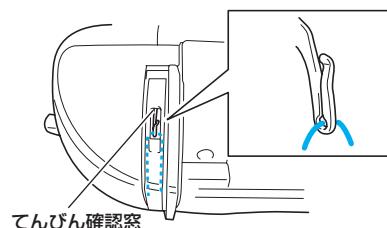
矢印のように、ミゾに沿って糸を通します。

引き出した糸をたるまないように右手で持ち、左手で糸を通します。



お願い

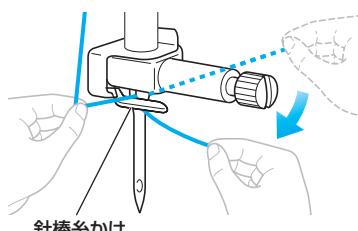
- 押えを上げるとシャッターが開きます。上糸を通すときや通した上糸を外すときは、必ず押えを上げてください。
- てんびん確認窓から、糸が確実にてんびんに通っていることを確認してください。



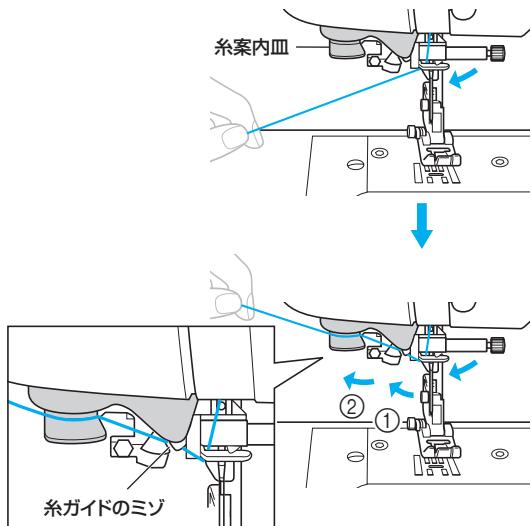
12

針棒糸かけに糸をかけます。

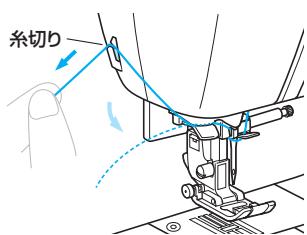
左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけます。



- 13** 針棒糸かけにかけた糸を左へ引き、糸ガイドのミゾに糸をかけます。(①) 糸案内皿のすき間に手前から糸をしっかり奥まで入れます。(②)

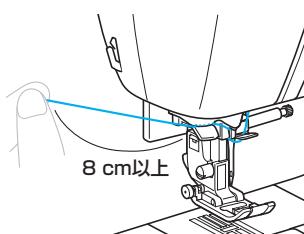


- 14** ミシン本体左側面の糸切りで糸を切れます。

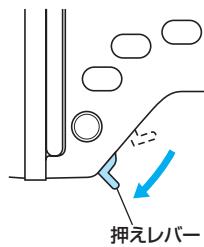


お願い

- 糸切りで糸がうまく切れないときは、抑えを下げてから切ってください。糸が固定されて切りやすくなります。糸を切ったあとは**16**に進んでください。
- メタリック糸などの張りの強い糸は、糸切りで切ると針穴に通りにくいことがあります。その場合は、糸切りを使用せずに、糸を糸案内皿から8cm以上引き出してから針穴に通してください。

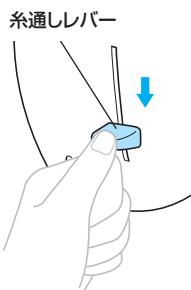


- 15** 押えレバーを下げます。



▶ 押えが下がります。

- 16** ミシン本体左側面の糸通しレバーを力チャッと音がするまで下げ、ゆっくりともとへ戻します。



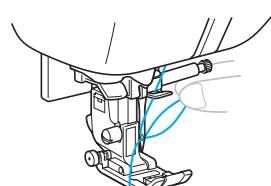
▶ 針穴に糸が通ります。

お願い

- 針が上がってないと、糸通し装置で糸を通すことができません。糸を通す前に、針を**4**(針上下スイッチ)で上げておいてください。詳細は、「上糸を通す」**3**(→P.43)を参照してください。

お知らせ

- 針穴に通った糸が輪になった場合は、輪の部分を持ってゆっくりと糸端を後ろ側へ引き出します。

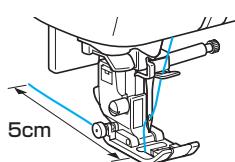


!**注意**



- 操作スイッチには触れないでください。操作スイッチに手が接触すると、ミシンが動き、針が折れたり、針で指をさすおそれがあります。
- 無理に引っ張って針を曲げないように注意してください。

17 押えレバーを上げ、糸端を押えの間に通し、後ろ側へ5cmほど引き出します。



!**注意**



- 糸通しが正常に行われなかつた場合は、手順**13**からもう一度やり直してください。

18 上ふたを閉めます。

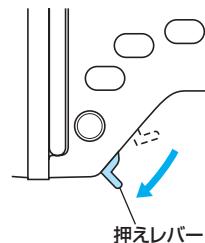
▶ 上糸通しが完了します。

■ 手で針に糸を通すとき

糸通し装置が使用できないナイロン透明糸やメタリック糸などの特殊な糸、ウイングニードルなどを使用するときは、次の手順で針に糸を通します。

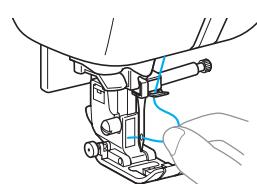
1 「上糸を通す」(→P.42) の **1** ~ **12** に従って、針棒糸かけまで上糸を通します。

2 押えレバーを下げます。



▶ 押えが下がります。

3 手で糸を持ち、針穴の手前から後ろへ糸を通します。



!**注意**



- 操作スイッチには触れないでください。操作スイッチに手が接触すると、ミシンが動き、針が折れたり、針で指をさすおそれがあります。

4 押えレバーを上げ、糸端を押えの間に通し、後ろ側へ 5cm ほど引き出します。

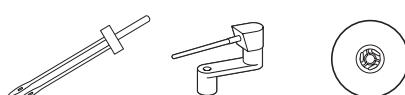
5 上ふたを閉めます。

2本針を使う

2本針と補助糸たて棒を使用すると、2色の上糸で同じ模様を平行にぬうことができます。上糸は同質で同じ太さのものを用意します。

2本針が使用できる模様については、模様一覧を参照してください。

※2本針と補助糸たて棒は、EMU19シリーズでは別売品です。



！ 注意

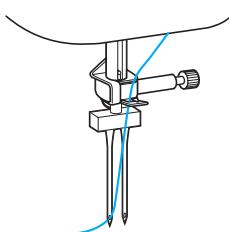


- 2本針は、必ずブラザー専用2本針を使用してください。他の針を使用すると、針折れや故障の原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

1 2本針を取り付けます。

- 針の取り付け方については、「針を交換する」(→P.50)で説明します。

2 「手で針に糸を通すとき」(→P.46)の①～③に従って、1本目の上糸を左側の針に通します。



お知らせ

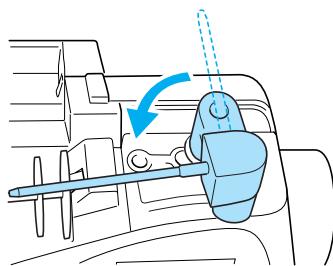
- 糸通し装置を使用して2本針に上糸を通すことはできません。無理に使用すると故障の原因となります。

3 補助糸たて棒を下糸巻き軸に差し込みます。

下糸巻き軸に対して垂直になるように差し込みます。

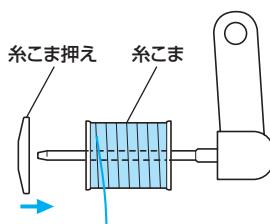


4 補助糸たて棒を左側へ倒します。

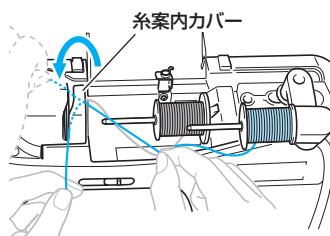


5 2本目の上糸の糸こまと糸こま抑えを補助糸たて棒に差し込みます。

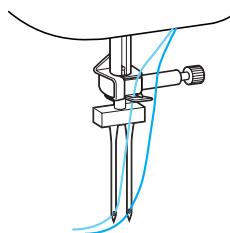
糸が奥から出るように差し込みます。



6 1本目の上糸と同様に、2本目の上糸を通してします。



7 針棒糸かけにかけずに、2本目の上糸を手で右側の針に通します。 針穴の手前から奥へ通します。

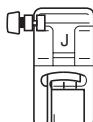


お知らせ

- 糸通し装置を使用して2本針に上糸を通すことはできません。無理に使用すると故障の原因となります。

8 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 押えの取り付け方については、「押えを交換する」(→ P.53)で説明します。



注意

- !
- 2本針を使用するときは、必ずジグザグ押え<J>を使用してください。他の押えを使用すると、針折れや故障の原因となります。

9 電源を入れ、模様を選択します。

- 模様の選び方については、「模様を選ぶ」(→ P.81)で説明します。
- 2本針が使用できる模様については、模様一覧を参照してください。



お願い

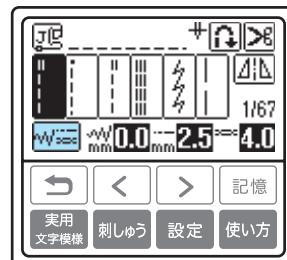
- ピンタック押え(別売)で、2本針設定の直線ピンタックぬいをするときは、中基線を選択してください。

注意

- !
- 2本針を使用するときは、必ず2本針が使用できる模様を選択してください。2本針が使用できない模様を選択すると、針折れや故障の原因となります。

10

を押します。



▶ 糸と1本針／2本針の設定画面が表示されます。

11

を押します。

1本針／2本針の設定状態



▶ になり、1本針／2本針の設定状態の表示がに変わります。

12

(戻るキー) を押します。

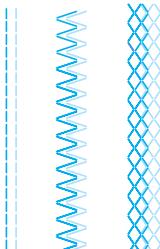


注意

- !
- 2本針を使用するときは、必ず2本針の設定をしてください。設定せずに2本針を使用すると、針折れや故障の原因となります。

13 ミシンをスタートさせます。

- 詳細は、「ミシンをスタートさせる」(→P.61)で説明します。



お願い

- ぬう方向を変えるときは、④(針上下スイッチ)を押して針を布地から抜いてから、押さえを上げて布地を回転させてください。

注意



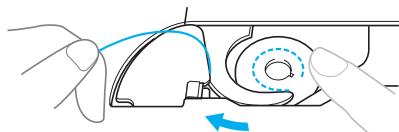
- 布地に2本針が刺さったまま
布地を回転させると、針折れ
や故障の原因となります。

下糸を引き出してからぬう

ギャザーやフリーモーションキルトなどをするときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

1 「下糸をセットする」(→P.41) の①～④に従って、ボビンをかまに入れます。

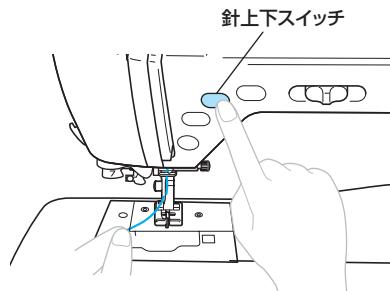
2 引き出した糸をミゾに沿って途中まで通します。



お願い

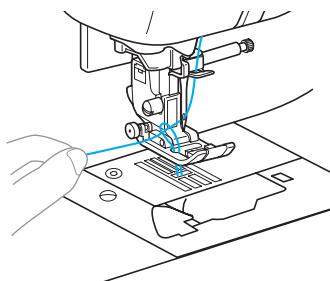
- カッターで糸を切らないでください。
- 針板ふたは取り外したままにしてください。

3 左手で上糸の端を持ち、①(針上下スイッチ)を1回または2回押して、針を上げます。

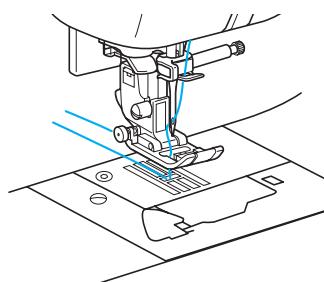


△ 下糸が針板から輪になって引き出されます。

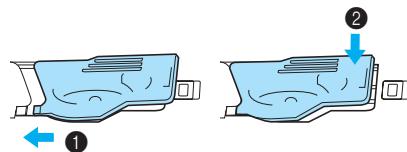
4 上糸をゆっくりと上へ引き、下糸の糸端を引き出します。



5 上糸を押さえの間に通し、下糸とそろえて押さえの下から後ろ側へ10cmほど引き出します。



6 針板ふたをもとに戻します。 針板ふたのタブを針板力バーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から押して取り付けます。



針を交換する

!**注意**



- 針は必ず家庭用ミシン針(HA × 1)を使用してください。他の針を使用すると、針折れや故障の原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

布地と針の種類による針の使い分け

ミシン針は、布地や糸の太さによって使い分けます。次の表を参考にして、布地に合った糸と針を選択してください。

布地の特徴・種類	ミシン糸		針の種類
	種類	太さ	
普通地	プロード	綿糸	11~14
	タフタ	合織糸	
	フラン ギャバシン	絹糸	
薄地	ローン	綿糸	9~11
	ジョーゼット	合織糸	
	ポーラ	絹糸	
厚地	デニム	綿糸	14~16
	コーデュロイ	合織糸	
	ツィード	絹糸	
のびる布地	ジャージ	ニット用糸	HG針ニット用 11~14
	トリコット		
ほつれやすい布地		綿糸	9~14
		合織糸	
		絹糸	
ステッチ糸の場合		30	16
		50~60	11~14



お願い

- 20番以下の太い糸は使用しないでください。
故障の原因となります。



お知らせ

- 糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。

HG針ニット用

伸縮性のある布地や目がとびやすい布地を仕上り良くぬい上げることができます。
プラザー純正「HG針ニット用 #11(金色)」を推奨します。

ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず14~16番の針を使用します。

刺しゅう用の針

家庭用ミシン針(HA × 1)の11番を使用します。
デニム地などの厚地に刺しゅうする場合は、家庭用ミシン針(HA × 1)の14番を使用します。

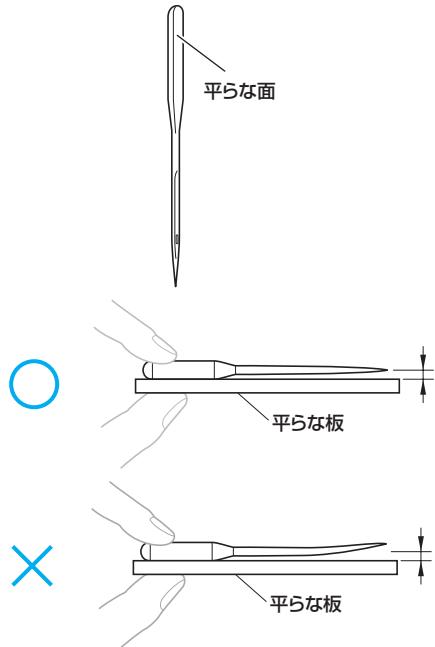


!**注意**

- 布地・糸・針の組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因となります。特に、厚い布地(デニム等)を細い針(9~11番)でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

■ 正しい針の見分け方

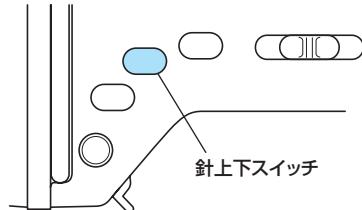
曲がった針は、使用中に折れるおそれがあり大変危険です。使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせて確認し、すき間が平行にならない針は使用しないでください。



針を交換する

「正しい針の見分け方」で確認した正しい針と、付属のドライバーを用意します。

- ① (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。



- ② 電源を切ります。

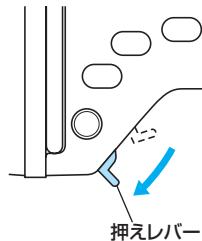


注意



- 針は、必ず電源を切ってから交換してください。万一、(スタート/ストップスイッチ) または他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガをするおそれがあります。

- ③ 押えレバーを下げます。



▶ 押えが下がります。

- 4** 押えの下に布または紙を置いて、針板の穴をふさぎます。

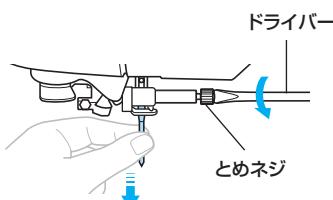


お願い

- 針を交換する前に、押えの下に布や紙を置いて、針が針板の穴から下へ落ちないようにしてください。

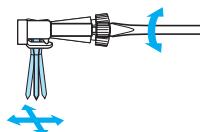
- 5** 針のとめネジをゆるめ、針を抜きます。

左手で針を持ち、右手でドライバーを手前に回します。



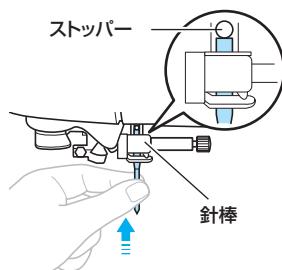
お願い

- とめネジをしめたりゆるめたりするときに、無理な力を加えないでください。故障の原因となります。



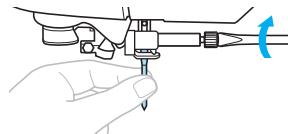
- 6** 新しい針の平らな面が後ろ側になるように、針を針棒に差し込みます。

針が針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。

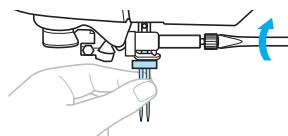


- 7** 針のとめネジをしめます。

左手で針を支え、右手でドライバーを奥に回します。



2本針を使用する場合も、同様に取り付けます。



注意



- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、付属のドライバーでとめネジを確実にしめてください。針が正しく取り付けられていないと、針折れや故障の原因となります。

押えを交換する

！ 注意



- 模様に合った押えを使用してください。他の押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず本製品専用の押えを使用してください。他の押えを使用すると、ケガ・故障の原因となります。

押えを交換する

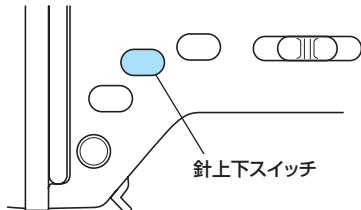
押えの取り外し方と取り付け方を説明します。



お知らせ

- 刺しゅう押え<Q>の取り付け方は、「刺しゅう押え<Q>を取り付ける」(→P.143)で説明します。
- 購入時は、ジグザグ押え<J>が取り付けられています。

- 1** ④ (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。



- 2** 電源を切ります。

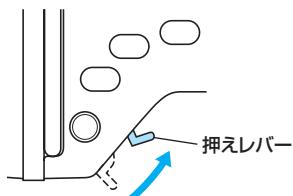


！ 注意



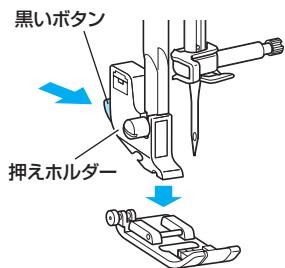
- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、 (スタート/ストップスイッチ) または他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガをするおそれがあります。

- 3** 押えレバーを上げます。



▶ 押えが上がります。

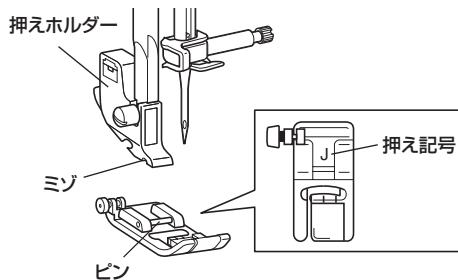
- 4** 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。



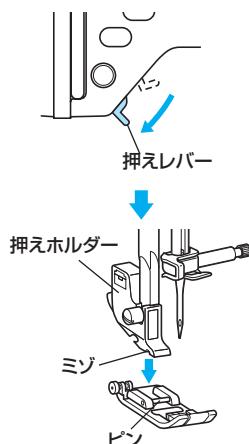
▶ 押えが押えホルダーから外れます。

- 5** 取り付ける押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。

押えに記されている押え記号（A・G・I・J・M・N・R）が読める向きに置きます。

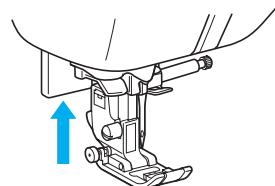


- 6** 押えレバーをゆっくり下げる、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。



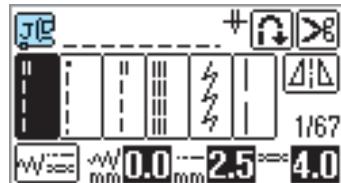
▶ 押えが押えホルダーに取り付けられます。

- 7** 押えレバーを上げて、押えが確実に取り付けられていることを確認します。



お願い

- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面の左上に表示されます。ぬい始める前に押えを確認し、他の押えが取り付けられている場合は、手順に従って正しい押えを取り付けてください。



	ボタン穴かがり押え <A>
	たち目かがり押え <G>
	ジグザグ押え <J>
	ボタン付け押え <M>
	模様ぬい押え <N>
	まつりぬい押え <R>
	サイドカッター押え <S>

- 各模様で使用する押えについては、模様一覧を参照してください。

押えホルダーを取り外す

刺しゅう押え<Q>やウォーキングフットを使用するとき、またお手入れをするときは、押えホルダーを取り外します。付属のドライバーを用意します。

注意

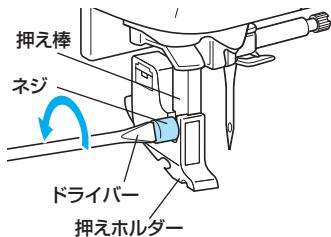


- 押えホルダーは、必ず電源を切ってから取り付け / 取り外しを行ってください。万一、スイッチが押されると、ミシンが作動してケガをするおそれがあります。

1 「押えを交換する」(→P.53) の手順に従って、押えを取り外します。

2 押えホルダーのネジをゆるめます。

右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを奥に回します。



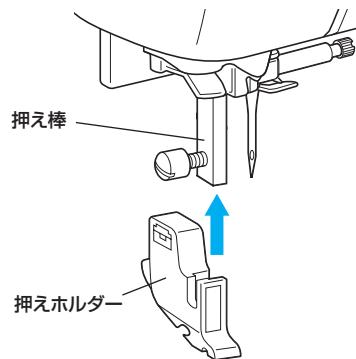
▶ 押えホルダーが押え棒から外れます。

■ 押えホルダーを取り付けるとき

1 押えレバーを上げます。

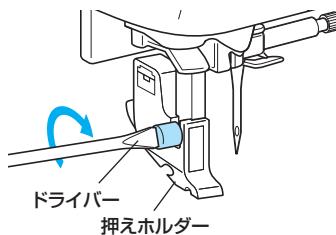
▶ 押えが上がります。

2 押えホルダーを押え棒に合わせます。



3 押えホルダーのネジをしめます。

右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを手前に回します。



注意



- 押えホルダーの取り付け / 取り外しをするときは、指や押えホルダーが針に当たらないようにしてください。針が折れたり、ケガの原因となります。
- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。



お知らせ

- 押えホルダーが正しく取り付けられていないと、正しい糸調子にならないことがあります。

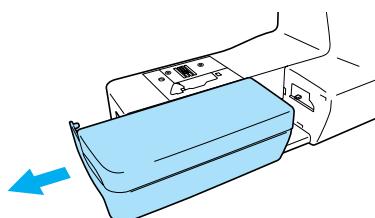
筒ものや大きなものをぬう

筒ものや大きなものをぬうときは、フリーアームにしたり、エクストラテーブルやワイドテーブルを使用したりすると便利です。

フリーアームにする

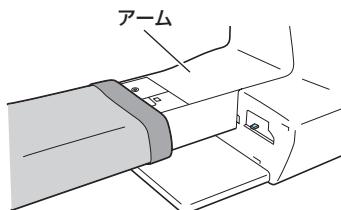
そで口やズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブルを取り外してフリーアームにします。

- 1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。

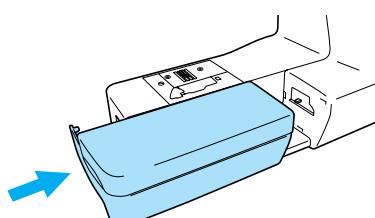


△ フリーアームになります。

- 2 布地をアームに通し、布地を回しながらぬっていきます。



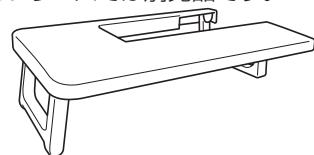
- 3 ぬい終わったら、補助テーブルをもとに戻します。



エクストラテーブルを使う

エクストラテーブルを使用すると、作業がしやすくなります。また、スカートなどの大きな筒ものをぬうときは、左脚をたたんだままにして、フリーアームにすることもできます。

※EMU18シリーズでは別売品です。

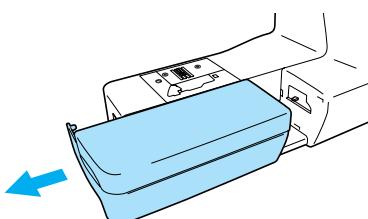


注意



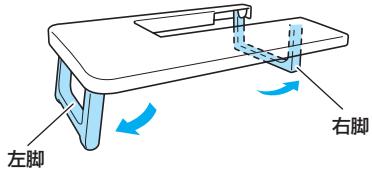
- エクストラテーブルを取り付けたままミシンを移動せしないでください。破損やケガの原因になります。
- エクストラテーブルを、アイロン台などの他の目的に使用しないでください。

- 1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



2 エクストラテーブルの左右の脚を起こします。

右脚は、力チッと音がするまで起こします。

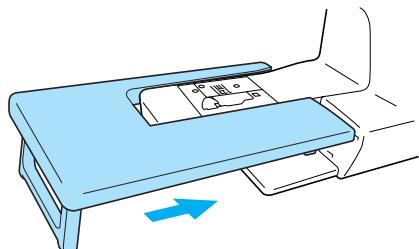


お知らせ

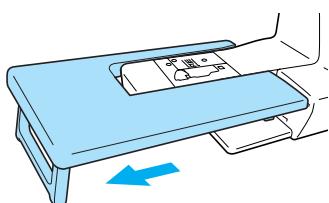
- フリーアームにするときは、右脚のみを起こします。

3 エクストラテーブルをミシン本体に取り付けます。

水平にして、ゆっくりと奥まで差し込みます。

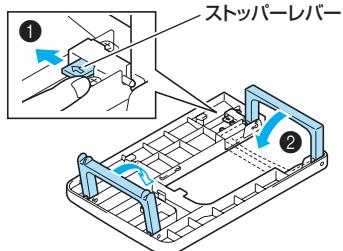


4 ぬい終わったら、エクストラテーブルを左へ引いて取り外し、補助テーブルをもとに戻します。



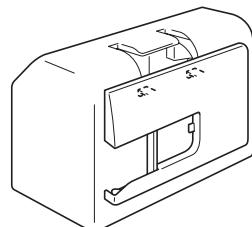
5 エクストラテーブルを裏返し、左右の脚を収納します。

右脚は、ストッパーレバーを矢印の方向へ押しながら収納します。



お知らせ

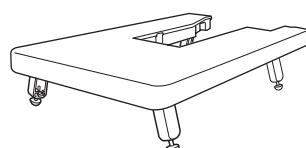
- エクストラテーブルは、脚を収納した状態でハードケースの背面に引っかけて保管することができます。



ワイドテーブルを使う

大きな作品をぬうときは、ワイドテーブルを使用して作業スペースを広げます。

※EMU19シリーズでは別売品です。

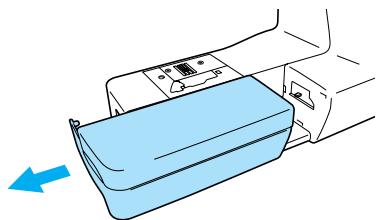


注意



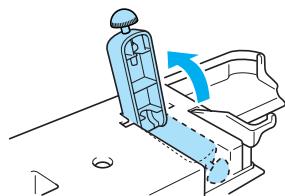
- ワイドテーブルを取り付けたままミシンを移動させないでください。破損やケガの原因になります。
- ワイドテーブルを、アイロン台などの他の目的に使用しないでください。

- 1** 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



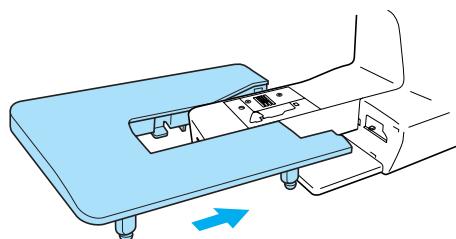
- 2** ワイドテーブル裏面の脚を起こします。

4本の脚をカチッと音がするまで起こします。

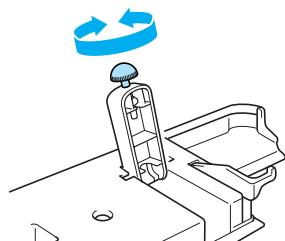


- 3** ワイドテーブルをミシン本体に取り付けます。

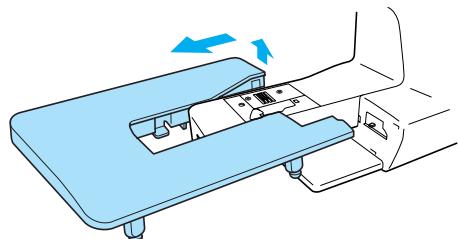
水平にして、ゆっくりと奥まで差し込みます。



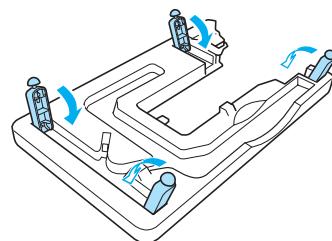
- 4** 脚の先端のゴム足を回して高さを調節します。



- 5** ぬい終わったら、ワイドテーブルを左へ引いて取り外し、補助テーブルをもとに戻します。

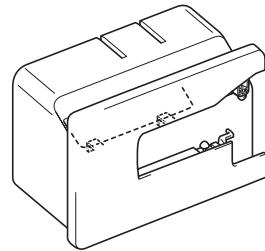


- 6** ワイドテーブルを裏返し、4本の脚を収納します。



お知らせ

- ワイドテーブルは、脚を収納した状態でハードケースの前面に引っかけて保管することができます。





ぬい方の基本

ここでは、基本のぬい方と上手にぬうコツなどを説明します。

ぬってみましょう	60
ぬい目を調節する	67
便利な機能	70
上手にぬうコツ	74

ぬってみましょう

ここでは、基本のぬい方を説明します。

⚠ 注意



- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、ブーリー、天びんなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。
- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。



- 縫製中は布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えにあたって折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- むい目が詰まる場合は、むい目の長さをあらかしてください。むい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

ソーイングの手順

ミシンをかけるときの基本の手順は次のとおりです。

1 電源「入」

ミシンの電源を入れます。

「電源を入れる」(→ P.29) を参照してください。



2 模様の選択

ぬう箇所に合わせて模様を選択します。

「模様を選ぶ」(→ P.81) で説明します。



3 押えの取り付け

模様に合った押えを取り付けます。(必ず電源スイッチを切つてから、押えを交換してください。)

「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。



4 布地のセット

ぬう箇所をミシンにセットします。布地の表・裏や、ぬう順番に注意しましょう。

「布地をセットする」(→ P.61) で説明します。



5 スタート

ミシンをスタートさせます。

「ミシンをスタートさせる」(→ P.61) で説明します。



6 糸切り

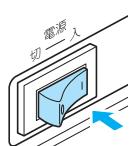
ぬい終わりの糸を切れます。自動で切ることもできます。

「糸を切る」(→ P.65) で説明します。

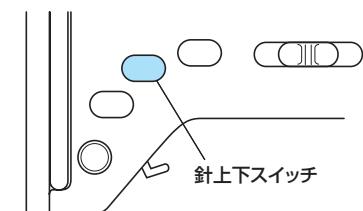
布地をセットする

布地の表・裏や、ぬう順番に注意して布地をセットします。

1 電源を入れます。



2 (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上に上げます。

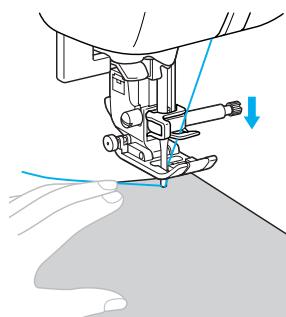
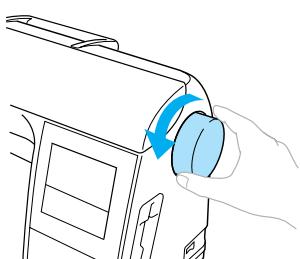


3 押えの下に布地を置きます。

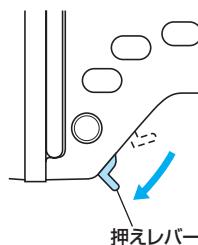
お知らせ

- ぬいしろが右側になるように置くと、まっすぐにぬいやすく、余分な布地がじゃまになりません。

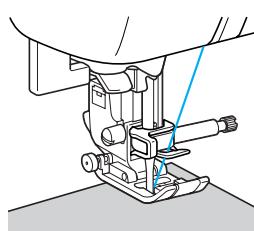
4 左手で糸と布地を押さえ、右手でブーリーを手前に回して布地に針を刺します。



5 押えレバーを下げます。



△ 布地がセットできました。



ミシンをスタートさせる

準備ができたらミシンをスタートさせます。操作スイッチの (スタート/ストップスイッチ) または付属のフットコントローラーで操作します。

お知らせ

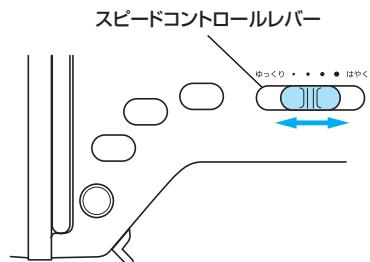
- 「フットコントローラーをミシン本体に接続しているときは、 (スタート/ストップスイッチ) でミシンをスタートさせることはできません。

■ 操作スイッチを使う

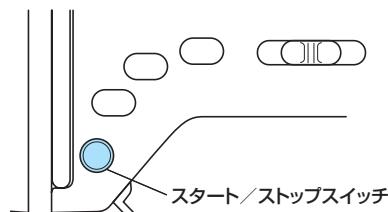
操作スイッチの (スタート/ストップスイッチ) を指で押して操作します。

- ① スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。

左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。

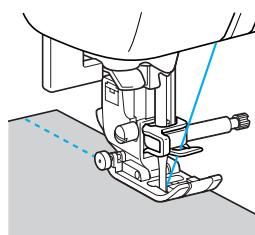


- ② (スタート/ストップスイッチ) を1回押します。



▶ ミシンがスタートします。

ぬい始めと (スタート/ストップスイッチ) を押している間は、ゆっくり進みます。



- ③ ぬい終わりの位置まできたら、(スタート/ストップスイッチ) を1回押します。

▶ 針が下がった(布地に刺さった)状態でミシンがストップします。

お知らせ

- ミシンがストップしたときに針が上になるように設定することもできます。「ミシンの設定を確認・変更する」(→P.31) を参照してください。

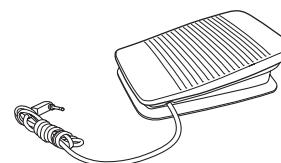
- ④ (針上下スイッチ) を押して、針を上げます。

- ⑤ 糸を切れます。

● 「糸を切る」(→ P.65) で説明します。

■ フットコントローラーを使う

付属のフットコントローラーをミシン本体に接続して、足で踏んで操作します。



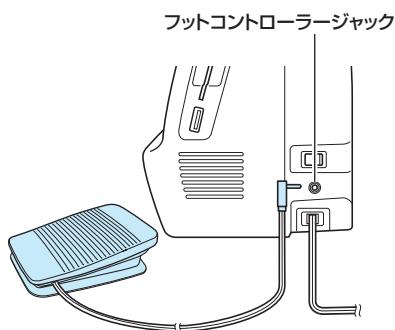
- ① 電源を切れます。



お願い

- フットコントローラーを接続するときに、誤ってミシンがスタートしないよう、必ず電源を切ってください。

- ②** ミシン本体右側面のフットコントローラージャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。

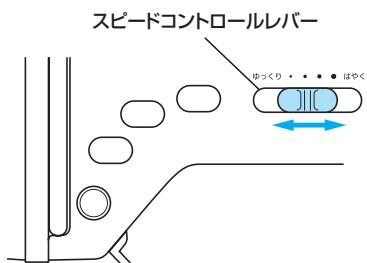


- ③** 電源を入れます。



- ④** スピードコントロールレバーを左右に動かして、フットコントローラーの最高速度を調節します。

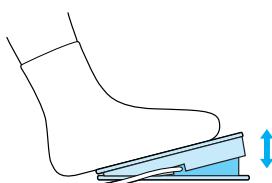
左に動かすと最高速度が遅くなり、右に動かすと最高速度が速くなります。



▶ スピードコントロールレバーで設定した速度が、フットコントローラーを踏み込んだときの最高速度になります。

- ⑤** ぬう準備ができたら、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。

浅く踏むと遅く、深く踏み込むと速くなります。



▶ ミシンがスタートします。

- ⑥** ぬい終わりの位置まできたら、フットコントローラーから足を離します。

▶ 針が下がった(布地に刺さった)状態でミシンがストップします。

お知らせ

- ミシンがストップしたときに針が上になるように設定することもできます。「ミシンの設定を確認・変更する」(→P.31) を参照してください。

- ⑦** ④ (針上下スイッチ) を押して、針を上げます。

- ⑧** 糸を切れます。

● 「糸を切る」(→ P.65) で説明します。

注意



- フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災や感電の原因となります。



- フットコントローラーの上に物を置かないでください。ケガや故障の原因となります。



- 長期間使用しないときは、フットコントローラーのプラグをジャックから抜いてください。火災や感電の原因となります。

返しひい／止めぬいをする

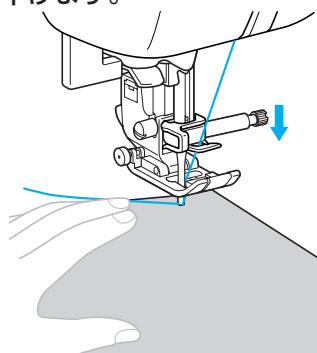
ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように返しひいまたは止めぬいをします。

■ 返しひいをする

返しひいは、・・の模様に設定されています。

ここでは、直線ぬいの場合を例に説明します。

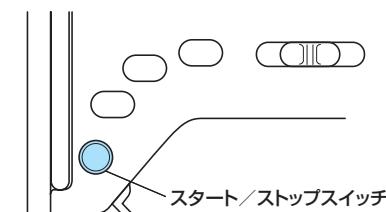
- 1 ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。



- 2  (スタート/ストップスイッチ) を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

 (スタート/ストップスイッチ) の場合は、スイッチを押したままにすると、ゆっくりと進みます。

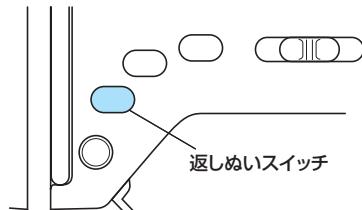
- 詳細は、「ミシンをスタートさせる」(→ P.61) を参照してください。



△ ミシンがスタートします。

- 3 3~5針ほどぬいたら、 (返しひいスイッチ) を押します。

ぬい始めの位置に戻るまで  (返しひいスイッチ) を押したままにします。



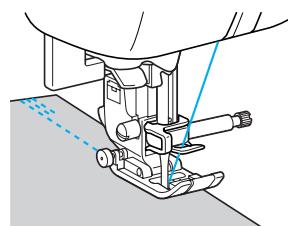
▶  (返しひいスイッチ) を押している間、後ろに向かって針が進みます。

- 4 ぬい始めの位置まで戻ったら、 (返しひいスイッチ) から手を離します。

▶ ミシンがストップします。

- 5  (スタート/ストップスイッチ) を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

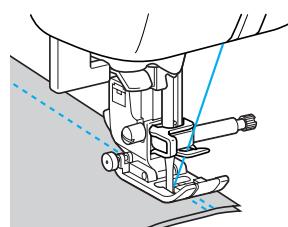
▶ 通常の向きに針が進みます。



- 6 ぬい終わりの位置まできたら、 (返しひいスイッチ) を押します。

3~5針戻るまで  (返しひいスイッチ) を押したままにします。

▶  (返しひいスイッチ) を押している間、後ろに向かって針が進みます。



7 3~5針ほどぬったら、⑩(返しぬいスイッチ)から手を離します。

△ ミシンがストップします。

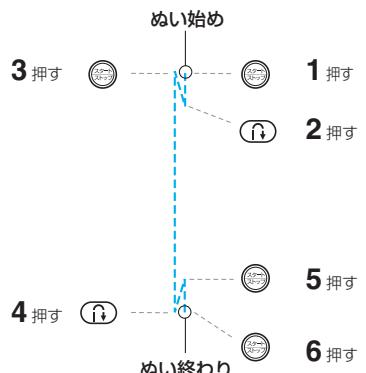
8 ⑨(スタート/ストップスイッチ)を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

⑨(スタート/ストップスイッチ)の場合は、スイッチを押したままになると、ゆっくりと進みます。

△ 通常の向きに針が進みます。

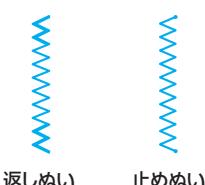
9 ぬい終わりの位置までできたら、ミシンをストップさせます。

⑨(スタート/ストップスイッチ)を押すか、フットコントローラーから足を離します。



■ 止めぬいをする

1 以外の模様で ⑩(返しぬいスイッチ)を押すと、止めぬいになります。スイッチを押したままにすると、同じ場所で 3~5 针重ねてぬって止まります。



お知らせ

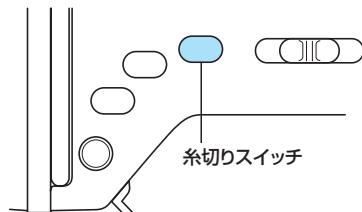
- 返しぬい/止めぬいを自動で行うこともできます。「自動で返しぬい/止めぬいをする」(→P.70) を参照してください。

糸を切る

ぬい終わったら、糸を切れます。操作スイッチの⑩(糸切りスイッチ)またはミシン本体左側面の糸切りを使用します。

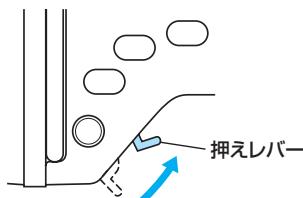
■ 操作スイッチを使う

1 ぬい終わりの位置で、⑩(糸切りスイッチ)を1回押します。



△ 糸が切れ、針が上に上がります。

2 押えレバーを上げて、布地を取り出します。



注意



- 糸を切ったあとに、⑩(糸切りスイッチ)を押さないでください。針折れや糸がらみ、故障の原因となります。
- 布地が押えの下にないときや、ミシンが動いているときは⑩(糸切りスイッチ)を押さないでください。故障の原因となります。

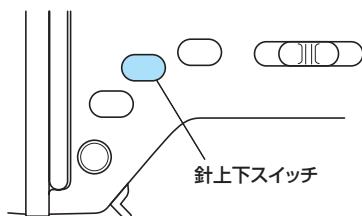
 **お知らせ**

- ぬい終わりに自動的に糸を切るように設定することができます。「自動で糸を切る」(→P.71) で説明します。

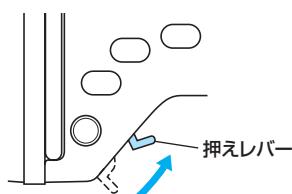
■ 糸切りを使う

ナイロン透明糸、メタリック糸などの特殊な糸は、ミシン本体左側面の糸切りで糸を切れます。

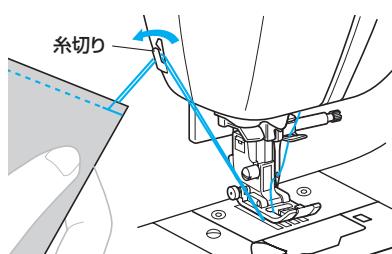
- 1** ぬい終わったら、ミシンをストップさせ、 (針上下スイッチ) を1回押して、針を上げます。



- 2** 押えレバーを上げます。

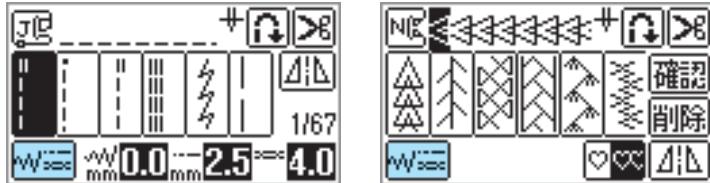


- 3** 布地を左へ引き、ミシン本体左側面の糸切りに上糸と下糸を引っかけて切れます。



ぬい目を調節する

ジグザグの振り幅やぬい目の長さ、糸調子（上糸と下糸の強さのバランス）は、あらかじめ模様ごとの適切な数値に設定されています。必要に応じて設定を変更するときは、液晶画面の を押したあと、次の説明に従って操作してください。

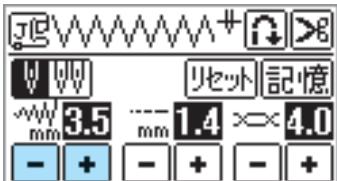


お知らせ

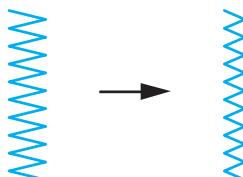
- 思い通りに糸調子を調節できないときは、「困ったとき」(→P.186)を参照してください。
- 模様によって、変更できない設定もあります。詳細は、模様一覧を参照してください。
- 設定を変更したあとに、ミシンの電源を切ったり他の模様を選択したりすると、もとの数値に戻ります。設定を記憶させておきたいときは、「模様の設定を記憶させる」(→P.72)を参照してください。

模様の幅を調節する

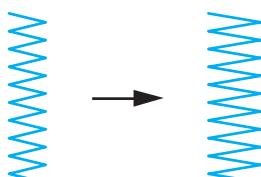
模様の幅(ジグザグの振り幅)を広くしたりせまくしたりすることができます。



振り幅の を押すごとに、模様の幅(ジグザグの振り幅)がせまくなります。



振り幅の を押すごとに、模様の幅(ジグザグの振り幅)が広くなります。



を押すと、もとの数値に戻ります。

お知らせ

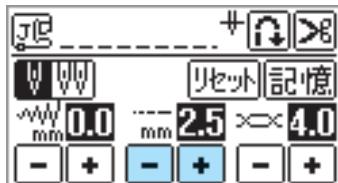
- と表示されているときは、設定を変更することができません。
- 直線模様(直線「左」、三重ぬい、しつけなど)を選択した場合は、模様の幅を変更すると針の位置が移動します。振り幅の を押すと針は右に移動し、 を押すと左に移動します。
- ぬいながらスピードコントロールレバーで模様の幅を調節できるように設定することができます。「振幅コントロールを使ったサテンぬい」(→P.113)を参照してください。

注意

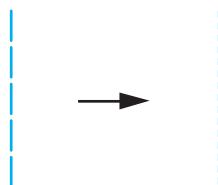
- 振り幅を調節したときは、ブーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

ぬい目の長さを調節する

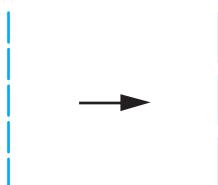
ぬい目の長さをあらくしたり細かくしたりすることができます。



ぬい目の長さの **[-]** を押すごとに、ぬい目が細かくなります。



ぬい目の長さの **[+]** を押すごとに、ぬい目があらくなります。



[リセット] を押すと、もとの数値に戻ります。



お知らせ

- **[-]** と表示されているときは、設定を変更することができません。

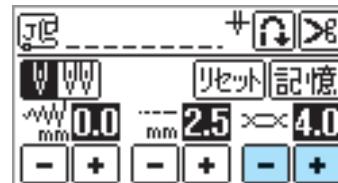
注意



- ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さを長くしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

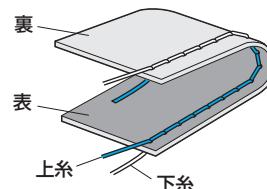
糸調子を調節する

糸調子が合わないときや、特殊な糸や素材を使用するときは、上糸の調子を調節します。



正しい糸調子

上糸と下糸が布地の中央でまじわります。布地の表には上糸、裏には下糸のみが見えます。

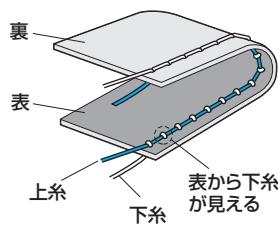


上糸が強いとき

お願い

- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなることがあります。上糸が強いときは、下糸のセットを再度行ってください。「下糸をセットする」(→P.41)を参照してください。

布地の表に下糸が見えます。**[-]** を押して、上糸を弱くします。

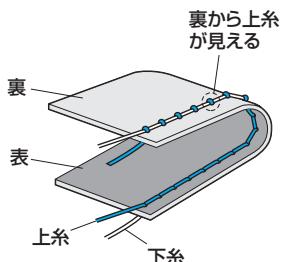


上糸が弱いとき

お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなることがあります。上糸が弱いときは、「上糸のセット」を再度行ってください。「上糸を通す」(→P.42)を参照してください。

布地の裏に上糸が見えます。[+] を押して、上糸を強くします。



[リセット] を押すと、もとの数値に戻ります。

便利な機能

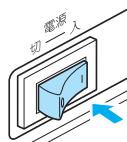
ここでは、役に立つ便利な機能を説明します。

自動で返しぬい／止めぬいをする

ぬい始めとぬい終わりに、自動で返しぬいまたは止めぬいをするように設定します。

詳細は、模様一覧を参照してください。

1 電源を入れます。



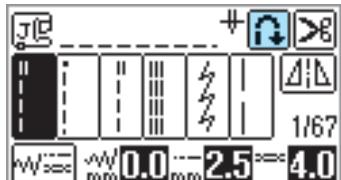
▶ 液晶画面が点灯します。

2 模様を選択します。

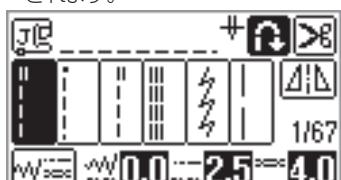
- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。

3 を押します。

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。



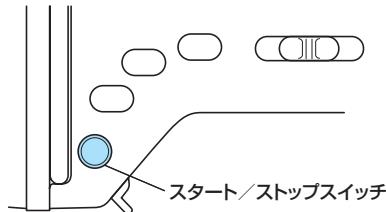
▶ になり、自動返しぬい／止めぬいが設定されます。



お知らせ

- 自動返しぬい／止めぬいを解除するときは、 を押します。
- 電源を切ると、自動返しぬい／止めぬいの設定は解除されます。

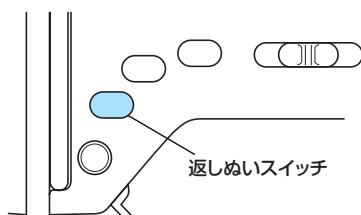
4 布地をセットし、 (スタート／ストップスイッチ) を1回押します。



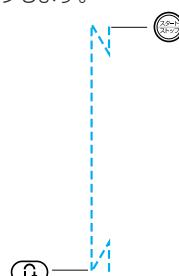
▶ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ぬい始めます。

5 ぬい終わりの位置まできたら、 (返しぬいスイッチ) を1回押します。

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。



▶ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ミシンがストップします。



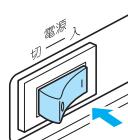
お知らせ

- ぬっている途中で、 (スタート／ストップスイッチ) を押したときは、自動で返しぬい／止めぬいはしません。ぬい終わりで (返しぬいスイッチ) を押してください。

自動で糸を切る

ぬい終わりに自動で糸を切るように設定します。これを「プログラム糸切り」といいます。
プログラム糸切りを設定すると、自動返しづい／止めぬいも一緒に設定されます。

1 電源を入れます。

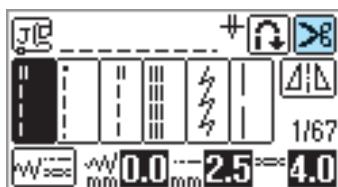


▶ 液晶画面が点灯します。

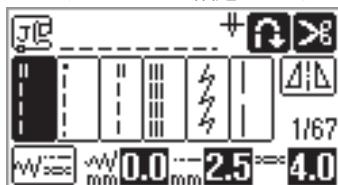
2 模様を選択します。

- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。

3 □を押します。



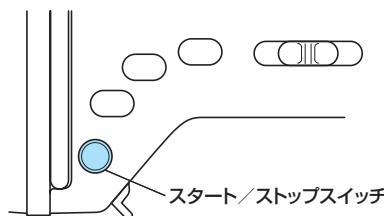
▶ □になり、プログラム糸切りと自動返しづい／止めぬいが設定されます。



お知らせ

- プログラム糸切りを解除するときは、□を押します。

4 布地をセットし、(スタート／ストップスイッチ)を1回押します。

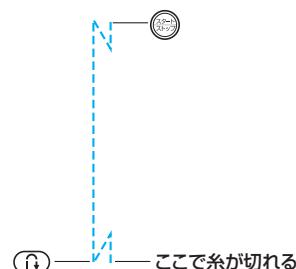


▶ 返しづいまたは止めぬいをしてから、ぬい始めます。

5 ぬい終わりの位置まできたら、(①) (返しづいスイッチ)を1回押します。

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。

▶ 返しづいまたは止めぬいをしてから、自動で糸を切れます。



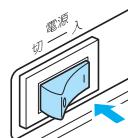
お知らせ

- ぬっている途中で、(スタート／ストップスイッチ)を押したときは、プログラム糸切りは行われません。ぬい終わりで①(返しづいスイッチ)を押してください。
- 電源を切ると、プログラム糸切りの設定は解除されます。

模様を反転させる

模様を左右反転させてねうことができます。

1 電源を入れます。

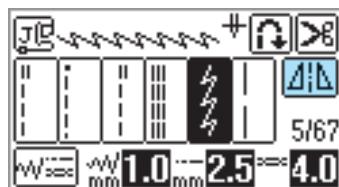


▶ 液晶画面が点灯します。

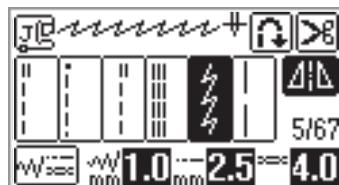
2 模様を選択します。

- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。

3 を押します。



▶ になり、液晶画面上部に表示された模様が反転します。



お知らせ

- 反転を解除するときは、 を押します。
- ボタン穴かがりなど、模様を選択したときに と表示される模様は反転させられません。
- 電源を切ると、反転は解除されます。

模様の設定を記憶させる

ジグザグの振り幅やぬい目の長さ、糸調子、自動糸切りや自動止めぬいは、あらかじめ模様ごとに設定されています。実用模様では、これらの設定を変更して記憶させることができます。

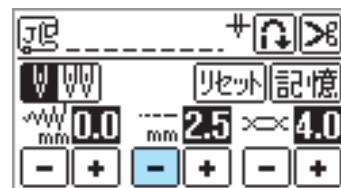
[例] 直線のぬい目の長さを、いつも2.0mmでねう場合

1 直線模様を選択します。

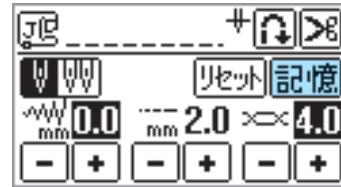
2 を押します。

▶ ぬい目の長さが2.5mmに設定されています。

3 ぬい目の長さを2.0mmに変更します。



4 を押します。



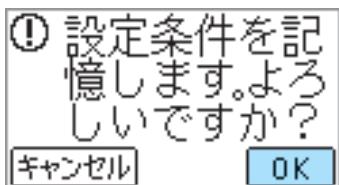
▶ 確認メッセージが表示されます。

お知らせ

- もとの設定に戻すときは、 を押したあと、 を押します。

5

OK を押します。



▶ 次に同じ直線模様を選択すると、ぬい目の長さが2.0mmに設定されます。



お知らせ

- ぬい目の長さ以外の、ジグザグの振り幅や糸調子、自動糸切りや自動止めぬいなどの設定も記憶します。
- 自動糸切りや自動止めぬいの設定を変更した場合、リセット を押してももとの設定に戻りません。

上手にぬうコツ

ここでは、上手にぬうためのコツを説明します。ソーイングをするときの参考にしてください。

試しひいをする

本製品は、模様を選択すると、自動的に適切な模様の幅と長さが設定されるようになっています。しかし、布地の種類やぬい方によっては必ずしも思い通りにならないことがあるので、試しひいをするようにしましょう。

試しひいは、実際に使用する布地のはぎれと糸を使用して、糸調子や模様の幅・長さを確認します。ぬい方や、布地を何枚重ねてぬうかによってもぬった結果は異なるので、実際にぬうものと同じ状態で試しひいをします。

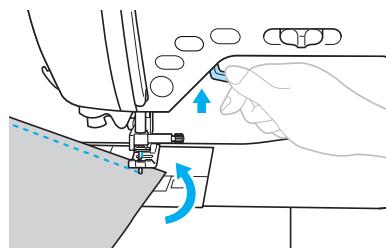
ぬう方向を変える

1 角までぬったたら、ミシンをストップさせます。

このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、④（針上下スイッチ）を押して針を下げます。

2 押えレバーを上げ、布地を持って回転させます。

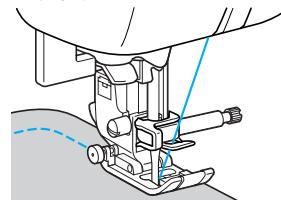
針位置を基点に回転させます。



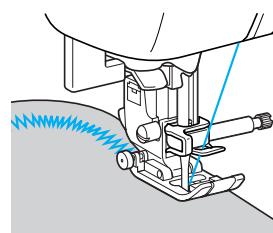
3 押えレバーを下げ、続きをぬいます。

カーブをぬう

途中でミシンをストップさせながら、少しづつ向きを変えてぬいます。「ぬいしろの幅をそろえる」（→P.77）を参考にして、ぬいしろと平行になるようにぬいます。



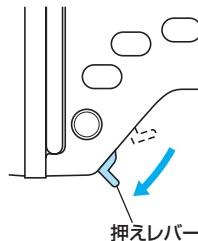
ジグザグ模様をぬうときは、ぬい目の長さを短めにするときれいに仕上がりります。



押え圧を調節する

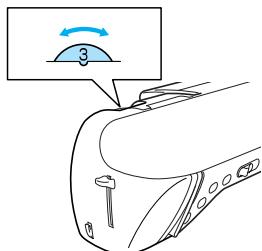
押え圧（押えが布地を押さえる強さ）を調節することができます。

1 押えレバーを下げます。



2 ミシン本体背面の押え圧ダイヤルを回して、押え圧を調節します。

押え圧は1~4の4段階で調節します。数字が小さいほど弱く、大きいほど強くなります。

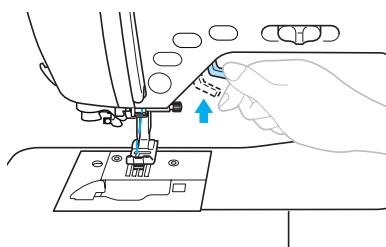


3 ぬい終わったら、ダイヤルを3（標準）に戻します。

厚い布地をぬう

■ 押えの下に布地が入らないとき

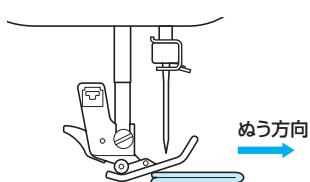
押えレバーをさらに上に上げると、押えがもう一段階上がります。



■ ぬい始めに段差があって布地が送られないとき

図のように布地に段差があり、押えが傾いてしまい、布地が送られない場合があります。

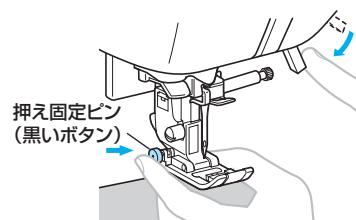
その場合は、押え固定ピン（ジグザグ押え<J>左側の黒いボタン）の機能を使って、押えを水平にしてぬうと、スムーズに布地を送ることができます。



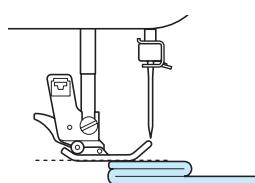
1 押えレバーを上げます。

ぬい始めの位置を合わせて、布地をおきます。

3 ジグザグ押え<J>を水平に保持して左側の黒いボタンを押したまま、押えレバーを下げます。



▶ 押えが水平になり、布地が送られるようになります。



▶ ぬい進めると、押えはもとに戻ります。

注意



- 6mm以上の厚物をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

面ファスナー(マジックテープ[®])をぬう

注意



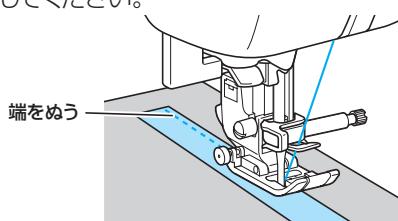
- 面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針やかまに付着すると、故障の原因となります。
- 面ファスナーを細い針(9~11番)でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

お願い

- ミシンでぬう前に、しつけをして面ファスナーと布地をぬい合わせておいてください。

プーリーを手で回して面ファスナーに針を刺し、針がスムーズに通ることを確認してから、面ファスナーの端を低速でぬいます。

針が通らない場合は、厚地用の針と糸(→P.50)に交換してください。



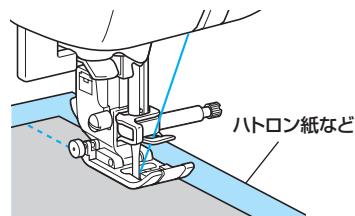
お知らせ

- “マジックテープ[®]”は、株式会社クラレの、面ファスナーの登録商標です。

薄い布地をぬう

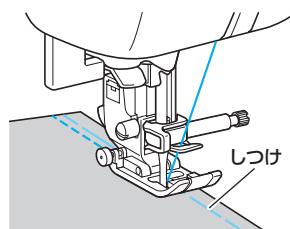
薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送れないことがあります。

その場合は布地の下にハトロン紙などの薄い紙を敷いて、布地と一緒にぬいます。ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。



伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。

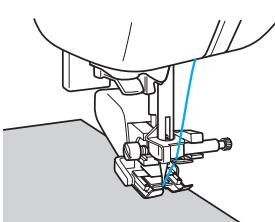


また、ニット用の糸を使用したり伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。

ビニールや皮をぬう

ビニールコーティングや皮革など、押えや針板に貼り付いてぬいにくい素材には、ウォーキングフットを使用します。

※ウォーキングフットは、EMU19シリーズでは別売品です。



お知らせ

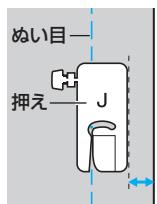
- ウォーキングフットを使用できる模様は、止めぬい用の直線とジグザグ模様のみです。詳細は、模様一覧を参照してください。

ぬいしろの幅をそろえる

布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端か針板の目盛りを基準にしてぬいます。

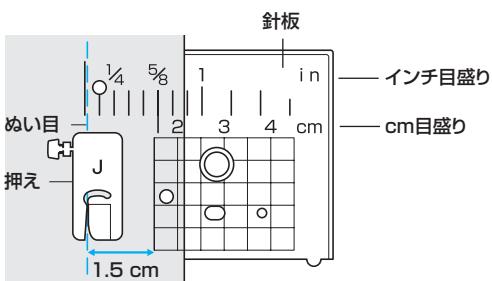
■ 押えを基準にする

押えの右端と布端が一定の幅で平行になるようにぬいます。



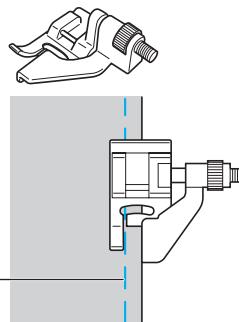
■ 針板を基準にする

針板には、直線 [左] の針位置からの長さが表示されています。針板に刻まれている目盛りと布端を合わせてぬいます。上側の目盛りは1/8インチ(約3mm)間隔、下側の目盛りは5mm間隔になっています。



■ ガイド付まつりぬい押えを使用する

別売のガイド付まつりぬい押えでは、ガイドの幅を変更して布端をガイドに合わせてぬうと、ぬいしろの幅をそろえてぬうことができます。



ニーリフターを使う (EMU18シリーズのみ)

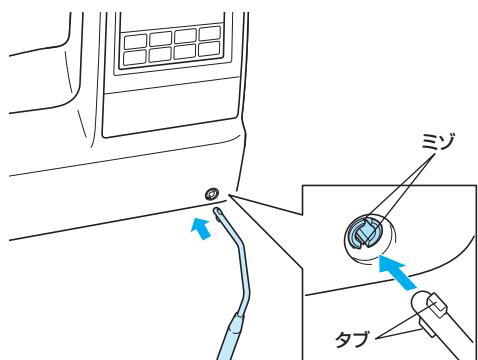
ニーリフターを使用すると、ひざで押えを上げ下げすることができます。キルトなどをぬうときに、両手があき作業がしやすくなります。

※EMU19シリーズには使用できません。

※購入時は、ワイドテーブルの裏面に取り付けられています。

1 ニーリフター差し込み口にニーリフターを差し込みます。

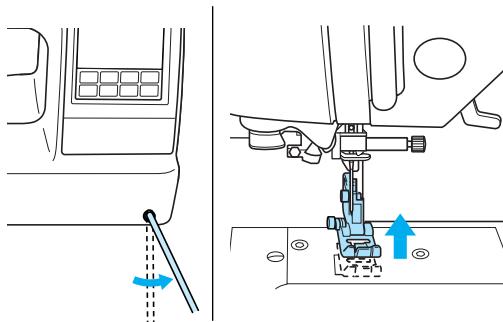
ニーリフターのタブを差し込み口のミゾに合わせて、奥までしっかりと差し込みます。




お願い

- ニーリフターは差し込み口の奥までしっかりと差し込んでください。正しく差し込まれていないと、使用中に外れることがあります。

- 2** 押えを上げるときは、ニーリフターをひざで右に押します。抑えを下げるときは、ニーリフターからひざを離します。


注意


- ニーリフターをひざで押したまま、ミシンをスタートさせないでください。針折れや糸調子不良の原因となります。



いろいろなぬい方

ここでは、いろいろなぬい方とその使い方を説明します。

ぬい方を選びましょう	80
ぬいしろを始末する	85
直線ぬいをする	89
すそ上げをする	91
ボタン穴かがりをする／ボタンを付ける	94
ファスナーを付ける	101
伸びる布地やゴムテープをぬう	106
アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう	108
丈夫にしたいところをぬう	115
はとめ穴を作る	120
飾りぬいをする	121
いろいろな模様をぬう	129

ぬい方を選びましょう

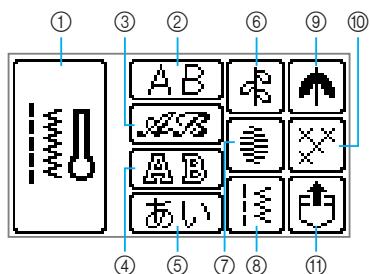
ぬう模様を選択します。

模様の種類

模様は、実用模様・飾り模様・サテンステッチ・実用飾り模様・クロスステッチ・飾りサテン・アルファベット3種類・ひらがな／カタカナの10グループの模様があります。

模様の種類は、模様一覧を参照してください。

**実用
文字模様**（実用／文字模様キー）を押すと、次の画面が表示されます。



① 実用模様

直線やたち目かがり、ボタン穴かがりなど、67種類の実用模様があります。

② アルファベット（ゴシック体）

ゴシック体のアルファベットや記号、数字など55文字あります。

③ アルファベット（筆記体）

筆記体のアルファベットや記号、数字など55文字あります。

④ アルファベット（アウトライン）

アウトライン（白抜き文字）のアルファベットや記号、数字など55文字あります。

⑤ ひらがな／カタカナ

ひらがなやカタカナ、記号、数字、漢字など204文字あります。

⑥ 飾り模様

葉や花、ハートなど、31種類の飾り模様があります。

⑦ サテンステッチ

16種類のサテンステッチがあります。

⑧ 実用飾り模様

模様を組み合わせができる39種類の実用模様があります。

⑨ 飾りサテン

10種類の飾りサテンがあります。

⑩ クロスステッチ

5種類のクロスステッチがあります。

⑪ ミシンに記憶させた模様の呼び出し

よく使用する文字の組み合わせなどの模様をミシンに記憶させて、あとで呼び出してぬうことができます。10組までの模様を記憶させることができます。記憶のさせ方と呼び出し方については、「模様を記憶させる」(→P.134) を参照してください。

模様を選ぶ

液晶画面を操作して模様を選択します。

電源を入れたときは、自動的に直線〔左〕が選択されています。直線〔中〕が選択されるように設定することもできます。詳細は、「ミシンの設定を確認・変更する」(→P.31) を参照してください。

1 使用する模様に合った押えを用意します。

- 模様一覧を参照してください。

2 押えを取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。

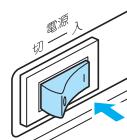
お知らせ

- 購入時は、ジグザグ押え<J>が取り付けられています。

注意

- 模様に合った押えを使用してください。他の押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

3 電源を入れます。

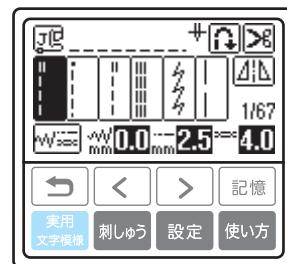


▶ 直線〔左〕が選択されます。

お知らせ

- 液晶画面にアニメーションが表示されているときは、指で液晶画面に触れてください。
- 電源を入れると、実用模様の選択画面が表示されます。実用模様を選択するときは④へ進んでください。

4 操作パネルの 実用 文字模様 (実用／文字模様キー) を押します。



▶ 模様グループの選択画面が表示されます。

5 模様グループを選択します。

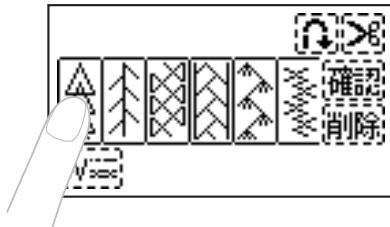
[例] 飾り模様を選択する場合



▶ 模様の選択画面が表示されます。

6 模様を選択します。

- 〔<〕(前ページキー)で前の画面、
- 〔>〕(次ページキー)で次の画面が表示されます。

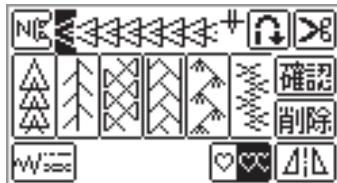


お知らせ

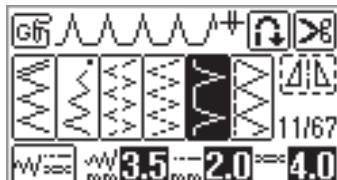
- 他の模様を選択するときは、[削除]を押して選択した模様を消去します。
- 〔戻〕を押すと、模様グループの選択画面に戻ります。

7 必要に応じて、自動返しぬい／止めぬいやぬい目の長さなどを設定します。

- 自動返しぬい／止めぬいなどの設定については、「便利な機能」(→P.70) を参照してください。
- 振り幅・ぬい目の長さ・糸調子設定の設定については、「ぬい目を調節する」(→P.67) を参照してください。



実用模様を選択したときは、模様の番号と振り幅・ぬい目の長さ・糸調子が表示されます。



お願い

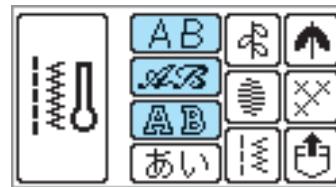
- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面の左上に表示されます。ぬい始める前に押えを確認し、他の押えが取り付けられている場合は、「押えを交換する」(→P.53) の手順に従って正しい押えを取り付けてください。

■ アルファベットを選ぶ

アルファベットは3書体内蔵されています。文字の選び方はどの書体でも同じです。

- 「模様を選ぶ」(→P.81) の①～④に従って、模様グループの選択画面を表示させます。

2 書体を選択します。



3 文字を選択します。



お知らせ

- 誤って文字を選択したときは、[削除]を押して文字を消去してから正しい文字を選択します。
- 文字と文字の間にスペースを入れたいときは、〔>〕(次ページキー)を押して〔空〕を表示させ、〔空〕を押してください。
- 書体を変えるときは、〔戻〕を押してから新しい書体を選択します。
- 〔確認〕を押すと、選択した模様を確認することができます。

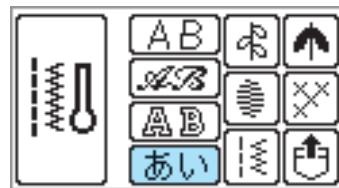
[例] 「BUS」を選択する場合



■ ひらがな／カタカナを選ぶ

- ① 「模様を選ぶ」(→ P.81) の ① ~ ④ に従って、模様グループの選択画面を表示させます。

- ② 「あい」を押します。



- ③ 文字を選択します。

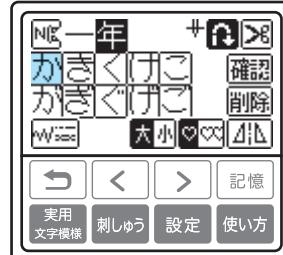
行を選択してから文字を選択します。
「あア」を押すと、ひらがな／カタカナが切り替わります。



お知らせ

- 誤って文字を選択したときは、「削除」を押して文字を消去してから正しい文字を選択します。
- 文字と文字の間にスペースを入れたいときは、「0-9 & ?」を押します。> (次ページキー) を押して「」を表示させ、「」を押してください。
- 「確認」を押すと、選択した模様を確認することができます。

[例] 「一年かとう」を選択する場合



ぬいしろを始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。たち目かがりに使用できる模様は、全部で15模様あります。使用する押えごとにぬい方を説明します。

たち目かがり押え<G>を使ったたち目かがり

次の3模様を選択したときは、たち目かがり押え<G>を使用します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
たち目かがり	11	普通地・薄地のほつれ止め	3.5		2.0		G
	12			2.5~5.0		1.0~4.0	
	13	厚地・ほつれやすい布地のほつれ止め	5.0		2.5	3.5~5.0	

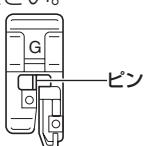
注意



- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

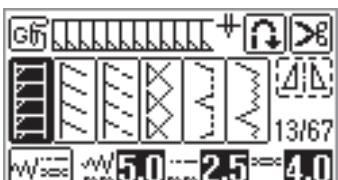
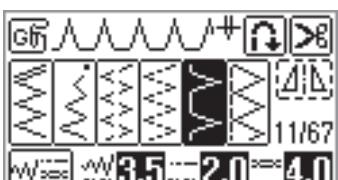
1 たち目かがり押え<G>を取り付けます。

- 「押さえを交換する」(→ P.53) を参照してください。

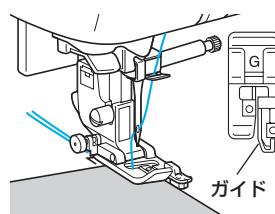


2 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



3 押えのガイドと布端が合うように布地をセットし、押えを下げます。



4 布端を押えのガイドに沿わせてぬいます。



5 ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

お願い

- ぬい終わった後は、布を後ろに引いてください。前方向や横方向に布を引っ張ると、押えのピンが破損するおそれがあります。

ジグザグ押え<J>を使ったたち目かがり

次の7模様を選択したときは、ジグザグ押え<J>を使用します。

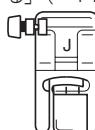
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ジグザグ[中]	7	通常のほつれ止め(中基線／返しぬい)	3.5		0.0~7.0	1.4	0.0~4.0
ジグザグ[右]	8	通常のほつれ止め(右基線／止めぬい)			2.5~5.0		0.3~4.0
2点ジグザグ	9						
3点ジグザグ	10	厚地・伸びる布地のほつれ止め	5.0		1.5~7.0	1.0	0.2~4.0
たち目かがり	14	伸びる布地のほつれ止め					
	15	厚地・伸びる布地のほつれ止め			0.0~7.0	2.5	0.5~4.0
	16	伸びる布地のほつれ止め	4.0			4.0	1.0~4.0

!**注意**

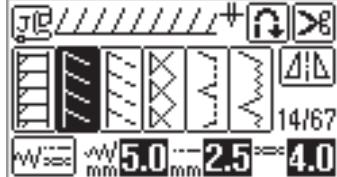
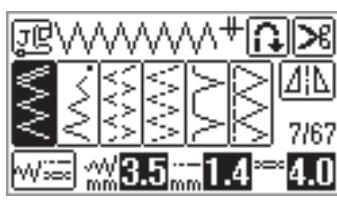


- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

- 1** ジグザグ押え<J>を取り付けます。
● 「押えを交換する」(→P.53) を参照してください。

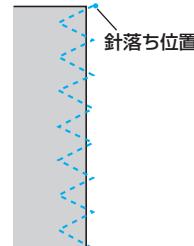
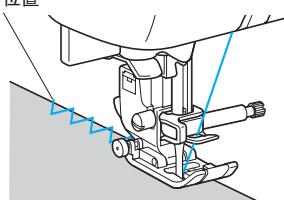


- 2** 模様を選択します。
● 「模様を選ぶ」(→P.81) を参照してください。



- 3** 布端より少し外側に針を落としてぬいます。

針落ち位置



サイドカッター押え<S>を使ったたち目かぎり

別売のサイドカッター押え<S>を使用して、布端を切りながらぬいしろを始末することができます。液晶画面で模様に「S」と表示されている次の5模様から選択します。

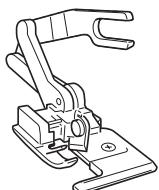
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
たち目かぎり	63	布地を切りながら直線ぬい	0.0	0.0~2.5	2.5	0.2~5.0	S
	64	布地を切りながらジグザグ			1.4	0.0~4.0	
	65	布地を切りながら薄地・普通地のほつれ止め	3.5		2.0		
	66	布地を切りながら厚地のほつれ止め		3.5~5.0		1.0~4.0	
	67	布地を切りながら厚地のほつれ止め	5.0		2.5		



注意



- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。



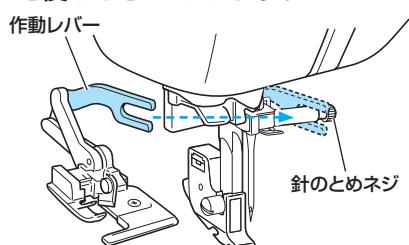
お願い

- サイドカッター押えを使用するときは、手で針に糸を通すか（→P.46）、サイドカッター押えを取り付ける前に糸通し装置で糸を通してください。

1 押えを取り外します。

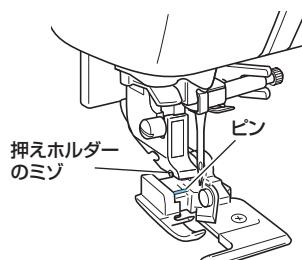
- 「押えを交換する」（→ P.53）を参照してください。

2 サイドカッター押え<S>の作動レバーのふたまた部分で、針のとめネジの棒を後ろからはさみます。



3

- サイドカッター押え<S>のピンと押えホルダーのミゾが合う位置にサイドカッター押え<S>を置き、押えレバーをゆっくり下げます。

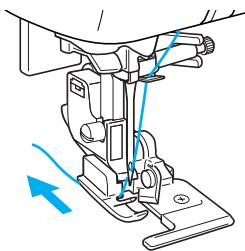


▶ サイドカッター押え<S>が取り付けられます。

4

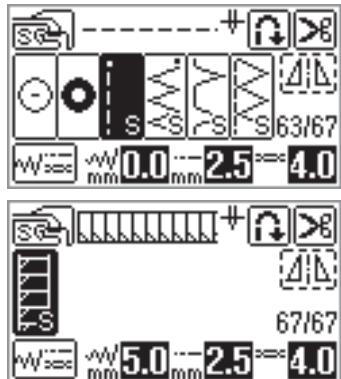
- 押えレバーを上げて、サイドカッター押え<S>が取り付けられていることを確認します。

- 5** 上糸はサイドカッター押え<S>の下を通して、後ろ側に引き出します。

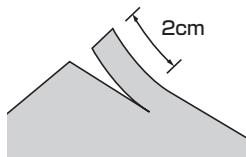


- 6** 模様を選択します。

●「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。

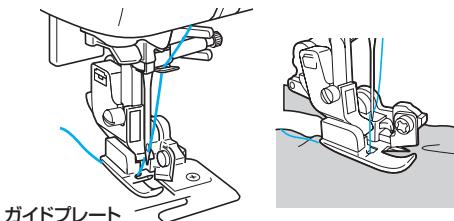


- 7** 布地のぬい始めの部分に2cmの切り込みを入れます。



- 8** 布地をセットします。

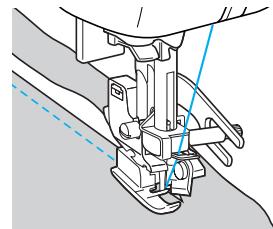
布地の切り込みを入れた部分を、サイドカッター押え<S>のガイドプレートの上に置きます。



お知らせ

- 布地を正しく置かないと、布地が切れません。

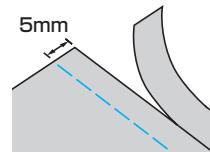
- 9** 押えレバーを下げ、ミシンをスタートさせます。



▶ ぬいしろを裁断しながらぬっていきます。

お知らせ

- 模様を直線 63 [S] にしてぬった場合、ぬいしろは約5mmになります。



お知らせ

- サイドカッター押え<S>で切れる布地の厚さは、13オンスデニム1枚程度までです。
- サイドカッター押え<S>を使用したあとは、糸くずやほこりを取り除いてください。
- 布地が切れなくなってきたときは、サイドカッタ押え<S>の刃を少量の油を含ませた布でふいてください。

直線ぬいをする

基本となる直線ぬいをします。直線ぬいは、次の5模様から選択します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
しつけぬい	6	仮止め			20	5~30	
直線[左]	1	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（左基線／返しぬい）	0.0	0.0~7.0	2.5	0.2~5.0	J
	2	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（左基線／止めぬい）					
直線[中]	3	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（中基線／返しぬい）	3.5				
三重ぬい	4	ぬい目を丈夫にしたいとき、伸びる布地のとき	0.0			1.5~4.0	

※地ぬいとは、2枚以上の布をぬい合わせることです。

! 注意



- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

しつけぬい

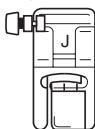
5mmの長さのぬい目でしつけぬいをします。

3 ミシンをスタートさせます。

- 「ミシンをスタートさせる」（→ P.61）を参照してください。

1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押さえを交換する」（→ P.53）を参照してください。



2 模様 6 を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→ P.81）を参照してください。

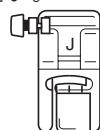


布をぬい合わせる

1 ぬい合わせるところを、しつけまたはまち針で留めます。

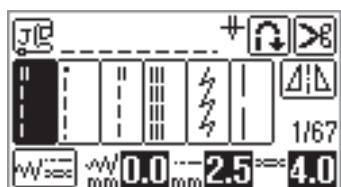
2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.53) を参照してください。



3 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81) を参照してください。



4 プーリーを手前に回してぬい始めの位置に針を刺します。

5 押えレバーを下げる、ミシンをスタートさせます。

- 「ミシンをスタートさせる」(→P.61) を参照してください。

- 返しづいをする場合は、「返しづい／止めぬいをする」(→P.64) を参照してください。

6 ぬい終わったら、糸を切れます。

- 「糸を切る」(→P.65) を参照してください。



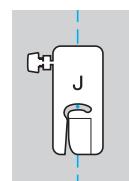
■ 針位置を変えるとき

直線 [左] と直線 [中] は、基線となる針位置が異なります。

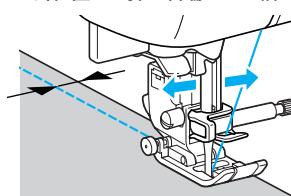
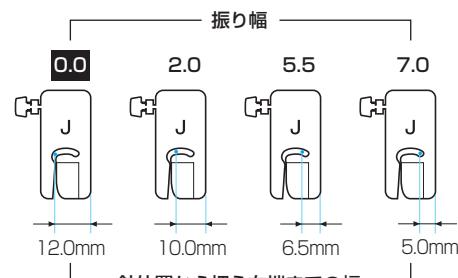
直線 [左]



直線 [中]



直線 [左] は、ジグザグの振り幅が標準の設定(0.0mm)のときに、針位置から押えの右端まで12mmあります。振り幅を変更(0.0~7.0mm)すると、針位置が変えられます。押えの右端に布端を合わせてぬうと、一定の幅でぬうことができます。



お知らせ

- 「模様の幅を調節する」(→P.67) を参照してください。

すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。まつりぬいは、次の2模様から選択します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
まつりぬい	17	普通地のまつりぬい	0.0	3←～→3	2.0	1.0～3.5	R
	18	伸びる布地のまつりぬい					

！ 注意



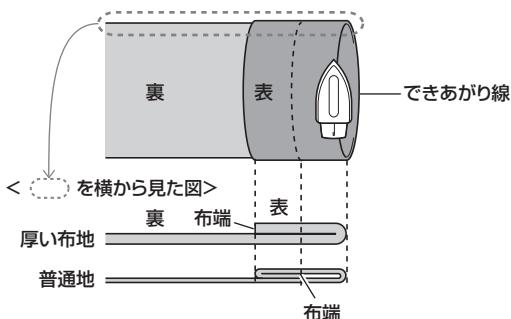
- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

次の手順でまつりぬいをします。

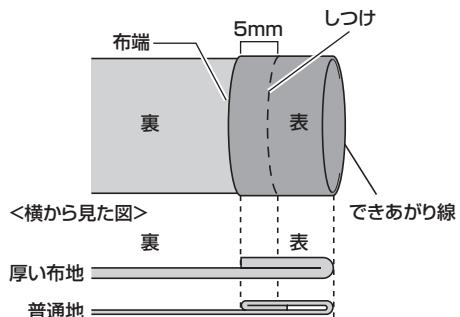
- 1 すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。



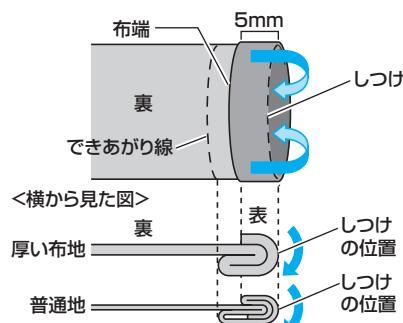
- 2 できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。



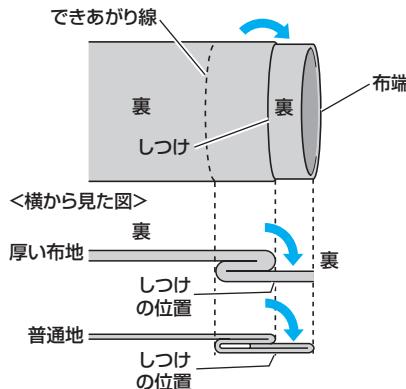
- 3 布端から約5mmのところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。



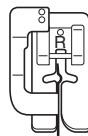
- 4 しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



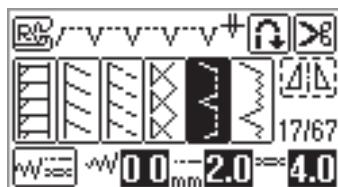
5 布端を開いて裏返します。



6 まつりぬい押え<R>を取り付けます。



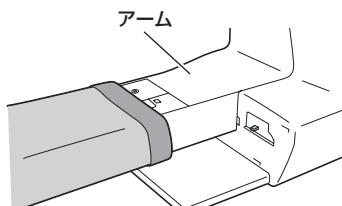
7 模様を選択します。



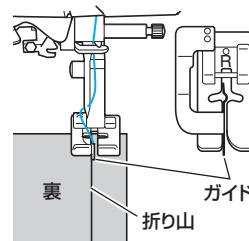
8 ミシンをフリーアームにします。

- 「筒ものや大きなものをぬう」
(→ P.56) を参照してください。

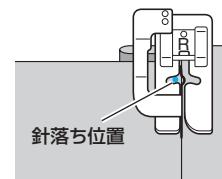
9 アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認します。



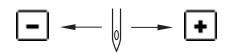
10 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。



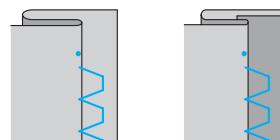
11 プーリーをゆっくり手前に回して針を下げる、針が折り山に少しかかる位置にあるか確認します。



針落ち位置を変更するときは、針を上げてからジグザグの振り幅を変更します。



厚い布地 普通地

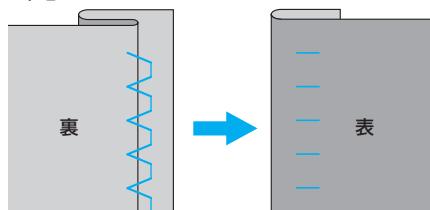


■ 折り山に針がかかりすぎているとき

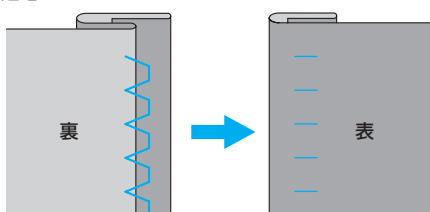
針が左側にいきすぎています。

振り幅の **[+]** を押して針位置を右に動かし、針が折り山に少しかかるように調節します。

厚い布地



普通地

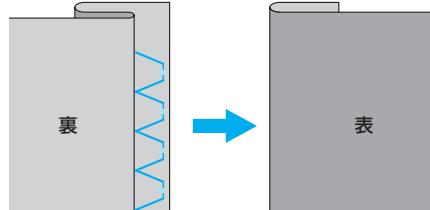


■ 折り山に針がかかるっていないとき

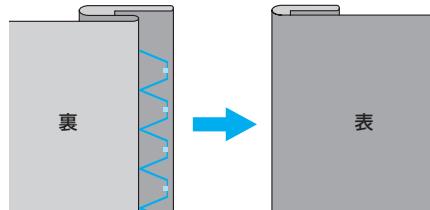
針が右側にいきすぎています。

振り幅の **[-]** を押して針位置を左に動かし、針が折り山に少しかかるように調節します。

厚い布地



普通地



お願い

- 「模様の幅を調節する」(→P.67)を参照してください。

13

ぬい終ったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

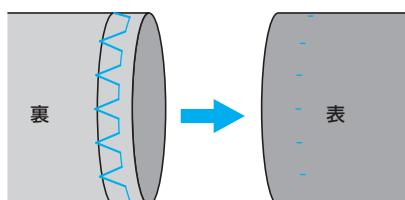


お願い

- ぬい終わった後は、布を後ろに引いてください。前方向や横方向に布を引っ張ると、押えが破損するおそれがあります。

14

しつけをほどき、布地を表に返します。



12

折り山に押えのガイドを沿わせてぬいます。

ボタン穴かがりをする／ボタンを付ける

ボタン穴を作ったり、ボタンをぬい付けたりします。ボタン穴は、用途に合わせて次の10模様から選択します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え		
			自動	手動	自動	手動			
ボタン穴かがり	48		薄地・普通地のねむり穴、横穴	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	A	
	49		力がかかるところの横穴						
	50		厚地の横穴						
	51		張りのある素材の止め用						
	52		伸びる布地・編み地用	6.0	3.0~6.0	1.0	0.5~2.0		
	53		伸びる布地用			1.5	1.0~3.0		
	54		玉ぶち穴かがり (バウンドボタンホール)	5.0	0.0~6.0	2.0	0.2~4.0		
	55		厚地・毛足の長い布地のはとめ穴	7.0	3.0~7.0	0.5	0.3~1.0		
	56		普通地・厚地のはとめ穴						
	57		厚地・毛足の長い布地の横穴						
ボタン付け	61		ボタン付け	3.5	2.5~4.5	-	-	M	

⚠ 注意

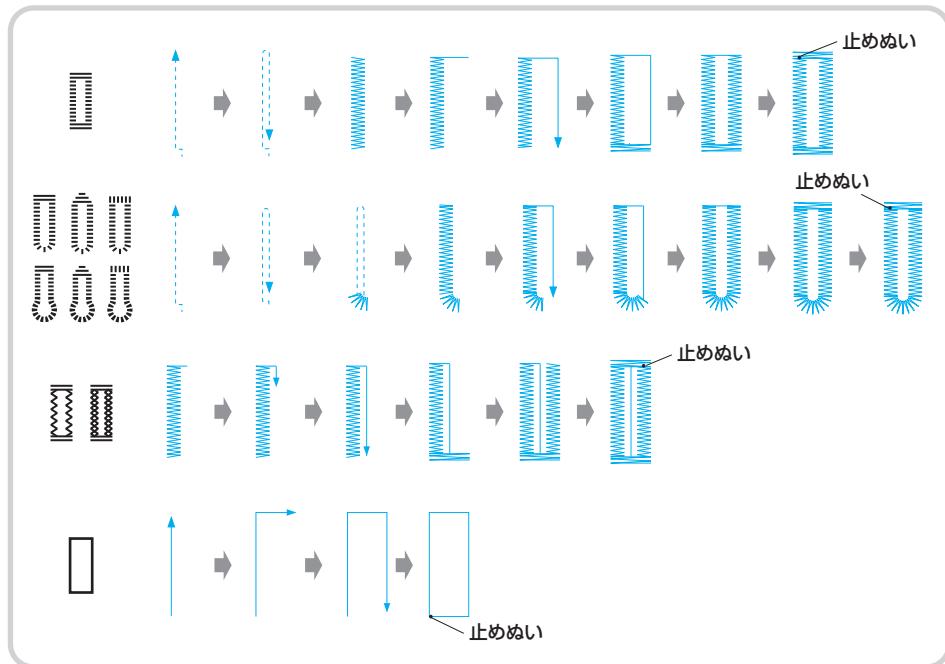


- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

ボタン穴かがりをする

「ボタンの直径+厚み」が約28mm以下のボタン穴を作ることができます。

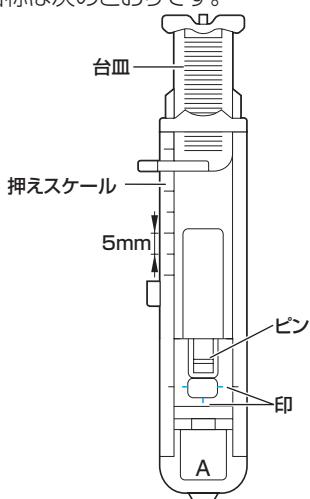
ボタン穴かがりは、次の順で押えの手前から後ろに向かってぬっていきます。



お知らせ

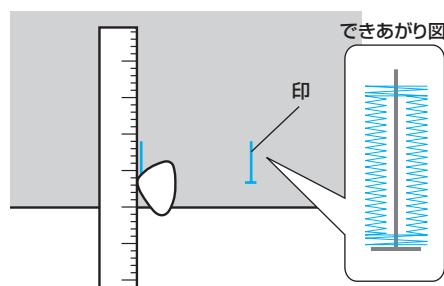
- ボタン穴かがりをするときは、ぬい目の長さや振り幅を確認するため、必ず試しひいをしましょう。

ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え<A>の各部の名称は次のとおりです。

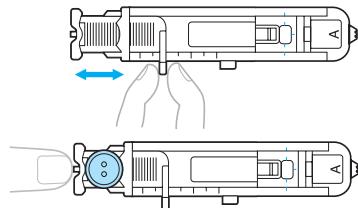


1

ボタン穴かがりをする位置にチャコペンなどで印を付けます。

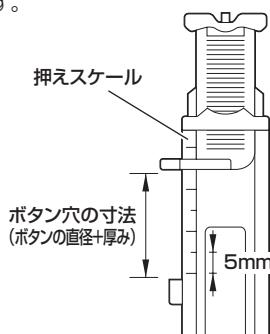


2 ボタン穴かがり押え<A>の台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。

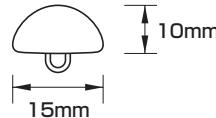


ボタンか台皿にのらないとき

「ボタンの直径+厚み」を、押えスケールの目盛り(1目盛り5mm)に合わせて、ボタンホールの大きさを決めます。



[例] 直径15mm、厚み10mmのボタンの場合
→スケールを25mmに合わせる



▶ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

3 ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。

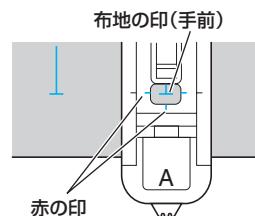
- 「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。

4 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



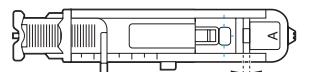
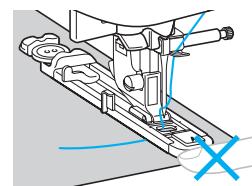
5 押えの赤の印と布地の印の手前側を合わせ、押えを下げます。



上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

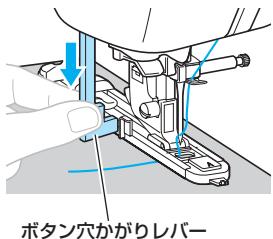
お願い

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。ボタン穴かがりを正確な大きさにねえません。



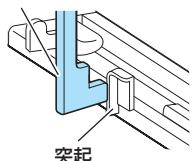
すきまをなくさない

- 6** ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

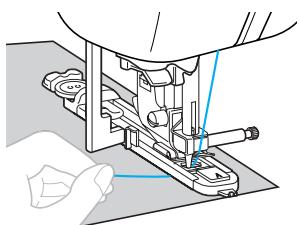


ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。

ボタン穴かがりレバー



- 7** 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▶ 後ろに向かってぬっていきます。ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- 8** (糸切りスイッチ) を1回押します。

▶ 糸が切れ、針が上に上がります。

押えを上げて布地を取り出します。

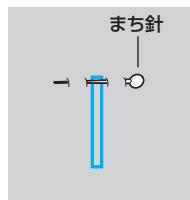


お知らせ

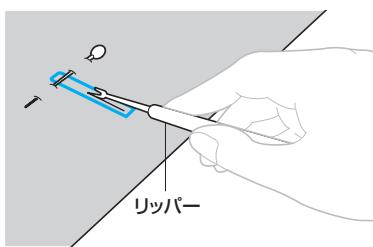
- あらかじめ自動糸切りを設定しておくと、ぬい終わりに止めぬいをしてから自動で糸を切れます。「自動で糸を切る」(→P.71) を参照してください。
- ミシン本体左側面の糸切りやはさみを使って糸を切る場合は、①(針上下スイッチ) を押して針を上げ、押えを上げて布地を取り出し、糸を切れます。「糸切りを使う」(→P.66) を参照してください。

- 9** ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

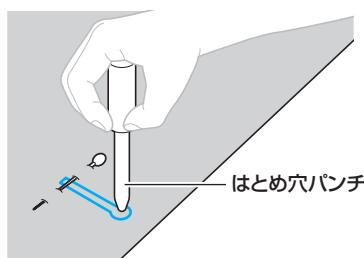
- 10** ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺します。



- 11** 付属のリッパーでボタン穴を切り開きます。



はとめ穴の場合は、付属のはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。



お願い

- はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いてください。



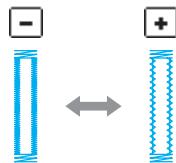
注意



- リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべてたときにケガをするおそれがあります。

■ ぬい目のあらさを変えるとき

ぬい目の長さを調節します。

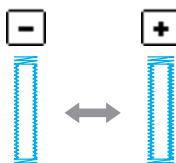


お知らせ

- 「ぬい目の長さを調節する」(→P.68) を参照してください。
- 厚地の場合などで布地が進まないときは、ぬい目をあらくします。

■ 振り幅を変えるとき

ジグザグの振り幅を調節します。



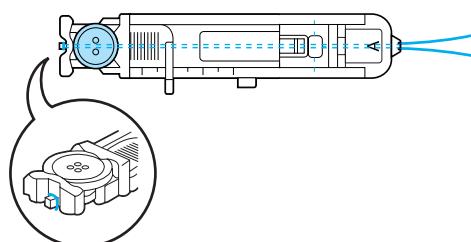
お知らせ

- 「模様の幅を調節する」(→P.67) を参照してください。

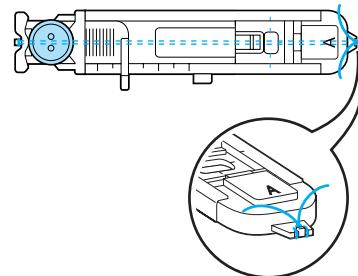
■ 伸びる布地をぬうとき

伸びる布地にボタン穴かがりをするときは、芯ひもを入れてぬいます。

- 1 ボタン穴かがり抑え <A> の図の部分に芯ひもをかけます。



- 2 芯ひもの端を反対側のミゾにはさんで軽く結びます。



- 3 ボタン穴かがり抑え <A> を取り付けます。

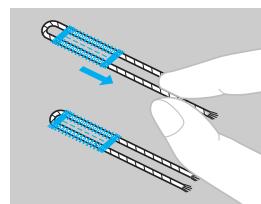
● 「抑えを交換する」(→ P.53) を参照してください。

- 4 模様 52 または 53 を選択します。

- 5 芯ひもの太さより大きめに振り幅を設定します。

- 6 押えレバーとボタン穴かがりレバーを下げる、ミシンをスタートさせます。

- 7 ぬい終わったら、芯ひもを引いてたるみをなくします。

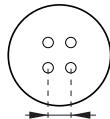


- 8 手ぬい針を使用して布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

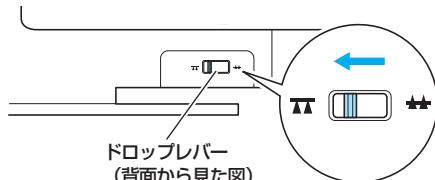
ボタンを付ける

ボタンをぬい付けます。穴が2つまたは4つのボタンが付けられます。

- ぬい付けるボタンの穴の距離を測ります。



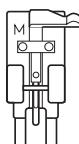
- 押えレバーを上げ、ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側 (▲) にします。



△ 送り歯が下がります。

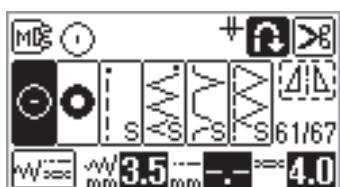
- ボタン付け抑え<M>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。



- 模様 61◎を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。

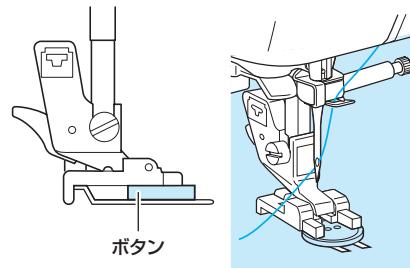


お願い

- あとで糸端を結ぶので、プログラム糸切りは設定しないでください。

- ジグザグの振り幅を穴の距離に合わせます。

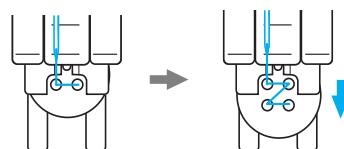
- ぬい付ける位置にボタンを置き、押えレバーを下げます。



△ ボタンの位置が固定されます。

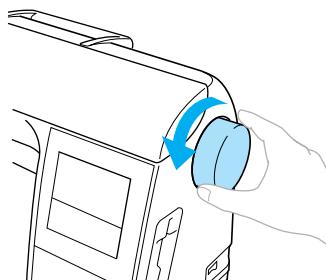
お知らせ

- 4つ穴のボタンを付けるときは、手前の穴を先にぬいます。手前の穴がぬい終わったら、ボタンをずらして後ろの穴に合わせ、もう一度ぬります。



- ブーリーを手前に回し、針がボタンに当たらずボタン穴に交互に入るか確認します。

針がボタンに当たりそうな場合は、ボタン穴の距離を計り直します。



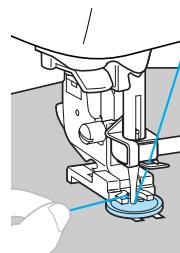
!**注意**



- ぬう際には、ボタンに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

8 ミシンをスタートさせます。

スピードコントロールレバーは「ゆっくり」にします。



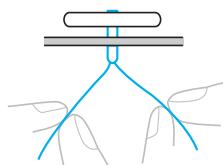
▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

お願い

- あとで糸端を結ぶので、 (糸切りスイッチ)は使用しないでください。

9 ぬい終わりの上糸を布地の裏に引き出し、下糸と結びます。

ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切れます。



10

ボタン付けが終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側 (★★) にして、ブーリーを回して送り歯をもとに戻します。



お知らせ

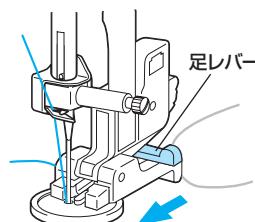
- ドロップレバーは通常、右側にしておきます。
- 送り歯は、次にぬい始めたときに上がります。

■ 足を付けるとき

ボタンの付け根に足(糸足)を付けるときは、ボタンと布地の間にすき間をあけた状態でぬい、あとで手で巻き付けます。ボタンをしっかりと付けることができます。

1

ボタン付け抑え <M> にボタンを取り付けたら、足レバーを手前に引きます。



2

ぬい終わったら、上糸を長めに切り、ボタンと布地の間の糸足に巻き付けて、ぬい始めの上糸と結びます。

ぬい始めとぬい終わりの下糸は、布地の裏側で結びます。



3

余分な糸を切ります。

ファスナーを付ける

ファスナーをぬい付けます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
直線[中]	3	ファスナー付け おとしミシンやピンタック	3.5	0.0~7.0	2.5	0.2~5.0	I

注意

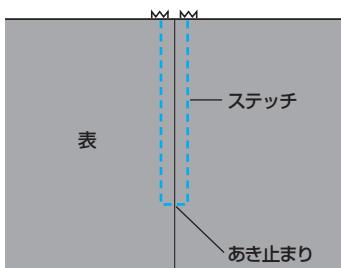


- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

ファスナーの付け方によってぬい方が異なります。ここでは、つき合わせと片返しの場合のぬい方を説明します。

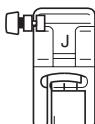
つき合わせ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。



1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。

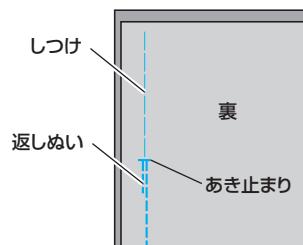


2 あき止まりから下側に地ぬいをします。

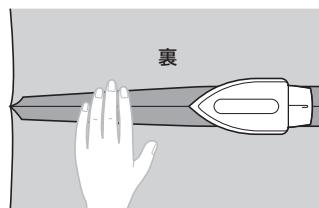
布地は中表にし、あき止まりは返しづいをします。

- 「布をぬい合わせる」(→ P.90) を参照してください。

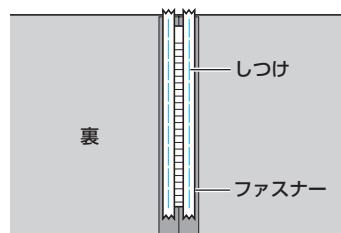
3 ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。



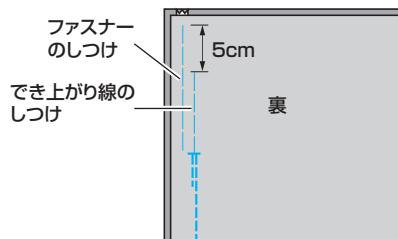
4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



5 ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。

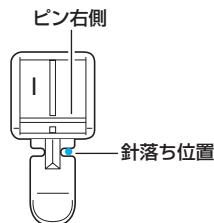


- 6** でき上がり線のしつけを布端から5cm程度ほどきます。



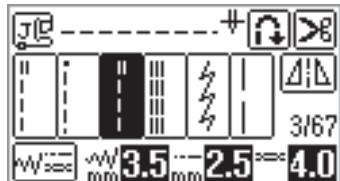
- 7** 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

●「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。



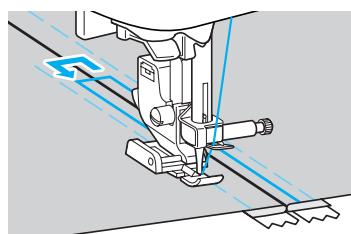
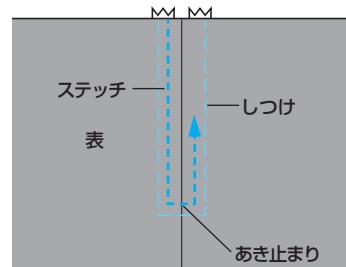
- 8** 模様 3/1を選択します。

●「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



- 9** 布地の表からステッチをかけます。

ファスナーのスライダーが押えに当たる場合は、スライダーを何回か動かしながらステッチをかけます。



注意



- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 10** しつけをほどきます。

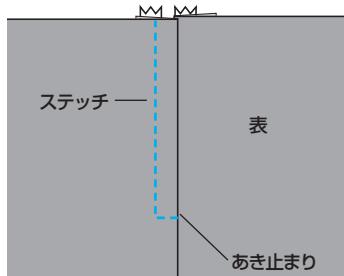
注意



- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線[中]を使用し、ブーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がたりするおそれがあります。

片返し

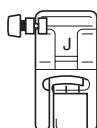
布地の片側にステッチが入ります。脇ファスナーや後ろファスナーのときに使用します。



ここでは、脇ファスナーの場合を例に説明します。

1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。

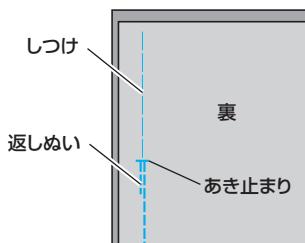


2 あき止まりから下側に地ぬいをします。

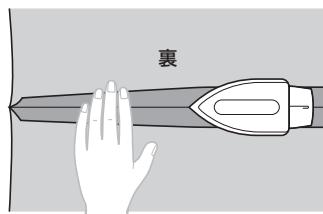
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。

- 「布をぬい合わせる」(→ P.90) を参照してください。

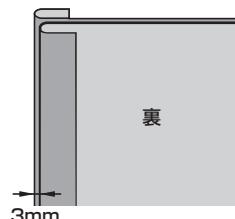
3 ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。



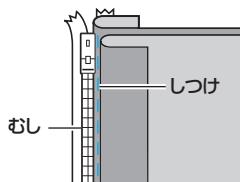
4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



5 右側（ステッチが入らない方）のぬいしろを3mm出してアイロンをかけます。



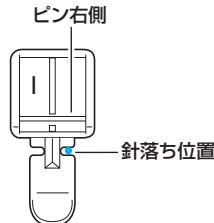
6 3mm出した折り山とファスナーのむしの端を合わせて、しつけまたはまち針で留めます。



7 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

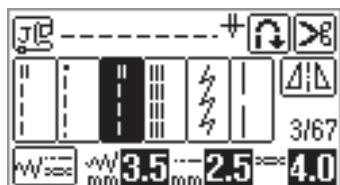
例と反対側をぬう場合は、左側のピンを取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。



8 模様 3^{II}を選択します。

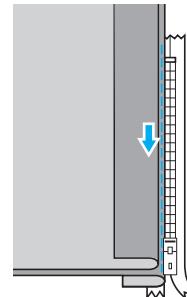
- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



! 注意

- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線[中]を使用し、ブーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がたりするおそれがあります。

9 3mm出した折り山部分を、あき止まりの方からぬいます。

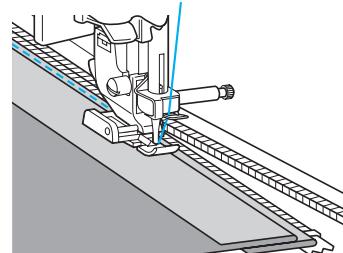


! 注意

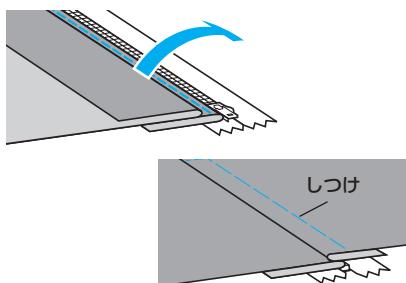
- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

10 残り5cmほどまでぬったらミシンをトップさせ、針を下げたまま押えを上げます。

11 ファスナーを開いて続きをぬいます。

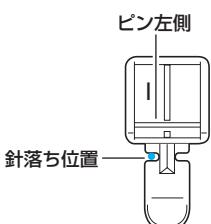


- 12** ファスナーをとじて表に返し、反対側をしつけします。



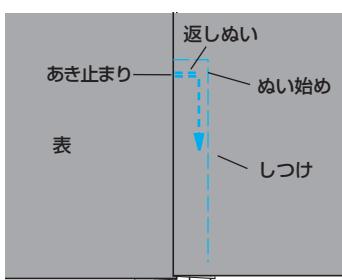
- 13** 片押え<I>のピンの逆側を押えホルダーに取り付けます。

⑦ で右側に取り付けた場合は、左側に取り付けます。



- 14** 布地の表からステッチをかけます。

あき止まり側から返しぬいをし、しつけをめやすにしてぬいます。

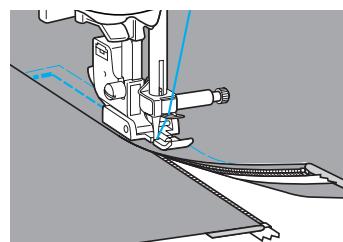


!**注意**

- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 15** 残り5cmほどまでぬったらミシンをトップさせ、針を下げたまま押えを上げます。

- 16** でき上がり線のしつけをほどいてファスナーを開き、続きをぬいます。



伸びる布地やゴムテープをぬう

伸びる布地をぬったり、ゴムテープをぬい付けたりします。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
伸縮ぬい	5	伸びる布地	1.0	1.0~3.0	2.5	1.0~4.0	
2点ジグザグ	9						
3点ジグザグ	10	ゴムテープ付け	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	J
ゴムひもつけ	34	伸びる布地のゴムテape付け	4.0	0.0~7.0			

注意

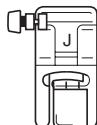


- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

伸縮ぬい

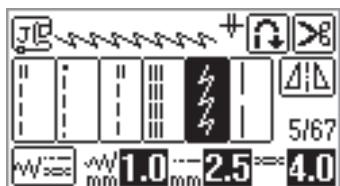
1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。

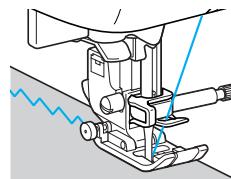


2 模様 5 [] を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



3 布地を伸ばさないようにぬいます。

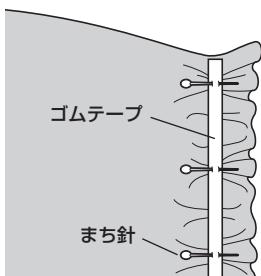


ゴムテープ付け

そこで口やウエストなどにゴムテープをぬい付ける場合、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

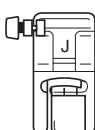
1 まち針で布地の裏側にゴムテープを留めます。

布地とゴムテープが均等になるように数か所留めます。



2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

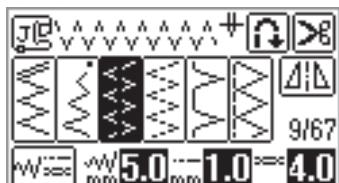
- 「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。



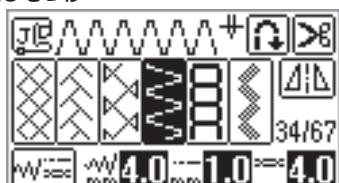
3 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。

2点ジグザグ

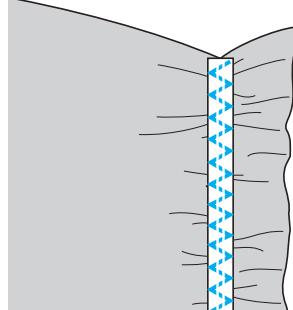
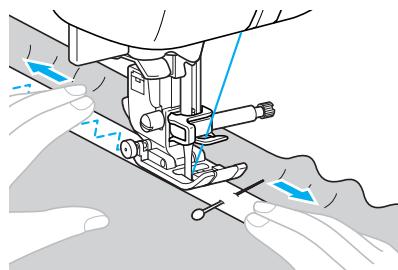


ゴムひもつけ



4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。



注意



- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう

アップリケやパッチワーク、キルトをぬうときに使用する模様について説明します。

キルトをぬうときは、フットコントローラーやニーリフターを使用すると便利です。フットコントローラーとニーリフターの使い方については、「フットコントローラーを使う」(→P.62)、「ニーリフターを使う(EMU18シリーズのみ)」(→P.77)を参照してください。

※ニーリフターは、EMU19シリーズでは使用できません。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ジグザグ	7 	アップリケ布のぬい付け（中基線／返しない）	3.5	0.0~7.0	1.4	0.0~4.0	J
	24 	アップリケキルト、フリーモーションキルト、サテンぬい					
アップリケ	19 	アップリケ布のぬい付け	1.5	0.5~5.0	2.5	1.6~4.0	J
	25 	アップリケ、バインディング					
ピーシング直線	21 	ピーシング用直線 (押え右端から7mmのぬいしろ)	5.0	0.0~7.0	1.6	0.2~5.0	J
	22 	ピーシング用直線 (押え左端から7mmのぬいしろ)					
つき合わせ	28 	パッチワーク	4.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	J
	29 						
	30 						
手ぬい風直線	23 	手ぬい風キルト直線	0.0	0.0~7.0	2.5	1.2	0.2~4.0
キルティング模様	26 	キルトの背景ぬい	7.0	1.0~7.0	1.6	1.0~4.0	

⚠ 注意



- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

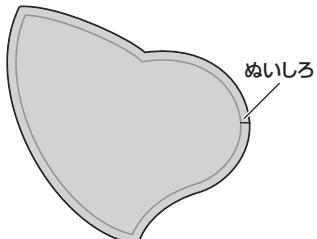


お知らせ

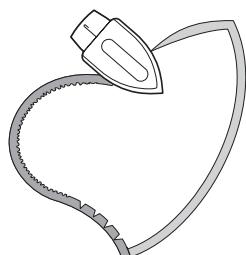
- 液晶画面に「Q」と表示されている模様はキルティング用、「P」はピーシング用の模様です。

アップリケ

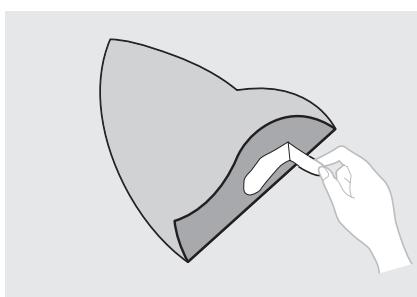
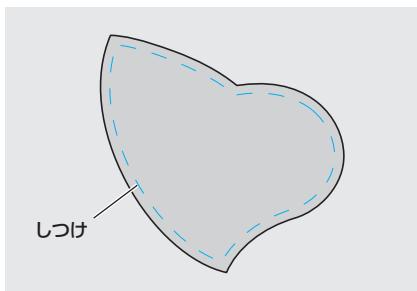
- 1 アップリケ布は3~5mmのぬいしろを付けて裁断します。



- 2 アップリケ布の裏に厚紙の型紙をあてて、アイロンででき上がり線を折ります。

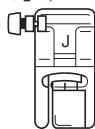


- 3 アップリケ布を表に返し、土台になる布地にしつけまたはのりで留めます。



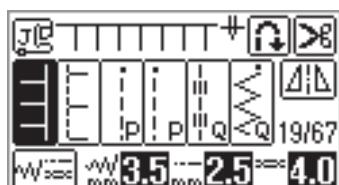
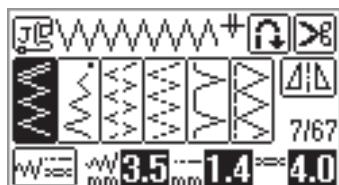
- 4 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

●「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。

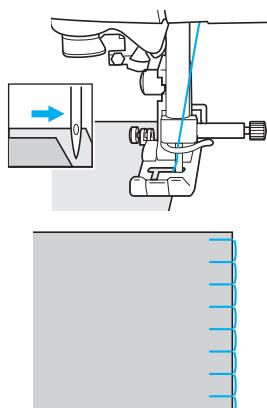


- 5 模様を選択します。

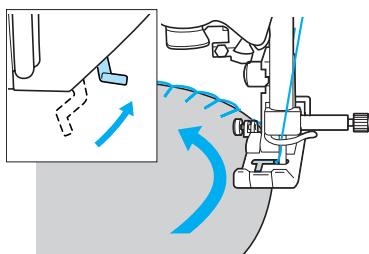
●「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



- 6 ブーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。

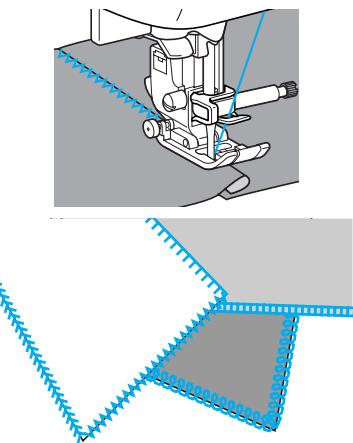


急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したまま、押えを上げて少しずつ方向を変えながらぬいます。



パッチワーク(クレイジーキルト)

- 1** 上側になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。
- 2** 両方の布地に模様がまたがるようにねいます。

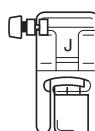


ピーシング

パッチワークで布と布(ピース)をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布地は、すべて7mmのぬいしろを付けて裁断します。
ピーシング用直線は、押えの右端、または左端から7mmのところをぬいます。

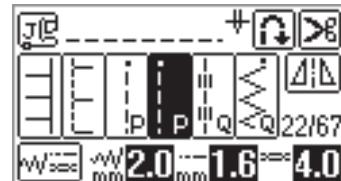
- 1** ピーシングする布地のぬいしろを、しつけまたはまち針で留めます。
- 2** ジグザグ押え<J>を取り付けます。

●「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。



- 3** 模様 21 [P] または 22 [P] を選択します。

●「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



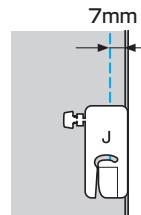
お知らせ

● ピーシング用直線は、液晶画面に「P」と表示されています。

- 4** 押えの端に布端を合わせてねいます。

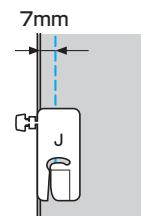
ぬいしろが右側のとき

押えの右端に布端を合わせ、21 [P] の模様でねいます。



ぬいしろが左側のとき

押えの左端に布端を合わせ、22 [P] の模様でねいます。



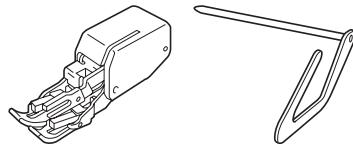
お知らせ

● ぬいしろの幅を変更する(針位置を変更する)場合は、「模様の幅を調節する」(→ P.67) を参照してください。

キルティング

表布と裏布の間にキルト綿をはさんでねい合わせることを、「キルティング」といいます。ウォーキングフットや別売のキルターを使用すると、きれいにぬうことができます。

*ウォーキングフットは、EMU19シリーズでは別売品です。

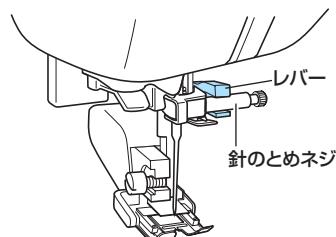


1 キルティングする布地をしつけで留めます。

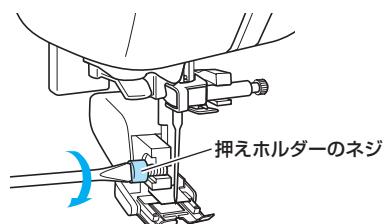
2 押えと押えホルダーを取り外します。

- 「押えホルダーを取り外す」(→ P.55) を参照してください。

3 ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で、針のとめネジの棒をはさみます。



4 押えレバーを下げる、押えホルダーのネジを差し込んで、ドライバーでしめます。



▶ ウォーキングフットが取り付けられます。

注意

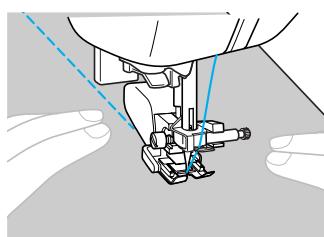


- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が抑えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にブーリーをゆっくりと手前に回し、針が押さえに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

5 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。

6 押えの両側に手を置き、布地をしっかりと張ってぬいます。

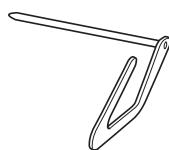


お願ひ

- ウォーキングフットを使用するときは、手で針に糸を通すか、または糸通しレバーで糸を通してから、ウォーキングフットを取り付けてください。
- ウォーキングフットを使用するときは、速さをゆっくり～中速でぬってください。
- キルティングをするときは、14番の針を使用してください。

■ キルターを使う

別売のキルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

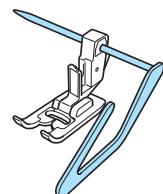


- 1 ウォーキングフットまたは押えホルダーの穴に、キルターの棒を差し込みます。

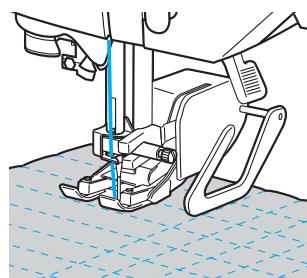
ウォーキングフット



押えホルダー



- 2 紬終わったぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。

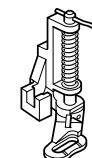


フリーモーションキルト

フリーモーションキルトをするときは、送り歯を下げて(ドロップフィード)布地が自由に動かせるようにします。

フリーモーションキルトをするときは、キルト押えを使用します。

※キルト押えは、EMU19シリーズでは別売品です。



お願い

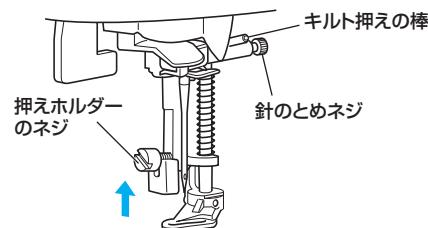
- キルト押えを使用するときは、手で針に糸を通すか、糸通しレバーで糸を通した後に、キルト押えを取り付けてください。

- 1 押えと押えホルダーを取り外します。

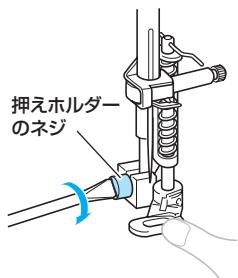
- 「押えホルダーを取り外す」(→ P.55) を参照してください。

- 2 キルト押えを押えホルダーのネジにはめます。

キルト押えの棒が、針のとめネジの棒の上になります。



- 3** キルト押さえを右手で押さえ、左手ドライバーを回して押えホルダーのネジをしめます。

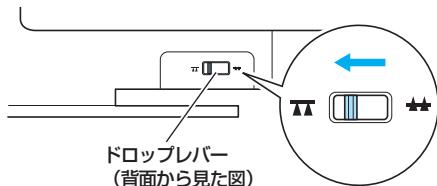


!**注意**



- ネジは、付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 4** ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側 (▲) にします。

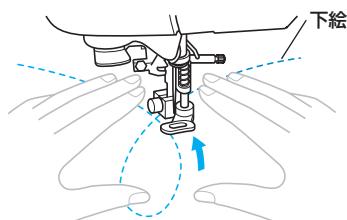


▶ 送り歯が下がります。

- 5** 電源を入れ、模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」 (→ P.81) を参照してください。

- 6** 両手で布地を張ってたるまないようにし、下絵をなぞるように布地を動かします。ぬい始めとぬい終わりは、止めぬいをします。



- 7** ぬい終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側 (▼) にし、ブーリーを回して送り歯をもとに戻します。

お知らせ

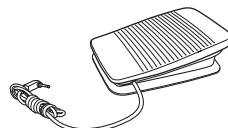
- ドロップレバーは通常、右側にしておきます。
- 送り歯は、次にぬい始めたときに上がります。

振幅コントロールを使ったサテンぬい

サテン模様でジグザグの振り幅を変化させて、飾り模様をぬうことができます。スピードコントロールレバーの設定を変更して、振り幅の調節が手もとでできるようにします。ぬう速度は、フットコントローラーで調節します。

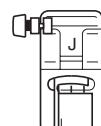
- 1** フットコントローラーを取り付けます。

- 「フットコントローラーを使う」 (→ P.62) を参照してください。



- 2** ジグザグ押さえ<J>を取り付けます。

- 「押さえを交換する」 (→ P.53) を参照してください。



- 3** 電源を入れ、操作パネルの [設定] (設定キー) を押します。



▶ 設定画面が表示されます。

4 振幅コントロールのONを押します。



△ スピードコントロールレバーでジグザグの振り幅が変更できるようになります。

お知らせ

- 振幅コントロールをONにすると、糸と1本針／2本針の設定画面の振り幅の [-] [+] が に切り替わります。

5 [戻るキー] を押します。



△ もとの画面に戻ります。

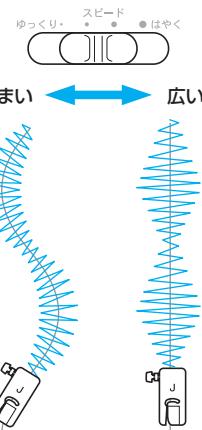
6 模様 を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



7 ぬいながらスピードコントロールレバーを動かして振り幅を調節します。

レバーを左に動かすと振り幅はせまくなり、右に動かすと広くなります。



お知らせ

- ぬう速度は、フットコントローラーで調節します。
- フットコントローラーをミシン本体に接続しているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。

8 ぬい終わったら、振幅コントロールをOFFに戻します。

お知らせ

- ぬい目の長さを0.3~0.5mmに設定するといいなサテン模様になります。(布地の種類や糸の太さによって異なります。)

丈夫にしたいところをぬう

そでぐりや股ぐりなどのぬい目を丈夫にしたり、ポケット口などのあき止まり部分を補強するときに使用します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
三重ぬい	4 	そでや股下などのぬい目を丈夫にする	0.0	0.0~7.0	2.5	1.5~4.0	J
かんどめ	60 	ポケット口などのあき止まりの補強	2.0	1.0~3.0	0.4	0.3~1.0	
ダーニング	58 	普通地のつくろいぬい					A
	59 	厚地のつくろいぬい	7.0	2.5~7.0	2.0	0.4~2.5	

！ 注意



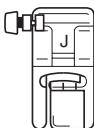
- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

三重ぬい

そでぐりや股ぐりなど、ぬい目を丈夫にしたいところをぬうときに使用します。

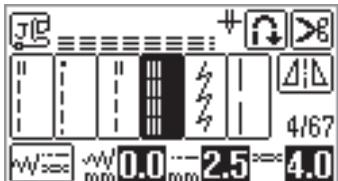
1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。



2 模様 4 を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



3 ミシンをスタートさせます

- 「ミシンをスタートさせる」(→ P.61) を参照してください。

いろいろなぬい方

丈夫にしたいところをぬう

かんどめ

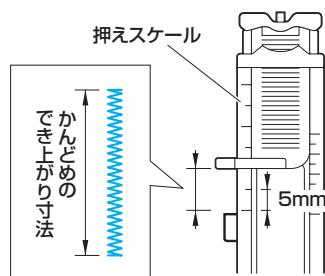
かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに使用します。

ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



1 かんどめの長さを決めます。

ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り（1目盛り5mm）を合わせて、長さを決めます。



お知らせ

- 最大約28mmのかんどめができます。

2 ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます

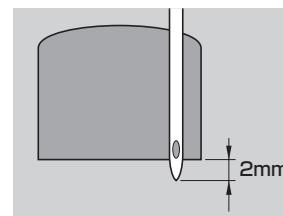
- 「押えを交換する」（→ P.53）を参照してください。

3 模様 60 [] を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→ P.81）を参照してください。



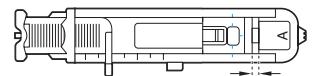
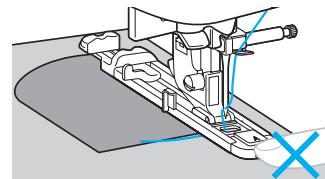
4 ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より2mm手前に針が刺さる位置で押えを下げます。



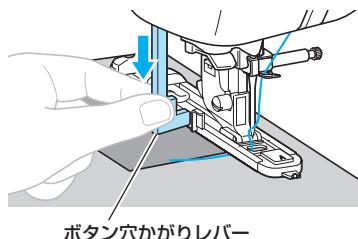
上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

お願い

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。かんどめを正確な大きさにねえません。



- 5** ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

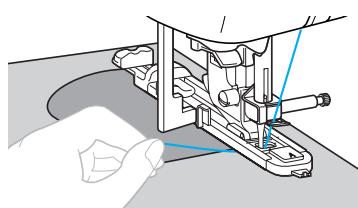


ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。

ボタン穴かがりレバー



- 6** 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- 7** 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

- 8** ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。



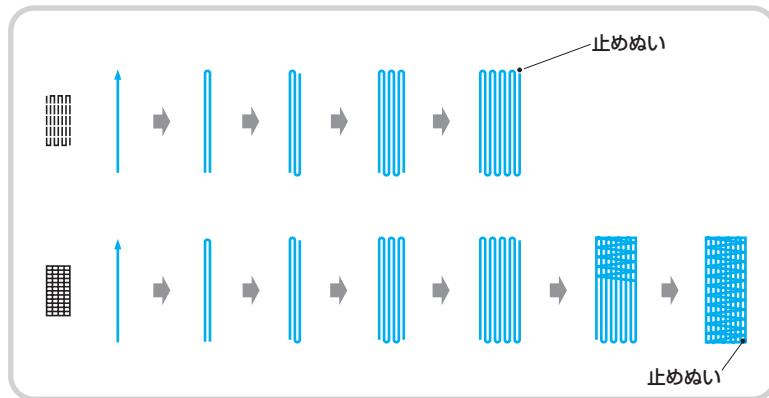
お知らせ

- 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く（ぬい目をあらく）します。「ぬい目の長さを調節する」(→P.68)を参照してください。

つくろいぬい(ダーニング)

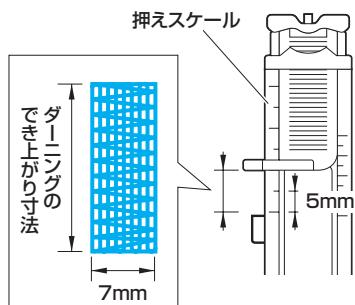
布地がやぶれたときなどに、つくろいぬいをします。

ダーニングは、次の順でぬっていきます。



1 つくろいぬいをする長さを決めます。

ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り（1目盛り5mm）を合わせて、長さを決めます。



お知らせ

- 最大約28mmのダーニングができます。

2 ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。

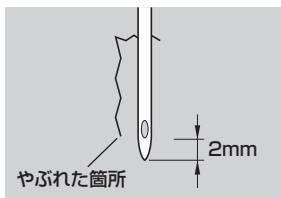
- 「押えを交換する」（→ P.53）を参照してください。

3 模様 58 または 59 を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→ P.81）を参照してください。



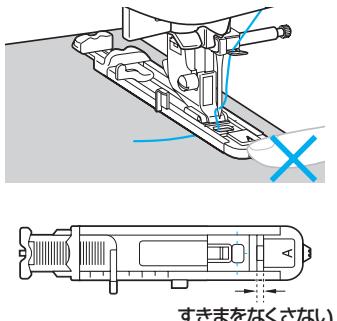
- 4** やぶれた箇所から2mm手前に針が刺さるように布地を置き、押えを下げます。



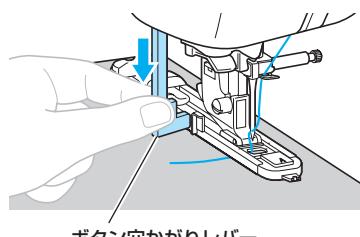
上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

お願い

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。ダーニングを正確な大きさにねえません。

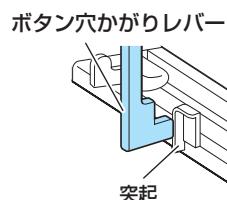


- 5** ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

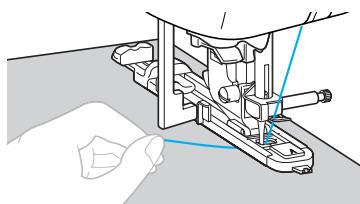


ボタン穴かがりレバー

ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



- 6** 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- 7** 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

- 8** ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

お知らせ

- 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く（ぬい目をあらく）します。「ぬい目の長さを調節する」（→P.68）を参照してください。

はとめ穴を作る

ベルトの穴などに使用するはとめ穴（アイレット）を作ります。7mm・6mm・5mmの大きさのはとめ穴ができます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
アイレット	62 	ベルトの穴かぎりなど	7.0	7.0 / 6.0 / 5.0	7.0	7.0 / 6.0 / 5.0	N



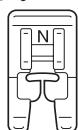
注意



- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

1 模様ぬい押え<N>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。



2 模様 62 を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。

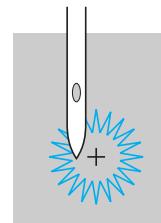


3 ジグザグの振り幅、またはぬい目の長さのいずれかを調節して、穴の大きさを選択します。

- 「ぬい目を調節する」(→ P.67) を参照してください。



4 ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。

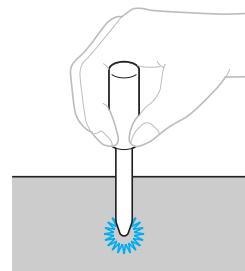


5 ミシンをスタートさせます。

- ▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

6 付属のはとめ穴パンチで穴を開けます。

布地の下に厚紙などを敷いて穴を開けます。



お知らせ

- 細い糸でぬうと、ぬい目があらくなることがあります。その場合は、重ねて2回ぬうときれいにできあがります。

飾りぬいをする

いろいろな飾りぬいができます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ファゴティング	32	布地と布地の間を離してかがる	5.0	0.0 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0	J
	33			2.5 ~ 7.0			
つき合わせ	28	飾りぬい	5.0	0.0 ~ 7.0	1.2	0.2 ~ 4.0	J
	29			2.5 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0	
	30				1.2	0.2 ~ 4.0	
シェルタック	20	シェルタック	4.0	0.0 ~ 7.0	2.5		
スモッキング	31	スモッキング	5.0		1.6		N
	32					1.0 ~ 4.0	
	33				2.5		
スカラップ	27	サテンスカラップ		2.5 ~ 7.0	0.5	0.1 ~ 1.0	
飾りぬい	39	レース付け、ふち飾り、ヘアルームなど	3.5		2.5	1.6 ~ 4.0	N
	40				3.0		
	41	薄地・普通地・平織り布のふち飾り、ヘアルームなど	5.0		3.5		
	42				4.0		
	43				2.5	1.5 ~ 4.0	
	44				2.0		
	45				3.0		
	46	ふち飾り、リボン通し、ヘアルームなど	6.0				
	47				1.6	1.0 ~ 4.0	

いろいろなぬい方

飾りぬいをする

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
飾りぬい	35	飾りぬい	4.0	0.0~7.0	3.0	2.0~4.0	J
	36				2.5	1.0~4.0	
	37		5.5	1.5~7.0	1.6	1.0~4.0	N
	38				1.0	0.2~4.0	

！ 注意



- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

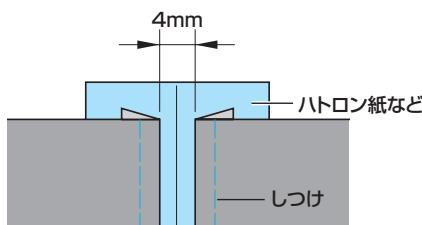
ファゴティング

布地と布地の間を離して糸でかかるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに使用します。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。

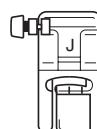
2 ハトロン紙などの薄い紙に4mmの間隔をあけて、布地をしつけします。

ハトロン紙の中央に線を書いておくとぬいやすくなります。



3 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

●「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。



4 模様 32 または 33 を選択します。

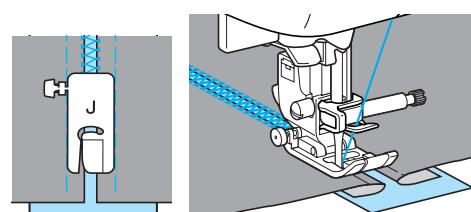
●「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



5 ジグザグの振り幅を7mmに設定します。

●「模様の幅を調節する」(→ P.67) を参照してください。

6 押えの中心を布地と布地の中心に合わせてぬいいます。



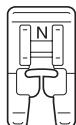
7ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。

スカラップ

貝殻を並べたような連続した波形の模様を「スカラップ」といいます。ブラウスの衿やハンカチのふち飾りなどに使用します。

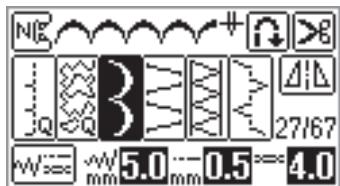
1 模様ぬい押え<N>を取り付けます。

- 「押さえを交換する」(→ P.53) を参照してください。

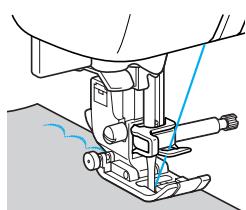


2 模様²⁷Bを選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



3 模様が布端にかかるないように、布端から少し離してぬいいます。

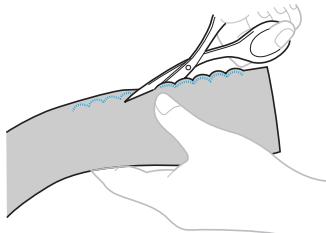


お知らせ

- ぬう前に布地にアイロン用スプレーのりをかけておくと、きれいに仕上がります。

4 ぬい目に沿って布端を切ります。

糸を切らないように注意してください。

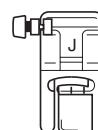


スマッキング

ギャザーの上に模様や刺しゅうをした飾りぬいのことを「スマッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに使用します。

1 ジグザグ押さえ<J>を取り付けます。

- 「押さえを交換する」(→ P.53) を参照してください。



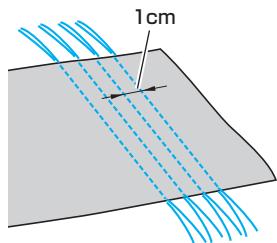
2 直線を選択し、ぬい目の長さを4.0mm、上糸調子を弱めにします。

下糸は上に引き出しておきます。

- 「ぬい目の長さを調節する」(→ P.68)、「糸調子を調節する」(→ P.68)、「下糸を引き出してからぬう」(→ P.49)を参照してください。

- 3** 1cmの間隔をあけて、平行に数本ぬいします。

ぬい終わりは、糸を5cmほど引き出して切ります。

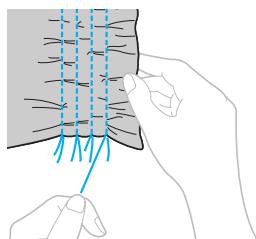


お願い

- 返しぬいと糸切りはしないでください。

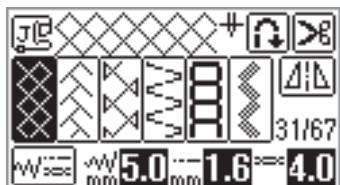
- 4** 下糸を引いてギャザーを寄せます。

アイロンでギャザーを整えておきます。

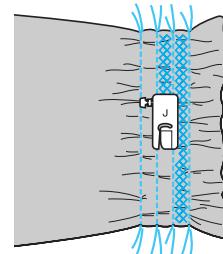


- 5** 模様³¹ または³² 、³³ を選択します。

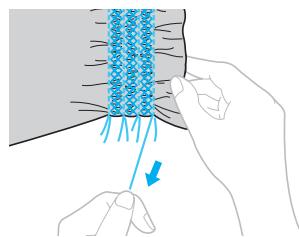
- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



- 6** 直線ぬいの間をぬいます。



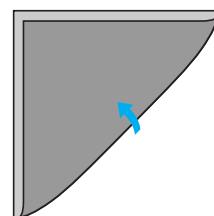
- 7** 直線ぬいの糸を抜き取ります。



シェルタック

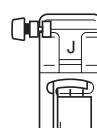
貝殻を並べたような連続したひだを作ることを「シェルタック」といいます。ふちどりや、ブラウスの胸もと、そで口の飾りなどに使用します。薄地の布地を使用します。

- 1** 布地をバイアスに折ります。



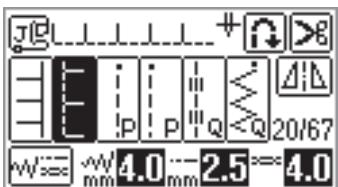
- 2** ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押さえを交換する」(→ P.53) を参照してください。

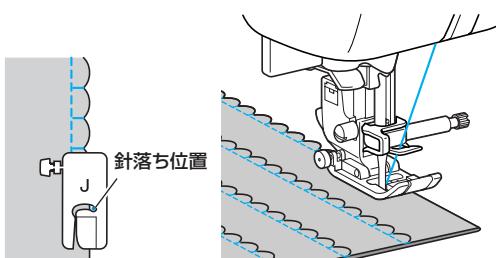


3 模様 20 [] を選択し、上糸を強めにします。

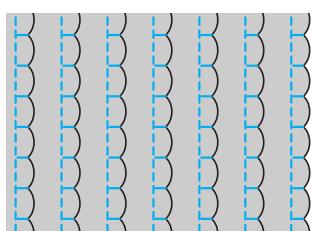
- 「模様を選ぶ」(→ P.81)、「糸調子を調節する」(→ P.68) を参照してください。



4 針が布端から少し外に落ちるようにねいます。



5 布地を開き、折り山を片側に倒してアイロンをかけます。

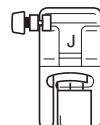


つき合わせ

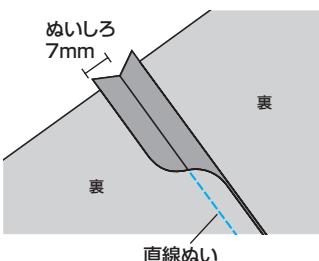
つき合わせたぬいしろ部分の上から飾り模様をぬいます。クレイジーキルトなどに使用します。

1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。



2 直線ぬいを選択し、布地を中表にしてぬい合わせ、ぬいしろを開きます。

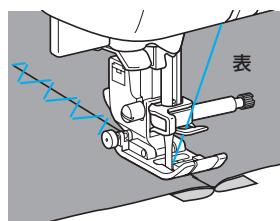


3 模様 28 [] または 29 [] 、 30 [] を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



4 布地を表に返し、押えの中心と布地と布地の中心を合わせてぬいます。



ヘアルーム

別売のウイングニードルを使用し、針穴を大きくあけてレース風の飾り模様をぬいます。すその飾りやテブルクロスなどに使用します。薄地または普通地で、張りのある平織りの布地を用意します。

1 ウィングニードルを取り付けます。

- 針の取り付け方は、「針を交換する」(→ P.51) を参照してください。

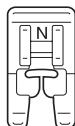


お知らせ

- ウィングニードルは、別売のWN001を使用してください。
- ウィングニードルを取り付けたときは、糸通し装置は使用できません。糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。針穴の手前から向こう側に手で糸を通してください。「手で針に糸を通すとき」(→P.46)を参照してください。

2 模様ぬい押え<N>を取り付けます。

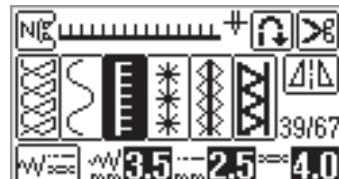
- 「押さえを交換する」(→ P.53) を参照してください。



3 模様を選択します。

模様は39 40 41 42 43 44
45 46 47 が適しています。

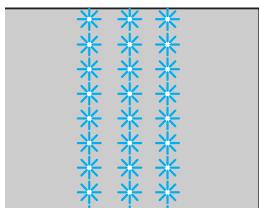
- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



お願い

- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅を、6.0mm以下に設定してください。

4 ミシンをスタートさせます。



！ 注意



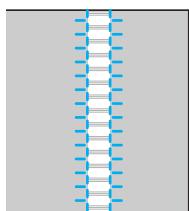
- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅は、6.0mm以下に設定してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- ジグザグの振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

ヘアームの一一種で部分的に糸を抜き取ってかがるぬい方を「ドロンワーク」といいます。織りがゆるい布地を使用すると、きれいに仕上がります。

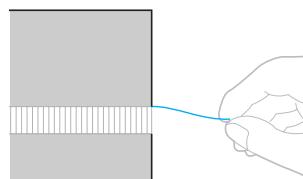
ここではドロンワークのぬい方の例を2つ紹介します。

■ ドロンワーク（例 1）

模様を左右反転させて、2回ぬいます。

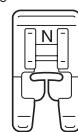


1 布地の織り糸を数本抜き取ります。



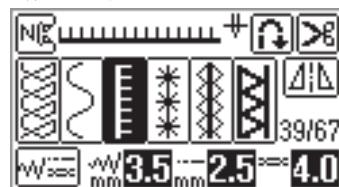
2 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

- 「押えを交換する」(→ P.53) 参照してください。

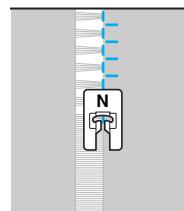


3 模様³⁹ を選択します。

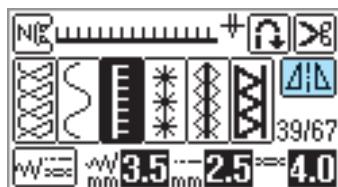
- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



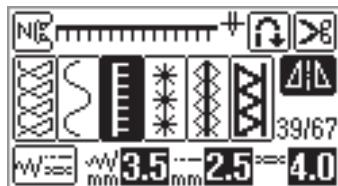
4 織り糸を抜き取った右端をぬいます。



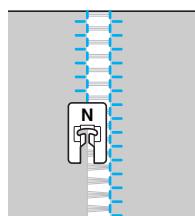
5  を押します。



▶  になり、液晶画面上部に表示された模様が反転します。



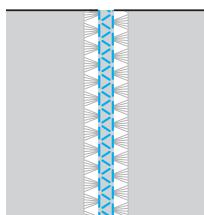
6 模様が対照になるように反対側をぬいます。



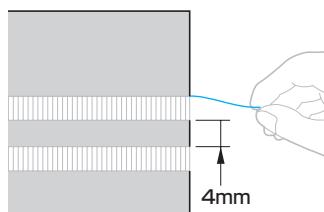
7  を押し、模様の反転を解除します。

■ ドロンワーク（例 2）

布地の織り糸を抜き取った間をぬいます。

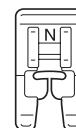


1 布地の織り糸を数本抜き取り、約4mmの間隔をあけて、同様に抜き取ります。



2 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

- 「押さえを交換する」（→ P.53）を参照してください。

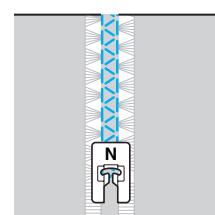


3 模様  を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→ P.81）を参照してください。



4 織り糸を抜き取った間の布地の中心をぬいます。



いろいろな模様をぬう

アルファベット(3種類)、ひらがな／カタカナ、飾り模様、サテンステッチ、飾りサテン、クロスステッチ、実用飾り模様がぬえます。すべて、模様ぬい抑え<N>を取り付けてぬいます。

模様をきれいにぬうには

きれいに模様を仕上げるために、以下の点に注意してください。

布地

伸びる布地や薄地、織りがあらい布地は、裏に別売の接着芯を貼るか、またはトレーシングペーパーなどの薄い紙を布地の下に敷いてぬいます。サテンステッチをぬうときは、ぬい縮みやぬい詰まりが起きることがあるので、必ず接着芯を貼ってください。

針・糸

針は、薄地・普通地・伸びる布地のときは、ブラザー専用 HG 針ニット用（金色）、厚地のときは家庭用ミシン針 (HA × 1) 14 番を使用します。糸は 50 ～ 60 番を使用します。

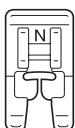
試しづい

布地の種類や厚さ、接着芯などによって模様がくずれことがあります。必ず試しづいをしてください。また、ぬうときには布地がずれないように、手を添えてぬってください。

模様のぬい方

1 模様ぬい抑え<N>を取り付けます。

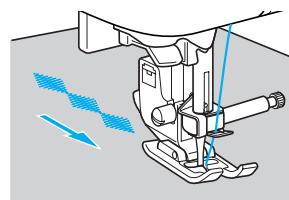
- 「押さえを交換する」（→ P.53）を参照してください。



2 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→ P.81）を参照してください。

3 ミシンをスタートさせます。



► 模様が矢印の方向にぬわれます。

4 止めぬいをします。

お知らせ

- アルファベット・ひらがな・カタカナ・漢字の場合は、1文字ずつ自動的に止めぬいをします。
- 文字以外の模様をぬうときは、あらかじめ自動止めぬいを設定しておくと便利です。「自動で返しづい／止めぬいをする」（→P.70）を参照してください。

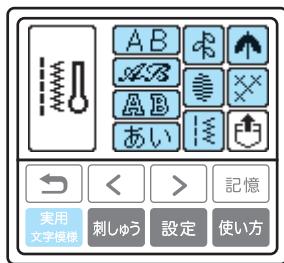
5 むい終わったら、ぬい始めの糸や模様の間の渡り糸をはさみで切れます。



模様を組み合わせる

複数の模様を組み合わせてぬうことができます。

- 操作パネルの **実用 文字模様** (実用／文字模様キー) を押して、模様グループを選択します。



- 1つ目の模様を選択します。



お知らせ

- この時点でぬうと、ミシンをストップさせるまで1つの模様がくり返されます。

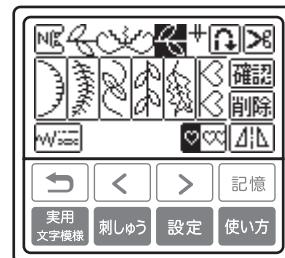
- 次の模様を選択します。

グループを変更するときは、**(戻るキー)**を押します。模様グループを選択してから、次の模様を選択してください。

選択した模様を取り消すときは、**削除**を押します。最後に選択した模様が取り消されます。



- 3をくり返します。



- 模様を選択したら、ミシンをスタートさせます。

ぬう方向



- ▶ 液晶画面に表示された順番に、模様がぬわれます。



お知らせ

- 模様は70個まで組み合わせることができます。
- 実用模様は組み合わせられません。
- 複数の模様を組み合わせたときは、液晶画面に表示された模様をぬい終わると、ミシンはストップします。組み合わせた模様をくり返してぬうときは、「模様をくり返しぬう」(→P.131)を参照してください。
- 組み合わせた模様をミシンに記憶させることができます。「模様を記憶させる」(→P.134)を参照してください。

模様をくり返しぬう

模様をくり返しぬうすることができます。

1 模様を選択します。

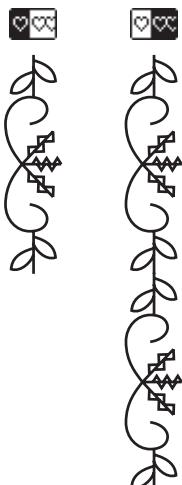
- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。

2 を押します。

もう一度押すと、 に変わります。



▶  が  になり、選択した模様がくり返しぬわれます。



お知らせ

-  に設定した場合、ミシンをストップさせてくり返しぬわれます。
- 電源を切ると、もとの設定に戻ります。

模様を確認する

模様は70個まで組み合わせることができます。選択した模様が液晶画面に表示しきれないときは、次の手順で模様を確認します。

1 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。

2 を押します。



▶ 模様の確認画面が表示されます。

3 で表示を切り替えて、模様を確認します。



4 (戻るキー) を押します。

▶ もとの画面に戻ります。

模様の大きさを変える

アルファベット（ゴシック体・アウトライン）とひらがな／カタカナは、模様の大きさを大／小に切り替えることができます。

その他の模様は、大きさを切り替えることはできません。

1 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→ P.81）を参照してください。

2 大小 を押して、サイズを切り替えます。



3 ①～②を繰り返します。

LEAF
LEAF

お知らせ

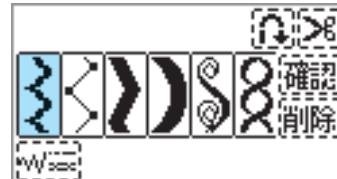
- 通常の大きさは大です。小に切り替えると、小の模様が連続して組み合わせられます。

模様の密度を変える

飾りサテンを選択した場合は、模様の密度を変えることができます。

1 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→ P.81）を参照してください。



2 密度 を押して、密度を切り替えます。

はらく、は細かくなります。



注意



- 密度を細かく設定すると、糸によってはぬいづまりが起こり、針が折れることがあります。

模様の長さを変える

サテンステッチ1つ分の模様の長さを、5段階で変えることができます。

1 模様を選択します。

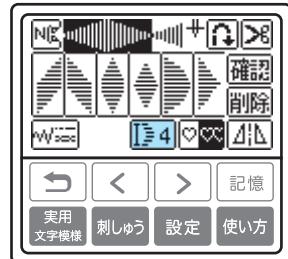
- 「模様を選ぶ」(→ P.81) を参照してください。



2 [F3] を押します。



▶ [F4] になり、模様が長くなります。



キーを押すごとに、数字が変わります。

[F1] から [F5] の5段階から選択できます。



[F1] [F2] [F3] [F4] [F5]

いろいろなぬい方

いろいろな模様をぬう

模様を反転させる

模様を左右反転させることができます。

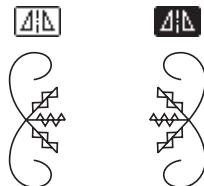
1 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→P.81) 参照してください。

2 [反] を押します。



▶ 模様が反転します。



お知らせ

- 実用模様の中の一部の模様も反転させることができます。「ドロンワーク(例2)」(→P.128)を参照してください。
- 反転させた模様を組み合わせることもできます。



模様を記憶させる

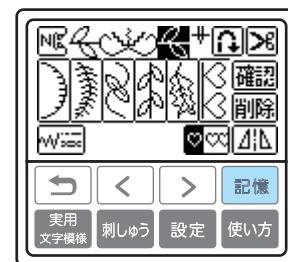
組み合わせた模様をミシンに記憶させることができます。記憶させた模様は電源を切っても消えないのです、いつでも呼び出してねうことができます。名前などの文字の組み合わせ模様を記憶させると便利です。10組までの模様を記憶させることができます。

■ 模様を記憶させる

1 模様を組み合わせます。

- 「模様を組み合わせる」(→P.130) を参照してください。

2 操作パネルの [記憶] (記憶キー) を押します。



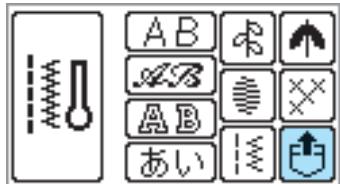
▶ 「記憶中」と表示されます。完了すると、もとの画面に戻ります。

お願い

- 記憶中は、電源を切らないでください。途中で電源を切ると、模様データが消えることがあります。

■ 模様を呼び出す

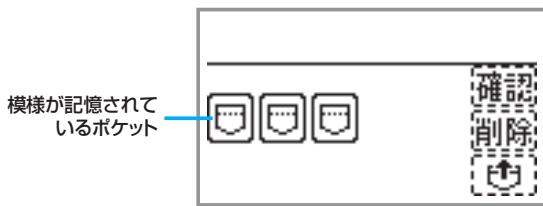
- ①  を押します。



▶ ポケットの選択画面が表示されます。

- ② 呼び出す模様を選択します。

 を押して、表示される模様を確認します。模様がすべて表示されないとときは、**確認** を押すと、確認することができます。



▶ 選択したポケットが  になり、模様が表示されます。

- ③  を押します。



▶ 模様が呼び出され、ぬうことができます。



■ 模様を消去する

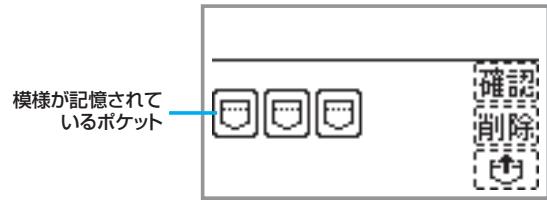
- ①  を押します。



▶ ポケットの選択画面が表示されます。

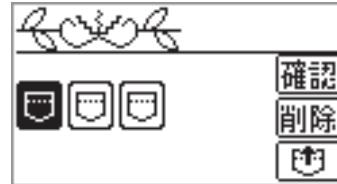
- ② 消去する模様を選択します。

 を押して、表示される模様を確認します。模様がすべて表示されないとときは、**確認** を押すと、確認することができます。



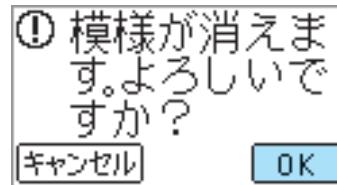
▶ 選択したポケットが  になり、模様が表示されます。

- ③  を押します。



▶ 確認メッセージが表示されます。

- ④  を押します。

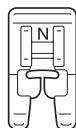


▶ ポケットに記憶されていた模様とポケットが消去されます。

模様を調整する

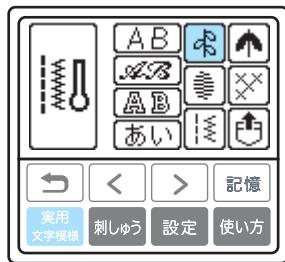
布地の種類やぬう速度などによって、模様が正しくぬえないことがあります。その場合は、実際にぬう布地のはぎれを用意し、試しぬいをして模様を調整します。

1 模様ぬい押え<N>を取り付けます。



●「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。

2 操作パネルの 実用 文字模様 (実用／文字模様キー) を押して、を選択します。

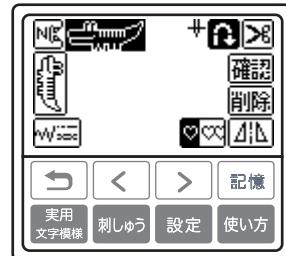


► 飾り模様が表示されます。

3 を選択します。



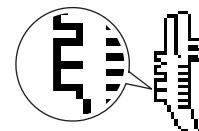
4 ミシンをスタートさせます。



► 模様が最後までぬわれると、ミシンがストップします。

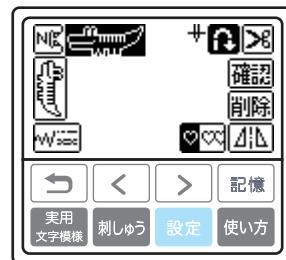
5 ぬわれた模様を確認します。

正しい状態のときは、模様の図の部分が均等になっています。



正しくぬえなかったときは、次の手順に従って模様を調整します。

6 操作パネルの 設定 (設定キー) を押します。

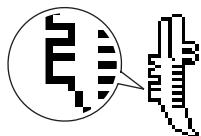


► 設定画面が表示されます。

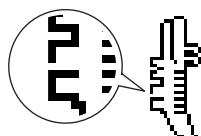
7 模様調整の **-** **+** を押します。



ぬわられた模様の状態によって調整します。



+ を押すごとに表示の値が大きくなり、模様が伸びていきます。



- を押すごとに表示の値が小さくなり、模様がつまっています。



8 **⬅** (戻るキー) を押します。



▶ もとの画面に戻ります。

9 もう一度 **➡** をぬって、模様を確認します。

正しくぬえるようになるまで調整します。



4 刺しゅう

ここでは、刺しゅうの手順を説明します。
※ EMU18シリーズでは、別売の刺しゅう機が必要です。

きれいに刺しゅうをするには	140
刺しゅう押え<Q>を取り付ける	143
刺しゅう機を取り付ける	146
布地を用意する	150
刺しゅう枠を取り付ける	154
刺しゅう模様を選びましょう	156
刺しゅうをしてみましょう	165
アプリケをする	167
こんなとき	170
模様の記憶機能を使う	176

きれいに刺しゅうをするには

ここでは、刺しゅうをする前に必要なことを説明します。
※ EMU18シリーズでは、別売の刺しゅう機が必要です。

用意するもの

刺しゅうをするときは、次のものが必要です。

布地

刺しゅうする布地を用意します。刺しゅう模様の大きさに合わせて、刺しゅう枠より少し大きめの布地を用意します。



お願い

- 薄地や伸びる布地など、ぬいにくい布地には、あらかじめブラザー専用接着芯を貼ってください。
- 大きな布地に刺しゅうするときは、ミシンを置いたテーブルから布地が垂れ下がらないようにしてください。布地が垂れ下がった状態で刺しゅうすると、刺しゅう機の動きが悪くなり、模様くずれの原因となります。



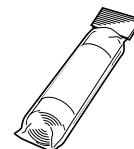
注意



- 刺しゅうができる布地の厚さは、布地を張った刺しゅう枠をミシンにセットし、
④(針上下スイッチ)を押して針を上げたときに、
布地と押えにすきまができるものまでです。それ以上の厚さのものをぬうと、針
が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 刺しゅうを重ねると、針が
布地に刺さりにくくなり、
針が折れたり曲がったりするおそれがあるので、
ご注意ください。

接着芯

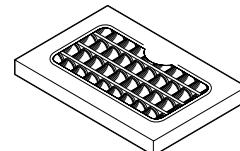
ぬい縮みや模様がくずれることを防ぎ、刺しゅうをきれいに仕上げるために、布地に刺しゅう用接着芯を貼ります。



接着芯は、別売のブラザー専用刺しゅう用接着芯をおおすすめします。オーガンジーなどの薄い素材や、タオルなどの起毛している布地には、水で溶ける水溶性シートを使用してください。「別売品(EMU18シリーズ)」(→ P.19)、「別売品(EMU19シリーズ)」(→ P.21)を参照してください。

刺しゅう糸

上糸は、別売のブラザー専用刺しゅう糸(ウルトラポス)、またはカントリー刺しゅう糸を使用してください。



下糸は、別売のブラザー専用刺しゅう下糸を使用してください。



お知らせ

- 上記以外の糸を使用すると、刺しゅうがきれいに仕上がらないことがあります。
- ぬい始める前に、下糸の残量を確認してください。下糸が少ない状態で刺しゅうを続けると、糸がらみなどが起きる場合があります。

針

家庭用ミシン針 (HA × 1) の 11 番を使用します。
デニム地などの厚地に刺しゅうする場合は、家庭用ミシン針 (HA × 1) の 14 番を使用してください。



お知らせ

- 針を交換するときは、「針を交換する」
(→ P.51) を参照してください。



注意



- ブラザーHG針ニット用(金色)は、模様ぬいや伸びる布地など、目とびしやすい布地用の針です。刺しゅうぬいには絶対に使用しないでください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

その他

刺しゅう枠 [LL] [S] などを用意しています。詳細は、「別売品 (EMU18 シリーズ)」(→ P.19)、「別売品 (EMU19 シリーズ)」(→ P.21) を参照してください。



お知らせ

- EMU18シリーズで刺しゅうをする場合は、別売刺しゅう機セット(モデル:ES150)をお買い求めください。

刺しゅうの手順

刺しゅうをするときの基本の手順は次のとおりです。

- 1 押えの取り付け**
刺しゅう押え <Q> を取り付けます。
「刺しゅう押え< Q >を取り付ける」(→ P.143) で説明します。

- 2 針の確認**
布地に合った針を使用します。
「針を交換する」(→ P.51) を参照してください。

- 3 刺しゅう機の取り付け**
刺しゅう機を取り付けます。
「刺しゅう機を取り付ける」(→ P.146) で説明します。

- 4 下糸のセット**
刺しゅう用の下糸をボビンに巻いてセットします。
「下糸を巻く」(→ P.35)、「下糸をセットする」(→ P.41)
を参照してください。

- 5 布地の用意**
布地に接着芯を貼り、刺しゅう枠に張ります。
「布地を用意する」(→ P.150) で説明します。

- 6 刺しゅう枠の取り付け**
刺しゅう機に刺しゅう枠を取り付けます。
「刺しゅう枠を取り付ける」(→ P.154) で説明します。

- 7 模様の選択**
刺しゅう模様を選択します。
「刺しゅう模様を選びましょう」(→ P.156) で説明します。

- 8 レイアウトの確認**
刺しゅうの大きさや位置を確認して調整します。
「レイアウトを調整する」(→ P.170) で説明します。

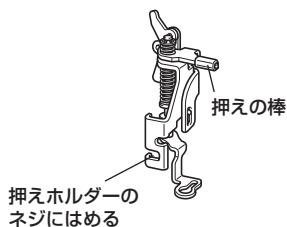
- 9 刺しゅう糸のセット**
模様に合わせて刺しゅう糸をセットします。
「上糸を通す」(→ P.42) を参照してください。

刺しゅう抑え<Q>を取り付ける

刺しゅう抑え<Q>の取り付け方を説明します。
※ EMU18シリーズでは別売品です。

刺しゅう抑え<Q>を取り付ける

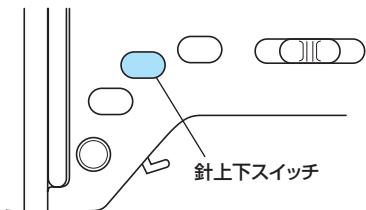
刺しゅうをするときは、刺しゅう抑え<Q>を取り付けます。刺しゅう抑え<Q>とドライバーを用意します。



注意

- 刺しゅうをするときは、必ず刺しゅう抑え<Q>を使用してください。他の抑えを使用すると、針が抑えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 1 (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。



お願い

- 針が確実に上がっているときは、ブーリーの印が真上になります。必ずブーリーの印が真上になっていることを確認してください。

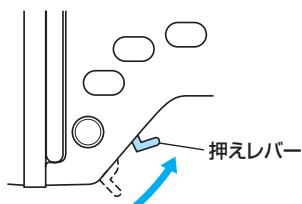
- 2 電源を切ります。



注意

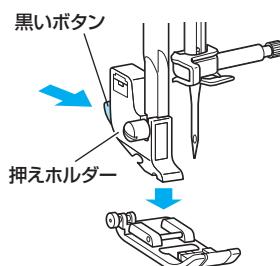
- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

- 3 押えレバーを上げます。



▶ 押えが上がります。

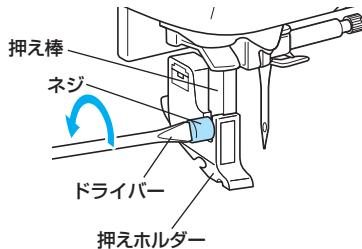
- 4 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。



▶ 押えが押えホルダーから外れます。

5 押えホルダーのネジをゆるめます。

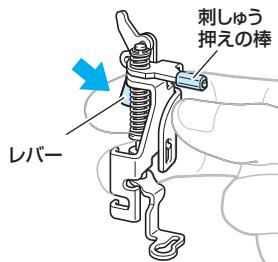
右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを奥に回します。



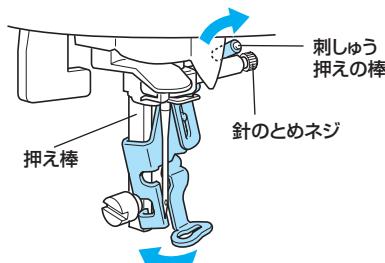
▶ 押えホルダーが押え棒から外れます。

6 図のように、右手で刺しゅう押え<Q>を持ちます。

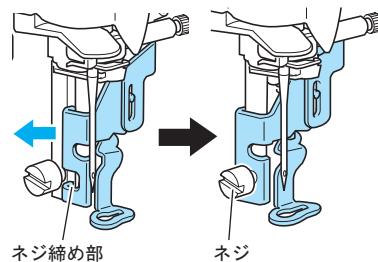
右手の人差し指が押えの後ろ側のレバーにかかるように持ちます。



7 刺しゅう押え<Q>のレバーを指で押しながら、刺しゅう押え<Q>の棒が針のとめネジの上にかかるように、刺しゅう押え<Q>を奥へ倒して押え棒に合わせます。

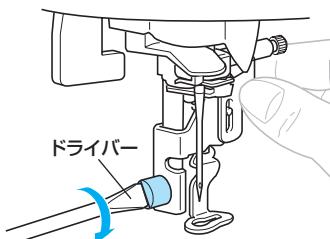


8 刺しゅう押え<Q>が垂直になるように、刺しゅう押え<Q>を押えホルダーのネジに取り付けます。



9 押えホルダーのネジをしめます。

右手で刺しゅう押え<Q>を支え、左手でドライバーを手前に回します。



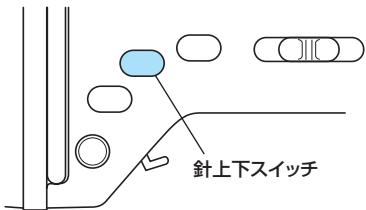
注意



- 刺しゅう押え<Q>を取り付けるときは、指や押えが針に当たらないようにしてください。針が折れたり、ケガの原因となります。
- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬい始める前にブリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

刺しゅう押え<Q>を取り外す

- 1** (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。



- 2** 電源を切ります。

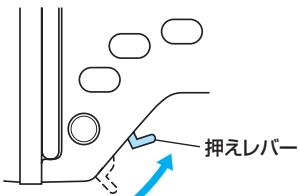


注意



- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

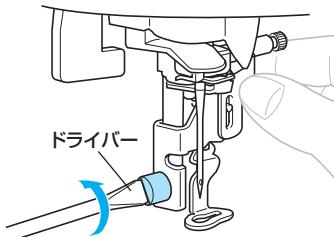
- 3** 押えレバーを上げます。



▶ 押えが上がります。

- 4** 押えホルダーのネジをゆるめます。

右手で刺しゅう押え<Q>を支え、左手でドライバーを奥に回します。



- 5** 刺しゅう押え<Q>のレバーを右手の人差し指で押しながら、刺しゅう押え<Q>を押え棒から取り外します。

- 6** 押えホルダーを取り付けます。

- 「押えホルダーを取り付けるとき」(→ P.55) を参照してください。

刺しゅう機を取り付ける

刺しゅうをするときは、刺しゅう機を取り付けます。
※ EMU18シリーズでは別売品です。

!**注意**

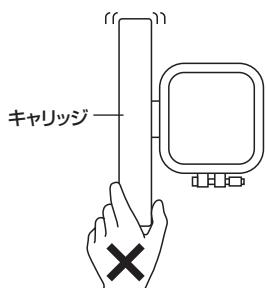


- 刺しゅう機を取り付けたまま
ミシンを移動させないでく
ださい。刺しゅう機が落下し
てケガをするおそれがあり
ます。
- 刺しゅう機のキャリッジや刺
しゅう枠が動いているとき
に、手や物を近づけないで
ください。ケガの原因となり
ます。



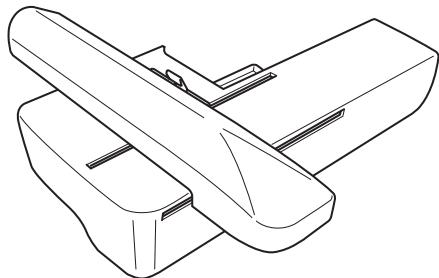
お願い

- ミシン本体の刺しゅう機差し込み口および刺しゅう機のコネクターに触れないでください。コネクターピンが破損し、故障の原因となります。
- 刺しゅう機のキャリッジを持って、刺しゅう機を持ち上げたり無理に動かしたりしないでください。故障の原因となります。

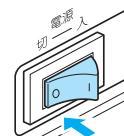


刺しゅう機を取り付ける

刺しゅう機を用意します。



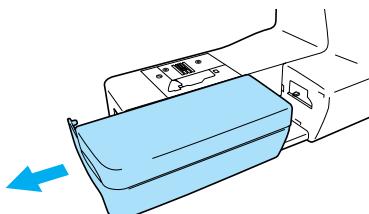
1 電源を切ります。



お願い

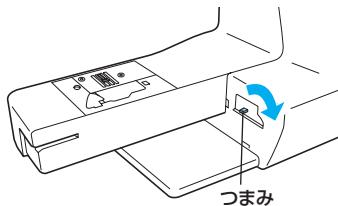
- 刺しゅう機は、必ず電源を切ってから取り付けてく
ださい。故障の原因となります。

2 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



- 3** 刺しゅう機差し込み口のふたのつまみに指をかけて、ふたを開けます。

ふたは手前に引いて収納します。



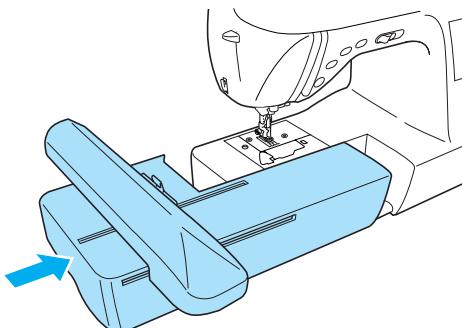
!**注意**



- ふたが完全に開いていることを確認してください。ふたが開いていない状態で刺しゅう機を取り付けると、故障の原因となります。

- 4** 刺しゅう機を右へスライドさせ、刺しゅう機のコネクターをミシン本体の刺しゅう機差し込み口に差し込みます。

カチッと音がするまで刺しゅう機を押し込みます。



► 刺しゅう機が取り付けられます。



お願い

- ミシン本体と刺しゅう機の間にすきまがあると、模様くずれの原因となります。必ず奥まで確実に差し込んでください。
- 刺しゅう機を取り付けるときは、キャリッジを押さないでください。故障の原因となります。

- 5** 電源を入れます。



► 液晶画面にメッセージが表示されます。

- 6** 刺しゅう機の近くに手や物を置いていないことを確認し、[OK] を押します。

▲刺しゅうキャリッジが動きます。注意してください。 [OK]

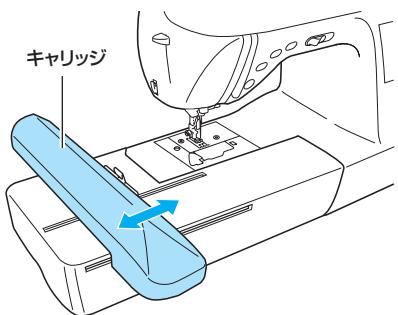
お知らせ

- 液晶画面にアニメーションが表示されているときは、指で液晶画面に触るとメッセージが表示されます。

► 刺しゅう機のキャリッジが初期設定の位置へ移動します。

刺しゅう

刺しゅう機を取り付ける



注意



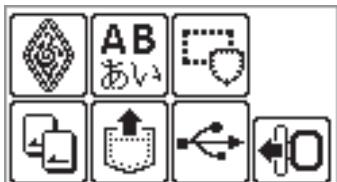
- キャリッジに手や物を近づけないでください。ケガの原因となります。



お願い

- キャリッジの近くに手や物を置いたまま初期設定を行うと、液晶画面が初期表示に戻ることがあります。その場合は、キャリッジの近くにあるものを取り除いてから電源を入れ直してください。

▶ 刺しゅう模様グループの選択画面が表示されます。



お知らせ

- 刺しゅう機が取り付けられているときは、実用模様は選択できません。
- 刺しゅう模様については、「刺しゅう模様を選びましょう」(→P.156)で説明します。

刺しゅう機を取り外す

刺しゅう枠を取り外してから、刺しゅう機を取り外します。

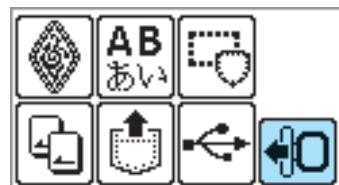
1

- ミシンが動いていないことを確認し、刺しゅう枠を取り外します。

● 「刺しゅう枠を取り外す」(→ P.155)で説明します。

2

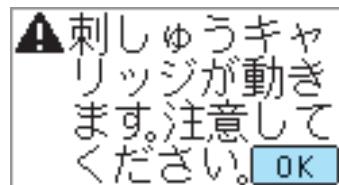
[OK] を押します。



▶ メッセージが表示されます。

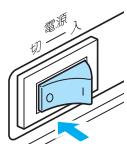
3

- 刺しゅう機の近くに手や物を置いていないことを確認し、[OK] を押します。



▶ 刺しゅう機のキャリッジが収納の位置へ移動します。

4 電源を切ります。

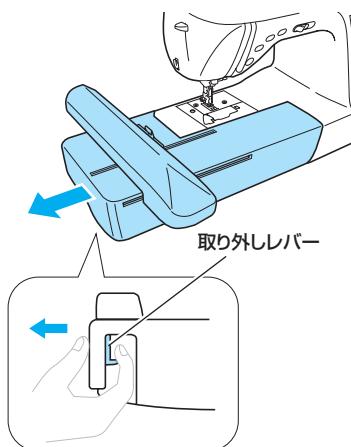


! 注意



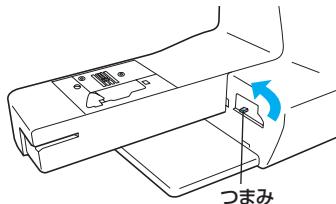
- 刺しゅう機は、必ず電源を切ってから取り外してください。故障の原因となります。

5 刺しゅう機左側面の裏側にある取り外しレバーをつかみながら、刺しゅう機をゆっくりと左に引きます。



▶ 刺しゅう機がミシン本体から外れます。

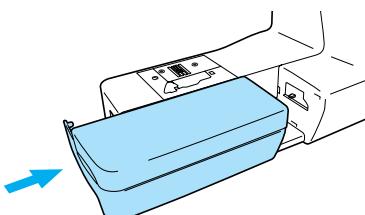
6 刺しゅう機差し込み口のふたのつまみに指をかけて、ふたを閉めます。



! お願い

- 刺しゅう機を使用しないときは、必ずふたを閉めてください。

7 補助テーブルをもとに戻します。



! 注意



- 刺しゅう機を持ち運ぶときは、取り外しレバーの部分を持たないでください。故障の原因となります。

刺しゅう

刺しゅう機を取り付ける

布地を用意する

刺しゅうする布地に接着芯を貼ってから、刺しゅう枠に張ります。

布地に接着芯を貼る

ぬい縮みや模様くずれを防ぎ、刺しゅうをきれいに仕上げるために、布地に刺しゅう用接着芯を貼ります。



お知らせ

- 接着芯は、別売のブラザー専用刺しゅう用接着芯をおすすめします。オーガンジーなどの薄い素材や、タオルなどの起毛している布地には、水で溶ける水溶性シートを使用してください。「別売品(EMU18シリーズ)」(→P.19)、「別売品(EMU19シリーズ)」(→P.21)を参照してください。



お願い

- 伸びる布地、薄い布地、目のあらい布地、ぬい縮みしやすい布地には、必ず刺しゅう用接着芯を貼ってください。



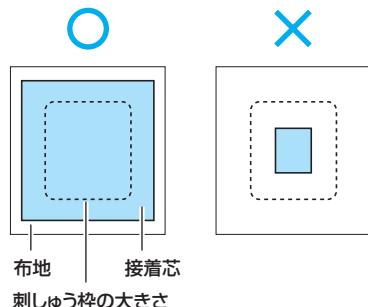
注意



- 刺しゅうをするときは、必ず刺しゅう用接着芯を使用してください。特に、薄地や伸びる布地に接着芯を使用せずに刺しゅうをすると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。また模様くずれの原因となります。

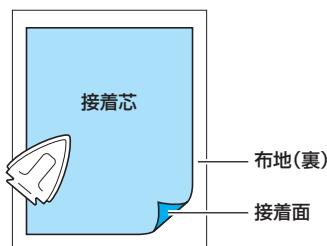
1

使用する刺しゅう枠より大きめに刺しゅう用接着芯を用意します。



2

布地の裏に接着芯の接着面をあて、スチームアイロンをかけて貼ります。



お知らせ

- タオルなどのアイロンがかけられない布地や、アイロンがかけられないところに刺しゅうをするときは、布地の下に接着芯を置いて、接着せずに刺しゅう枠に張ります。



お願い

- 刺しゅうが完成したら、接着芯はやぶつて取り除いてください。

布地を刺しゅう枠に張る

接着芯を貼った布地と刺しゅう枠を用意し、布地を刺しゅう枠に張ります。

刺しゅう枠 [L]

縦 18cm × 横 13cm までの範囲で刺しゅうができます。

※ EMU18 シリーズでは別売品です。



刺しゅう枠 [M]

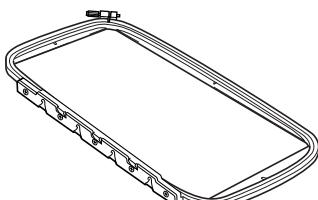
縦 10cm × 横 10cm までの模様を刺しゅうできます。

※ EMU18 シリーズでは別売品です。



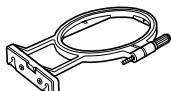
刺しゅう枠 [LL] (別売品)

縦 30cm × 横 13cm までの範囲で刺しゅうができます。組み合わせ模様や大きな模様を刺しゅうするときに使用します。



刺しゅう枠 [S] (別売品)

縦 2cm × 横 6cm までの模様を刺しゅうできます。文字などの小さな刺しゅうをするときに使用します。



お知らせ

- 模様によっては、刺しゅう枠 [S] が使用できないことがあります。

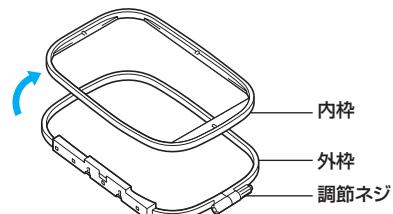
注意



- 刺しゅう枠は、刺しゅうする模様の大きさに合わせて使用してください。誤った大きさの刺しゅう枠を使用すると、刺しゅう枠が押えに当たり、ケガや針折れの原因となります。

1

刺しゅう枠の調節ネジをゆるめて内枠を外枠から取り外し、平らなところに置きます。

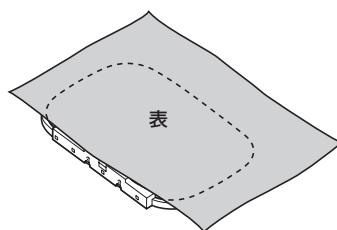


2

接着芯を貼った布地を外枠の上に置きます。

布地の表が上になるように置きます。

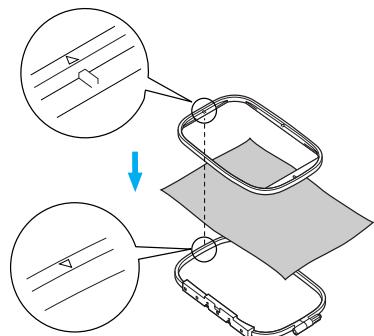
- 接着芯の貼り方については、「布地に接着芯を貼る」(→ P.150) を参照してください。



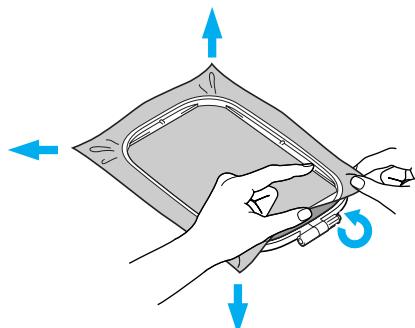
刺しゅう

布地を用意する

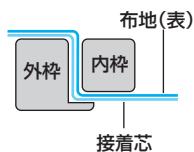
- 3** 布地の上から内枠をはめます。
内枠の△と外枠の▽の印を合わせます。



- 4** 調節ネジを軽くしめ、内枠を押さえながら布地の四方を引っ張ってたるみをなくします。



- 5** さらに布地のたるみをなくしながら、調節ネジをしめます。
外枠の底面まで内枠をしっかりとはめ込み、調節ネジをしめます。

**お知らせ**

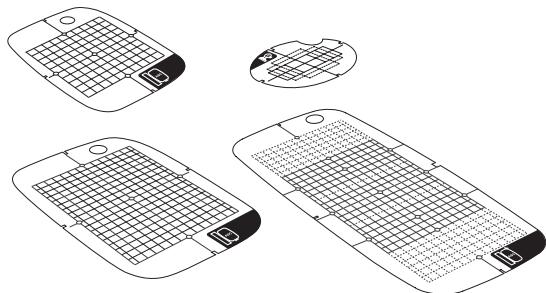
- 布地を軽くたたくと、太鼓のような音がするくらいが目安です。

**お願い**

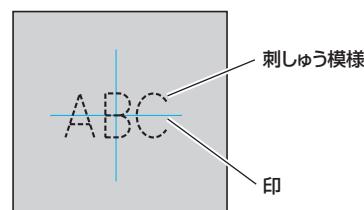
- 布地がたるんでいると、模様くずれやぬい縮みの原因となります。必ずたるみのないように刺しゅう枠に張ってください。

■ 刺しゅうシートを使う

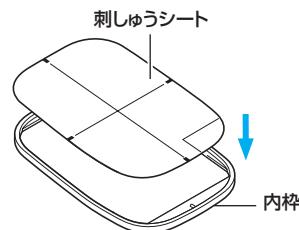
刺しゅうシートを使用すると、布地の正確な位置に刺しゅうすることができます。
※ EMU18 シリーズでは別売品です。



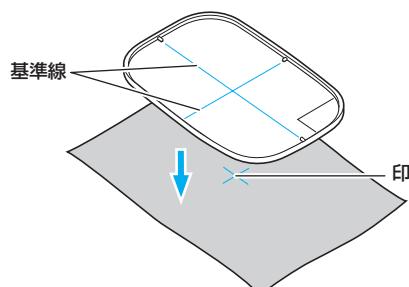
- 1** 布地の刺しゅうをしたい位置に、チャコペンで印を付けます。



- 2** 内枠の上に刺しゅうシートをのせます。



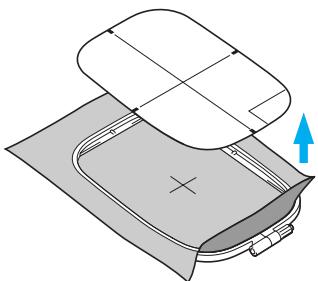
- 3** 布地の印と刺しゅうシートの基準線を合わせます。



④ 外枠の上に布地と内枠を置き、布地を張ります。

- 布地の張り方については、「布地を刺しゅう枠に張る」(→ P.151) を参照してください。

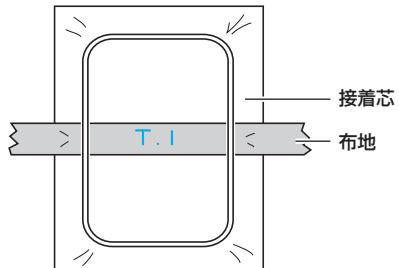
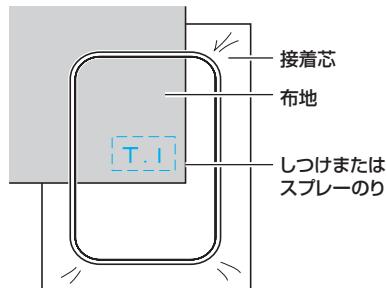
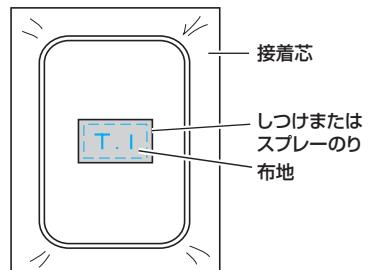
⑤ 刺しゅうシートを取り外します。



■ 刺しゅう枠に張れない布地に刺しゅうをするとき

刺しゅう枠に張ることができない小さい布地や、テープのような細い布地に刺しゅうをする場合は、接着芯を土台にして刺しゅう枠に張ります。

接着芯は、ブラザー専用接着芯をおすすめします。



刺しゅうが終わったら、接着芯をていねいに取り除きます。

刺しゅう枠を取り付ける

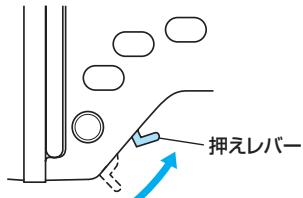
布地を張った刺しゅう枠を刺しゅう機に取り付けます。
※刺しゅう機と刺しゅう枠は、EMU18シリーズでは別売品です。

刺しゅう枠を取り付ける

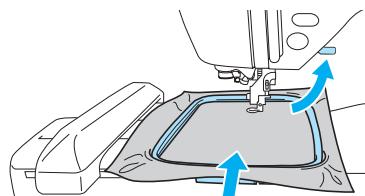
- 1 ブラザー刺しゅう専用下糸をボビンに巻いて、かまにセットします。

●「糸をセットしましょう」(→ P.35) を参照してください。

- 2 押えレバーを上げます。



- 3 押えレバーをさらに上げながら、抑えの下に刺しゅう枠を通します。



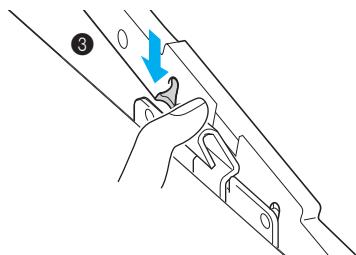
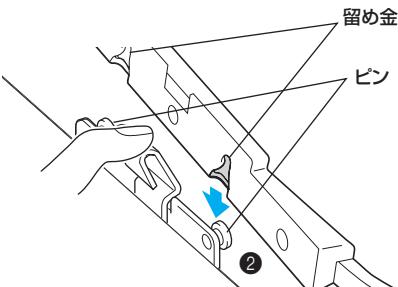
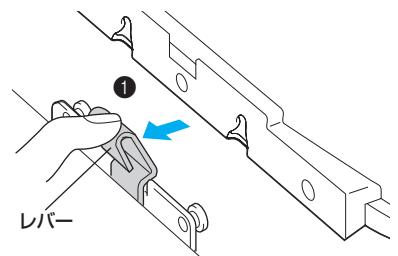
注意

- 指や刺しゅう枠が針に当たらないように注意してください。ケガや針折れの原因となります。

4

刺しゅう枠ホルダーのレバーを指で左へ軽く押さえながら、刺しゅう枠の2つの留め金を刺しゅう枠ホルダーのピンに合わせて押し込みます。

手前の留め金を力チッと音がするまでピンに押し込んでから、奥の留め金を押し込みます。



► 刺しゅう枠が取り付けられます。

お願い

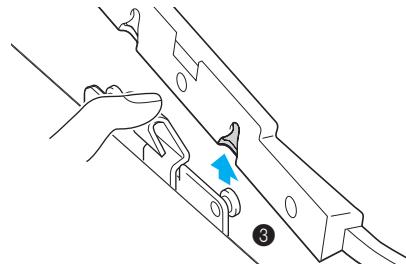
- 刺しゅう枠が刺しゅう枠ホルダーの2つのピンに確実に取り付けられていることを確認してください。いずれか一方が取り付けられていないと、模様くずれの原因となります。



注意



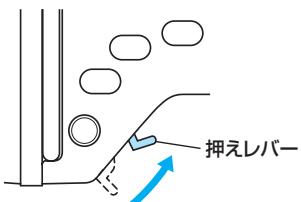
- 刺しゅう枠は、刺しゅう枠ホルダーに正しくセットしてください。正しくセットされていないと、刺しゅう枠が押えに当たり、ケガの原因となります。



▶ 刺しゅう枠が刺しゅう枠ホルダーから外れます。

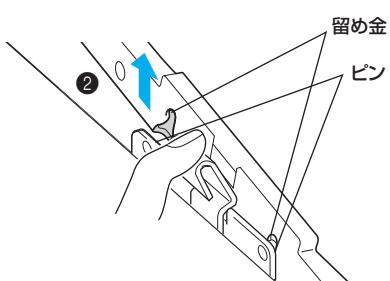
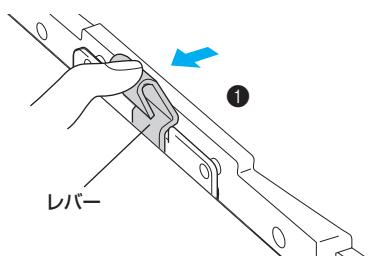
刺しゅう枠を取り外す

- 1 押えレバーを上げます。

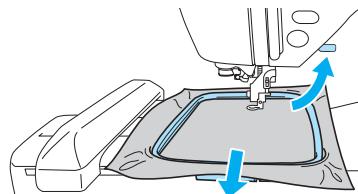


- 2 刺しゅう枠ホルダーのレバーを指で左へ軽く押さえながら、刺しゅう枠の2つの留め金を刺しゅう枠ホルダーのピンから外します。

奥の留め金を外してから、手前の留め金を外します。



- 3 押えレバーをさらに上げながら、抑えの下から刺しゅう枠を取り出します。



注意



- 指や刺しゅう枠が針に当たらないように注意してください。ケガや針折れの原因となります。

刺しゅう枠

刺しゅう枠を取り付ける

刺しゅう模様を選びましょう

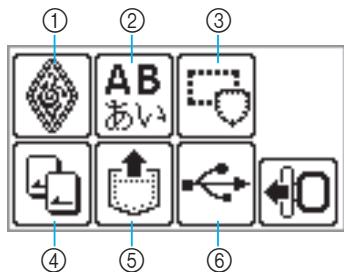
刺しゅうする模様を選択します。
※ EMU18シリーズでは、別売の刺しゅう機が必要です。

お願い

- ミシン本体や別売の刺しゅうカードに内蔵されている刺しゅう模様は、一般家庭用としてのみご利用いただけます。営利または業務目的で使用することは、著作権法上固く禁じられておりますのでご注意ください。

刺しゅう模様の種類

刺しゅう模様には、次のグループがあります。



① 絵柄模様

くだものや動物など、75の模様があります。液晶画面に表示される指示に従って上糸を交換しながら刺しゅうを完成させます。模様の選び方については、「絵柄模様を選ぶ」(→ P.162) を参照してください。

② アルファベット（3書体）

大文字／小文字／数字／記号（11文字）／ヨーロッパ文字があります。連続して18文字まで選択することができます。模様の選び方については、「文字模様を選ぶ」(→ P.159) を参照してください。

かな（ゴシック体／明朝体／丸文字）

ひらがな／カタカナ／漢字（38文字）／数字／記号（7文字）があります。連続して18文字まで選択することができます。模様の選び方については、「文字模様を選ぶ」(→ P.159) を参照してください。

③ 枠模様

四角や円などの10種類の形と、12種類のステッチを組み合わせることができます。模様の選び方については、「枠模様を選ぶ」(→ P.162) を参照してください。

④ 刺しゅうカード

別売の刺しゅうカードの模様を刺しゅうするときに押します。模様の選び方については「刺しゅうカードを使う」(→ P.163) を参照してください。

⑤ ミシンに記憶させた模様の呼び出し

よく使用する文字の組み合わせなどの模様をミシンに記憶させて、あとで呼び出して刺しゅうすることができます。12組までの模様を記憶させることができます。記憶のさせ方と呼び出し方については、「模様を記憶させる」(→ P.181)、「模様を呼び出す」(→ P.181) を参照してください。

⑥ USB フラッシュメモリー（USB フラッシュドライブ）からの模様の取り込み

USB フラッシュメモリーから模様を取り込んで刺しゅうすることができます。

お知らせ

- このミシンのUSBポートには、USBフラッシュメモリー(USBフラッシュドライブ)のみ取り付けることができます。

詳細は「USB フラッシュメモリーから模様を呼び出す」(→ P.178) を参照してください。

液晶画面の操作

操作パネルの操作キーを使用しながら、液晶画面を操作します。

ここでは、刺しゅうをするときのキーの使い方を説明します。

■ 操作キー



1つ前の画面に戻ります。



液晶画面に表示されていない模様があるとき（< または > が表示されているとき）に、前候補／次候補を表示します。

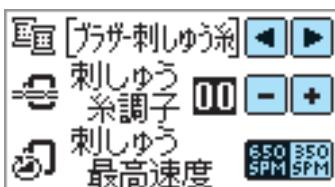


刺しゅう模様グループを選択する画面に戻ります。選択していた模様は取り消されます。



刺しゅうの色替の糸色表示を切り替えるときや、糸調子や最高速度を変更するときに押します。

[設定] を押して、**[>]** を押して、以下の画面を表示させます。

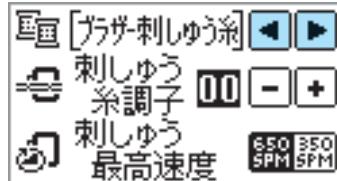


刺しゅう中の表示設定：刺しゅう中に表示させる項目を選択します。

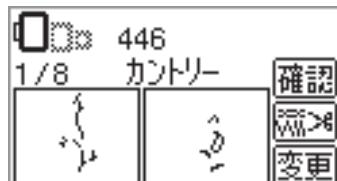
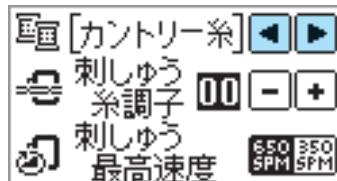
刺しゅう糸調子：糸調子を -8 から +8 の範囲で調節します。

刺しゅう最高速度：最高速度を 650SPM (速い) または 350SPM (ゆっくり) の間で切り替えます。

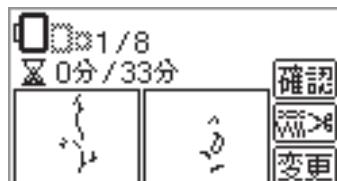
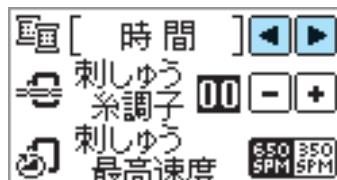
プラザー刺しゅう糸：ウルトラポスの色番号



カントリー糸：カントリー糸の色番号



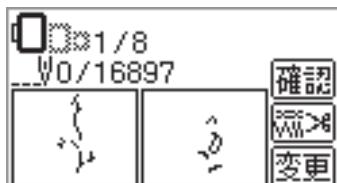
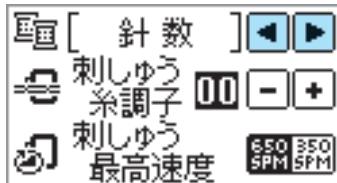
時間：刺しゅうに必要な時間



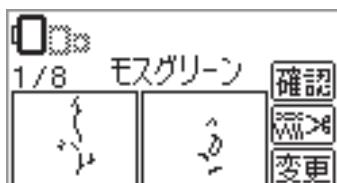
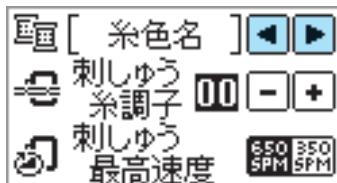
刺しゅう

模様を選択

針数：針が進んだ数



糸色名：一般的な色の名称

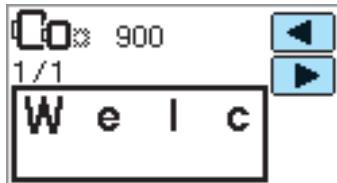


■ 液晶画面のキー

[画面例：アルファベット選択画面]



確認 選択した文字模様の文字列を確認することができます。[◀] [▶] で表示を切り替えます。



自動糸切りや糸調子などの糸の設定をします。

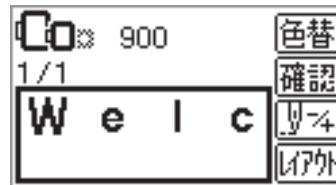


削除 自動糸切りを設定／解除します。設定されているときは反転表示されます。

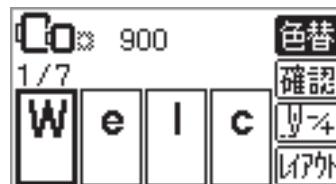
糸調子 [+] [-] で糸調子を調節します。
糸密度 [+] [-] で糸密度を調節します。(文字模様と枠模様のみ)



刺しゅうのしかたを設定したり、模様のレイアウトを調整したりするときに押します。

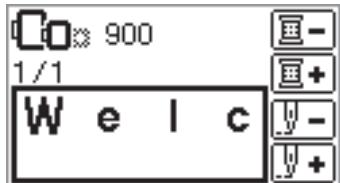


色替 文字模様を1文字ずつ色を変え刺しゅうするときに押します。1文字刺しゅうするごとにミシンがストップします。色替が設定されているときは反転表示されます。



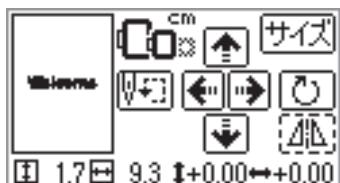


ぬい目を戻したり進めたりします。特定の糸色のみ刺しゅうしないときや、ミシンの電源を切ったあと、途中から再開するときに使用します。詳細は、「刺しゅうし直したいとき」(→ P.172)で説明します。



- 1色戻る
- 1色進む
- 1針戻る（押したままにすると、9針→30針ずつ戻ります。）
- 1針進む（押したままにすると、9針→30針ずつ進みます。）

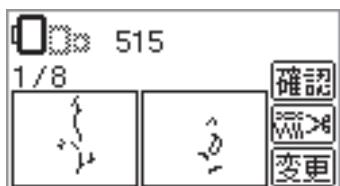
刺しゅう枠内の模様の位置を確認したり、模様の大きさや角度を変更したりします。詳細は、「レイアウトを調整する」(→ P.170)で説明します。



お知らせ

- 液晶画面のキーが点線で表示されているとき（例：）は、その機能は使用できません。

[画面例：絵柄模様選択画面]



選択した模様の色替の順番を確認することができます。で表示を切り替えます。



文字模様を選ぶ

刺しゅうする文字を選択します。



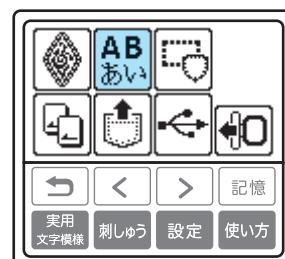
お知らせ

- 「模様が枠からはみだします。」と表示されたときは、それ以上文字を選択することはできません。
- 異なるグループ（アルファベットとかな、ゴシック体と明朝体など）の文字を組み合わせることはできません。

1



を押します。



2

文字グループを選択します。



3 文字を選択します。

お知らせ

- 誤って文字を選択したときは、**削除**を押します。
- 文字と文字の間にスペースを入れたい場合
[アルファベットのとき]
▶ (次ページキー) を押して を表示させ、 を押します。
[ひらがな／カタカナのとき]
スペースを押して、▶ (次ページキー) を押して を表示させ、 を押します。

[例] 「Welcome」を選択する場合

Aa 大文字／小文字切り替え

大中小 大／中／小切り替え



[例] 「じゅんいち」を選択する場合

行を選択してから文字を選択します。

- ひらがな／カタカナ切り替え
- 大小 大／小切り替え
- よこたて 横書き／縦書き切り替え

□□	削除					
あか	さ	た	な	は	行	確認
まや	らわ	0-9	漢		行	行
あア	よこたて	大小	変更			

□□	削除						
さし	すせ	そ	さ	じ	すせ	そ	削除
だ	ち	つ	だ	ち	つ	と	確認
だ	ち	つ	だ	ち	つ	と	行
つ							

□□	削除					
あか	さ	た	な	は	行	確認
まや	らわ	0-9	漢		行	行
あア	よこたて	大小	変更			

□□	削除						
やゆ	よ	よ	や	ゆ	よ	よ	削除
や	ゆ	よ	や	ゆ	よ	よ	確認
や	ゆ	よ	や	ゆ	よ	よ	行
よ							

□□	削除					
あか	さ	た	な	は	行	確認
まや	らわ	0-9	漢		行	行
あア	よこたて	大小	変更			

□□	削除						
わを	ん	ん	わ	を	ん	ん	削除
わ	を	ん	わ	を	ん	ん	確認
を	ん	ん	わ	を	ん	ん	行
ん							

□□	削除					
あか	さ	た	な	は	行	確認
まや	らわ	0-9	漢		行	行
あア	よこたて	大小	変更			

□□	削除					
あい	うえ	お	あい	うえ	お	削除
あ	い	う	え	お	お	確認
あ	ア	よ	こ	た	て	行
ア						

□□	削除						
あ	か	さ	た	な	は	行	確認
ま	や	ら	わ	0-9	漢	行	行
あア	よ	こ	た	て	大	小	変更

□□	削除						
た	ち	つ	つ	と	と	と	削除
だ	ち	つ	つ	と	と	と	確認
つ							行

選択した文字を確認するときは、**確認**を押します。

□□	削除						
あ	か	さ	た	な	は	行	確認
ま	や	ら	わ	0-9	漢	行	行
あア	よ	こ	た	て	大	小	変更

□□	900	◀	▶
1/1	じゅん	い	

□□	900	◀	▶
1/1	ゆん	い	ち

お知らせ

- 組み合わせた文字をミシンに記憶させることができます。詳細は、「模様を記憶させる」(→P.181)で説明します。

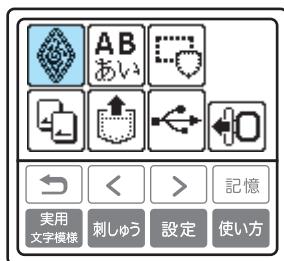
絵柄模様を選ぶ

くだものや動物など75種類の絵柄模様が内蔵されています。

お知らせ

- 模様のできあがり見本と使用する糸については、模様一覧を参照してください。

1 絵柄模様を選択します。



► 模様の選択画面が表示されます。

2 模様を選択します。

〔<〕(前ページキー) 〔>〕(次ページキー) で画面を切り替えます。



〔-10〕 〔+10〕 を押すと、-10番目/+10番目の模様を表示することができます。



► 縫製画面が表示されます。



枠模様を選ぶ

四角や円などの10種類の形と、12種類のステッチを組み合わせることができます。

お知らせ

- 枠の形とステッチについては、模様一覧を参照してください。

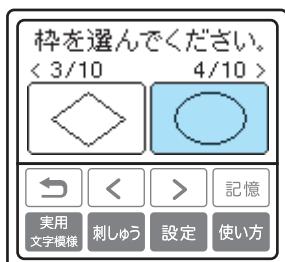
1 □ を押します。



► 枠の形の選択画面が表示されます。

2 枠の形を選択します。

〔<〕(前ページキー) 〔>〕(次ページキー)で画面を切り替えて、10種類の中から選択します。



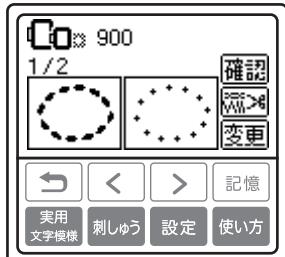
△ 枠のステッチの選択画面が表示されます。

3 枠のステッチを選択します。

〔<〕(前ページキー) 〔>〕(次ページキー)で画面を切り替えて、12種類の中から選択します。



△ 縫製画面が表示されます。



刺しゅうカードを使う

ミシン本体に内蔵されている模様以外に、別売の刺しゅうカードの模様を刺しゅうすることができます。刺しゅうカードには、テーマ別にいろいろな模様があります。



お願い

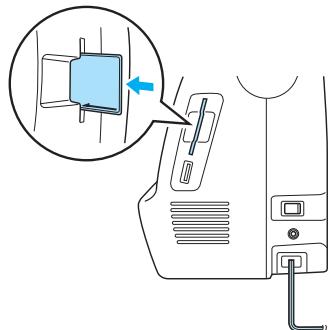
- 刺しゅうカードは、必ず電源を切って抜き差ししてください。
- 刺しゅうカードは、刺しゅうカード差し込み口に正しい方向に差し込んでください。
- 刺しゅうカード差し込み口に、刺しゅうカード以外のものを入れないでください。
- 刺しゅうカードを使用しないときは、収納ケースに入れて保管してください。
- 当社の刺しゅうカード以外のカードを使用すると、ミシンが誤作動するおそれがあります。必ず、当社正規の刺しゅうカードを使用してください。
- 外国で販売されている刺しゅうカードは使用できません。
- 刺しゅうカードに内蔵されている大きな模様は、液晶画面で見にくい場合があります。ご了承ください。

1 電源を切ります。



- 2** ミシン本体右側面の刺しゅうカード差し込み口に刺しゅうカードを差し込みます。

刺しゅうカードに記されている矢印を手前にして、まっすぐにいっぽいまで差し込みます。



- 3** 電源を入れます。



- 4** を押します。



► 模様の選択画面が表示されます。

お知らせ

- 「刺しゅうカードを入れてください。」と表示される場合は、刺しゅうカードが正しく差し込まれていません。
ミシンの電源を切り、刺しゅうカードを抜いて、**2**からやり直してください。

- 5** 模様を選択します。

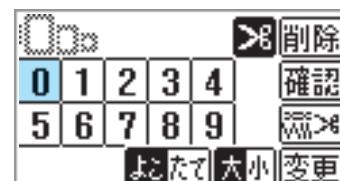
「絵柄模様を選ぶ」(→P.162)と同様に操作します。



■ 漢字カードの場合

漢字カードに添付されている文字コード表を参照して、4行の数字(文字コード)を入力します。

- 1** 刺しゅうする漢字の文字コードを入力します。



誤って数字を入力したときは、**削除**を押します。

► 入力した文字コードの漢字が表示されます。

- 2** 漢字を組み合わせるときは、続けて次の文字コードを入力します。



刺しゅうをしてみましょう

準備ができたら刺しゅうしてみましょう。ここでは、絵柄模様の場合を例に説明します。
※ EMU18シリーズでは、別売の刺しゅう機が必要です。

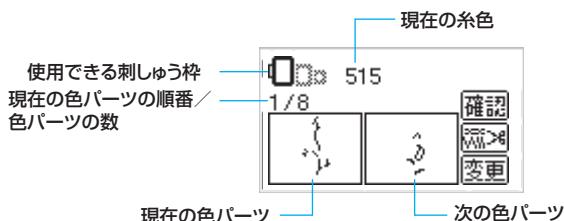
絵柄模様を刺しゅうする

絵柄模様は、1色ごとに糸色を替えて刺しゅうします。

お願い

- 下糸は、必ず刺しゅう用の下糸を使用してください。

1 液晶画面に表示される色の刺しゅう糸を用意します。



液晶画面の糸色表示は、**設定**（設定キー）を押して、ブラザーステッチ糸番号／カントリー糸番号／ぬい時間／針数／糸色名の間で切り替えることができます。糸色表示の切り替え方については、「液晶画面の操作」（→P.157）を参照してください。



[例] 糸色名で表示する場合



2 刺しゅう糸をセットし、針に糸を通します。

- 「上糸を通す」（→ P.42）を参照してください。

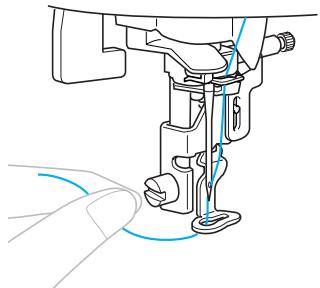
お願い

- 糸通し装置を使用するときは、必ず押さえを下げてください。

刺しゅう

刺しゅうをしてみましょう

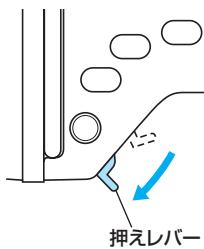
- 3** 刺しゅう押え<Q>の穴に糸を通し、左手で軽く持ちます。
糸にたるみを持たせておきます。



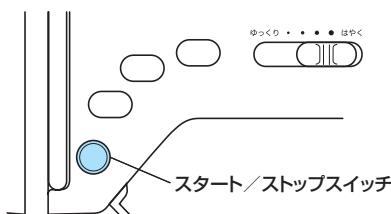
注意

- 糸を引っ張りすぎると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 縫製中に手や物がキャリッジに当たらないようにしてください。模様がくずれるおそれがあります。

- 4** 押えレバーを下げます。



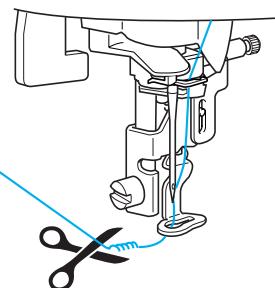
- 5** (スタート/ストップスイッチ) を押します。



- 6** 5~6針ぬったら (スタート/ストップスイッチ) を押して、ミシンをストップさせます。

- 7** ぬい始めの余分な糸をはさみで切ります。

ぬい目のきわで糸を切れます。



お願い

- ぬい始めの余分な糸を残したまま刺しゅうを続けると、模様の中に糸がぬい込まれてきれいに始末にくくなります。ぬい始めの糸は、1色ごとにさみで切ってください。

- 8** (スタート/ストップスイッチ) を押して、刺しゅうを再開します。

▶ 1色目を刺しゅうし終わると、自動的に止めないをしてストップします。自動糸切りを設定しているときは、糸が切れます。

お知らせ

- 自動糸切りの設定については、「液晶画面の操作」(→P.157)を参照してください。

- 9** 次の色の刺しゅう糸を用意し、**2** ~ **8** を繰り返します。

▶ 最後の色を刺しゅうし終わると、「ぬい終わりました」と表示されます。OKを押すと、もとの画面に戻ります。

- 10** 余分な渡り糸を切れます。

アップリケをする

アップリケ刺しゅうをする時の基本の手順は次のとおりです。

1. アップリケピースを作る
2. 土台の布地にアップリケの位置をぬう
3. アップリケピースを土台用の布地に貼り付ける
4. 残りのパーツをぬいあげる

■ 用意するもの

- ・アップリケピース用の布
- ・アップリケ土台用の布
- ・刺しゅう用接着芯
- ・手芸用ののり
- ・刺しゅう糸



お願い

- [設定] (設定キー)を押して、糸色表示を「糸色名」、「ブラザーリー刺しゅう糸」、「カントリー刺しゅう糸」のいずれかに設定してください。
- 液晶画面の糸色が「アップリケピース」「アップリケノイチ」「アップリケ」と表示されるときは、使用する糸色名・糸番号が表示されませんので、アップリケ模様に合った糸色を選択してください。

1. アップリケピースを作る

- 1 アップリケ模様を選択します。

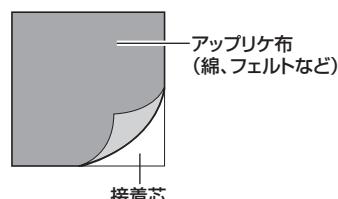


▶ 液晶画面に「アップリケピース」と表示されます。



- 2 アップリケピースの布地の裏に接着芯を貼ります。

布地を刺しゅう枠に張り、刺しゅう機にセットします。

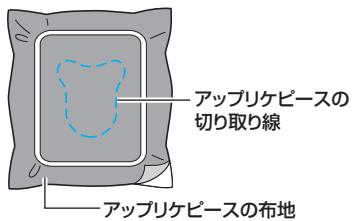


刺しゅう

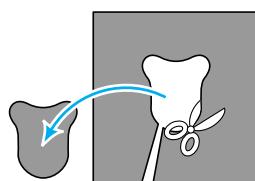
アップリケをする

- 3** 刺しゅう糸をセットし、押えレバーを下げる、（スタート／ストップスイッチ）を押し、アップリケピースの切り取り線をぬいます。

▶ アップリケピースの切り取り線をぬってミシンが止まります。液晶画面の糸色表示が「アップリケノイチ」に変ります。



- 4** アップリケピースの布地を刺しゅう枠から取り外し、ぬい目の上をていねいに切り取ります。



お願い

- ぬい目よりも内側を切るとアップリケをぬうときに布地に糸がかかるなくなりますので、必ずぬい目の上をていねいに切り取ってください。
- アップリケピースを切り取った後、糸はきれいに取り除いてください。

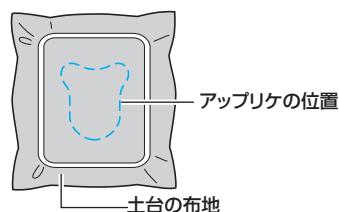
2. 土台の布地にアップリケの位置をぬう

- 1** アップリケの土台になる布地の裏側に接着芯を貼ります。布地を刺しゅう枠に張り、刺しゅう機にセットします。

- 2** 刺しゅう糸をセットし、押えレバーを下げる、（スタート／ストップスイッチ）を押し、アップリケの位置をぬいます。



▶ アップリケの位置をぬってミシンが止まります。液晶画面の糸色表示が「アップリケ」に変ります。



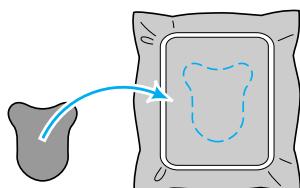
- 3** 刺しゅう枠を刺しゅう機から取り外します。

お願い

- 土台用の布は、模様をすべてぬい終わるまで刺しゅう枠から外さないでください。

3. アップリケピースを土台用の布地に貼り付ける

- 1 アップリケピースの裏側に手芸用のりを薄く付け、「2. 土台の布地にアップリケの位置をぬう」の②でぬった「アップリケの位置」の輪かく線に合わせてしっかりと貼り付けます。



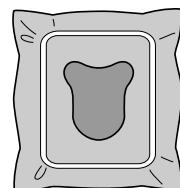
お願い

- アップリケピースを土台布にしっかりと貼り付けていないと、ぬっているあいだにピースが浮き上がり、模様とピースがずれてしまうおそれがあります。
- 手芸用のりでアップリケピースを土台布にしっかりと固定できない場合は、しつけ糸で仮止めぬいをしてピースを固定してください。

- 2 アップリケピースを貼り付けたら、刺しゅう枠をミシンにセットします。刺しゅう糸をセットし、押えレバーを下げ、 (スタート/ストップスイッチ) を押し、アップリケ部分をぬいます。

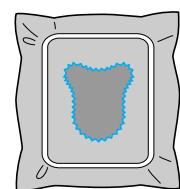
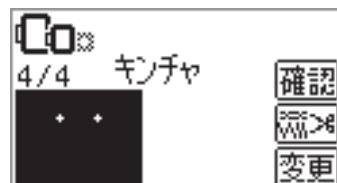


▶ アップリケピースを土台の布地にぬって、ミシンがストップします。



4. 残りのパートをぬいあげる

- 1 糸替えの順番に従って、刺しゅう糸を交換しながら残りのパートを刺しゅうします。



お知らせ

- 押えや針、針板にのりが付くことがありますので、アップリケ模様の刺しゅうが終わったら、のりをきれいに拭き取ってください。
- きれいに仕上げるために、糸替えごとに余分な糸は切ってください。

刺しゅう

アップリケをする

こんなとき

ここでは、模様のレイアウト調整のしかたや他の便利な機能を説明します。
※ EMU18シリーズでは、別売の刺しゅう機が必要です。

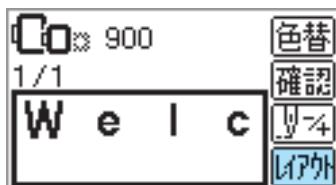
レイアウトを調整する

模様を選択すると、刺しゅう枠の中に配置されます。刺しゅうを始める前にレイアウトを確認し、位置や大きさを変更することができます。

- 1 刺しゅう模様を選択したら、**変更**を押します。

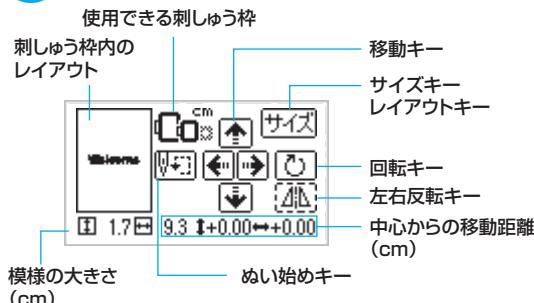


- 2 **レイアウト**を押します。



▶ レイアウト調整画面が表示されます。

- 3 レイアウトを確認し、調整します。



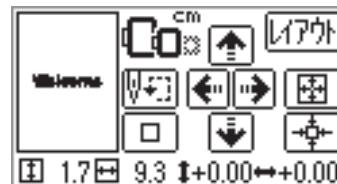
刺しゅう枠のサイズ

使用できる刺しゅう枠のサイズを表示します。薄く表示されているサイズの刺しゅう枠は使用できません。模様の大きさを変更したり模様を移動させたりして、使用できる刺しゅう枠のサイズが変更されたときは、点滅します。



サイズキー

模様を拡大／縮小します。押すと、**レイアウト**に変わります。**レイアウト**を押すと、もとの画面に戻ります。



縮小



もとの大きさに戻す

拡大



移動キー

模様を上下左右に移動させます。



もとの位置に戻す(移動キーで模様を移動させた場合)

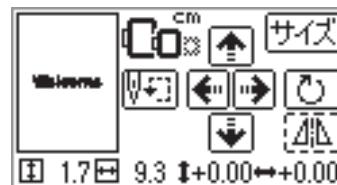
お知らせ

- 模様の大きさや位置を変更したときは、液晶画面に表示される「中心からの移動距離」や「模様の大きさ」を控えておくと、電源を入れ直しても同じように模様を刺しゅうすることができます。



レイアウトキー

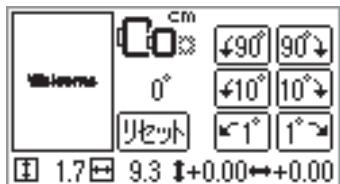
模様を回転させたり、左右反転させたりします。





回転キー

模様を 1° ずつ、 10° ずつ、または 90° ずつ回転させます。 (戻るキー) を押すと、もとの画面に戻ります。



- | | |
|------|-----------------------|
| 90° | 反時計回りに 90° 回転 |
| 90°↑ | 時計回りに 90° 回転 |
| 410° | 反時計回りに 10° 回転 |
| 10°↑ | 時計回りに 10° 回転 |
| 1°↑ | 反時計回りに 1° 回転 |
| 1°↓ | 時計回りに 1° 回転 |
| リセット | もとの角度(0°)に戻す |



左右反転キー

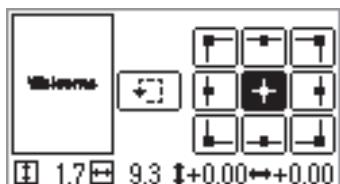
模様を左右反転させます。



ぬい始めキー

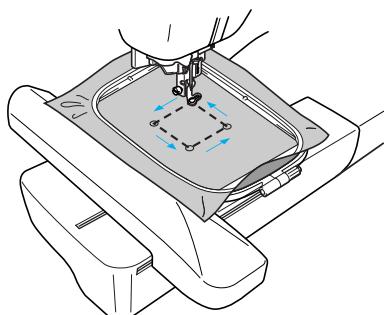
ぬい始めの位置を切り替えます。

(戻るキー) を押すと、もとの画面に戻ります。



- | | |
|------|---------------|
| ↑↑↑↑ | ぬい始めの位置を切り替える |
|------|---------------|

- | | |
|------|-------------|
| ↔↔↔↔ | 刺しゅう範囲を確認する |
|------|-------------|



注意



- 刺しゅう枠が動いているときは、針を絶対に下げないでください。針が折れたり曲がたりするおそれがあります。
- レイアウトを調整したあとは、必ず使用できる刺しゅう枠のサイズを確認してください。使用できないサイズの刺しゅう枠を使用すると、刺しゅう枠が抑えに当たり、ケガの原因となります。

4

(戻るキー) を押して、もとの画面に戻ります。



お知らせ

- 液晶画面のキーが点線で表示されているとき (例:) は、その機能は使用できません。
- レイアウトを調整した模様をミシンに記憶させることができます。詳細は、「模様を記憶させる」(→P.181)を参照してください。

糸調子を調節する

刺しゅうを失敗すると、糸をほどくことが難しく、布地をいためることができます。刺しゅうを始める前に、同じ布地のはぎれを使用して糸調子などを確認してください。

糸調子を変更するときは、**設定**（設定キー）を押します。



- を押すと、上糸の調子が弱くなります。

+ を押すと、上糸の調子が強くなります。

正しい糸調子

布地の裏に上糸が少し見えます。



上糸が強いとき

布地の表に下糸が見えている場合は、上糸を弱くします。



上糸が弱いとき

上糸がたるんでいる場合は、上糸を強くします。



お願い

- 下糸セットと上糸通しが正しく行われていない場合、糸調子が合わないことがあります。糸調子を調節しても糸調子が合わないときは、下糸セットと上糸通しをやり直してください。

刺しゅうし直したいとき

上糸の色を誤って刺しゅうしたときは、正しい色の上糸をセットして刺しゅうし直します。

1 (スタート／ストップスイッチ) を押してミシンをストップさせます。

2 を押します。



3 を押します。



4 (1色戻る) を押して、色を誤ったパートの先頭に戻します。



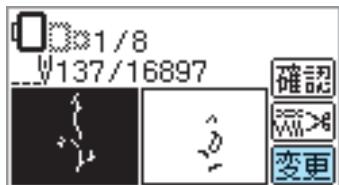
5 正しい色の上糸をセットし、 (スタート／ストップスイッチ) を押して刺しゅうします。

途中で糸がなくなったとき

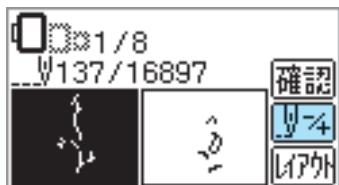
刺しゅうの途中で上糸または下糸がなくなると、ミシンが自動的にストップします。その場合は、10針ほど前に戻して重ねてねじます。

- 1 上糸または下糸をセットします。

- 2 [変更] を押します。

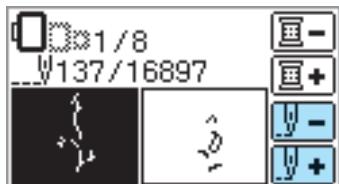


- 3 [▼4] を押します。

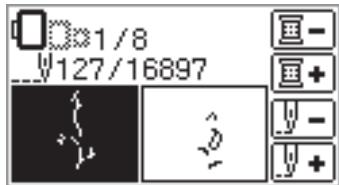


- 4 [▼-] (1針戻る) を押して、ミシンがストップしたところより10針ほど今まで針数を戻します。

針数を進めるときは、[▼+] (1針進む) を押します。



- 5 刺しゅうを再開します。



刺しゅうを中断するとき

刺しゅうを中断するときは、電源を切る前に現在の針数を確認しておきます。

お知らせ

- 電源を切ると、模様の大きさやレイアウトはもとに戻ります。

- 1 [スタート/ストップスイッチ] を押してミシンをストップさせます。

- 2 液晶画面に表示されている現在の針数を控えます。



針数が表示されていないときは、[設定] (Setting key) を押して表示を切り替えます。[▼] (戻るキー) を押すと、もとの画面に戻ります。

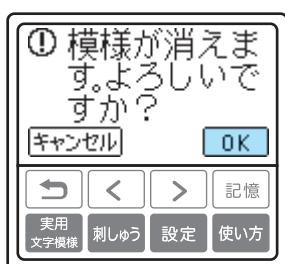


3 刺しゅう (刺しゅうキー) を押します。



▶ 確認メッセージが表示されます。

4 OK を押します。



▶ 選択した模様が消え、模様の選択画面に戻ります。

5 電源を切ります。



お願い

- ミシンを移動させるときは、必ず刺しゅう機を取り外してください。

6 電源を入れ、模様を選択します。

7 変更 を押します。



8 W4 を押します。



9 ■+ (1色進む) を押して、刺しゅうする色パーツの先頭に進めます。



10

 (1針進む) を押して、針数を進めます。

 を押したままにすると、1針 → 9針 → 30針ずつ進めます。



中断したところより10針ほど前まで針数を進めます。



11

刺しゅうを再開します。

刺しゅう

じさんしゅう

模様の記憶機能を使う

刺しゅうデータに関する注意

このミシンで作成・記憶させたデータ以外の刺しゅうデータを扱うときは、次の点に注意してください。

!**注意**

- 弊社正規の模様以外の刺しゅうデータを使用する際は、糸密度が細かすぎる場合や3回以上の重ねぬいをする場合があり、糸切れや針折れが発生するおそれがあります。そのような場合は、ブラザー製の刺しゅうデータ作成ソフト(刺しゅうPROなど)で刺しゅうデータを修正して使用してください。

■ 使用可能な刺しゅうデータの種類

- ・ このミシンで扱える刺しゅうデータは、.pen、.pes、.dst ファイルのみです。.pen ファイルはコピー防止機能付きの刺しゅうデータ、.pes ファイルはブラザー製の刺しゅうデータ作成ソフト（刺しゅう PRO など）で作成された刺しゅうデータです。
- ・ ブラザー製の刺しゅうデータ作成ソフトまたはミシンで作成された模様以外のデータを扱うと、ミシンが誤動作するおそれがあります。
- ・ .pen ファイルについては、当社インターネットの刺しゅうデータダウンロードサイト「ハートステッチズ」(<https://sewco-world.brother.co.jp/heartstitches/index.aspx>)で今後掲載される情報をご参照ください。

■ 使用可能な USB メディアの種類

USB フラッシュメモリー (USB フラッシュドライブ) (どの容量でも可) が使用可能です。

!**お願い**

- このミシンのUSBポートコネクターには、USBフラッシュメモリー(USBフラッシュドライブ)以外は接続することができません。
- USBフラッシュメモリーの中には、このミシンに対応できないものもあります。対応機種については、弊社のウェブサイトをご覧ください。
- アクセスインジケーター付USBフラッシュメモリーを使用する場合は、パソコンやミシンにUSBフラッシュメモリーを挿入したときに、アクセスインジケーターが点滅し始め、USBフラッシュメモリーが認識されるまで約5~6秒かかることがあります。(USBフラッシュメモリーの種類によって、認識されるまでの時間が異なります。)
- その他の情報については、お持ちのUSBフラッシュメモリーに付属の取扱説明書を参照してください。

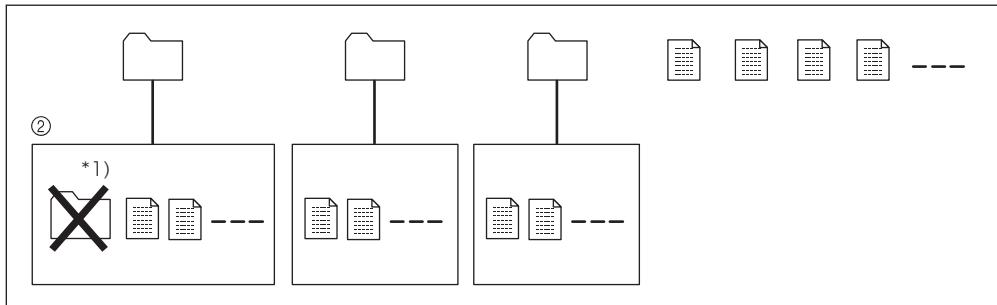
■ パソコンで作成・保存するときの注意

- ・ 刺しゅうデータのフォルダ名またはファイル名に特殊記号等を使用すると、ミシンがそれを認識できないために模様が表示されないことがあります。その場合は、ファイル名を変更してください。アルファベット(大文字と小文字)、数字(0~9)、「-」、「_」のみの使用をおすすめします。
- ・ 針数、色数、組み合わせ模様数の制限を越えてデザインされた .pes ファイル、.pen ファイルは使用できません。ブラザー製の刺しゅうデータ作成ソフト(刺しゅう PRO など)で、制限内のデザインに修正して使用してください。
- ・ 刺しゅう機が取り付けられていても、ミシンは刺しゅうデータを認識することができます。

- 刺しゅうデータは、USB フラッシュメモリーのルートフォルダに直接保存するか、またはサブフォルダ内に直接保存してください。もし刺しゅうデータをサブフォルダ内のフォルダに保存した場合、ミシンからファイルを呼び出すことはできません。

下図を参考に、刺しゅうデータファイルを USB フラッシュメモリーに保存してください。

①



① USB フラッシュメモリーのルートフォルダ

② サブフォルダ

: フォルダ

: 刺しゅうデータファイル

*1) サブフォルダ内には、フォルダを作成しないでください。

- ミシンで呼び出すことのできる USB フラッシュメモリー内の刺しゅうデータファイルとフォルダの合計数は、最大で 200 個です。(例えば、5 個のフォルダと 195 個の刺しゅうデータファイルを呼び出すことができます。) 201 個以上のファイル(フォルダも含む)を保存した場合、ミシンが USB フラッシュメモリーの内容を認識できなくなるため、模様を呼び出すことができません。そのような場合は、保存したファイル(フォルダも含む)の数を減らしてください。
- 刺しゅうデザインの色数が多すぎる場合(色数はデザインによって変わります)、USB フラッシュメモリー内のファイル(フォルダも含む)の数が 200 個以内であっても、ミシンが刺しゅう模様を呼び出すことができなくなることがあります。そのような場合も、保存したファイル(フォルダも含む)の数を減らしてください。



お知らせ

- フォルダ名とファイル名には、半角文字と半角数字のみ使用することができます。フォルダ名またはファイル名を半角8文字以内にすれば、画面に名前がフルネームで表示されます。もし8文字以上にした場合は、最初の6文字と、続けて「～」と数字のみが表示されます。
この現象は、フォルダ名と.dst刺しゅうデータファイル名のみに起こります。

■ タジマフォーマット (.dst) の刺しゅうデータについて

- .dst データは模様一覧画面にファイル名で表示されます。(実際の絵柄は表示されません。)
実際の絵柄を表示するには、

USBフラッシュメモリーから 模様を呼び出す

USBフラッシュメモリーを使用して、パソコンに保存された模様をミシンへ呼び出すことができます。以下の手順に従って進めてください。

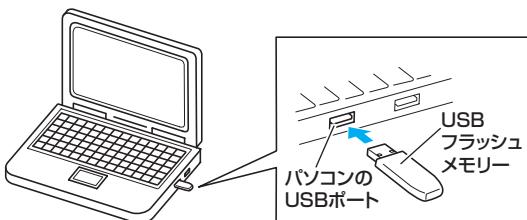
- 「刺しゅうデータに関する注意」
(→P.176～P.177) をよく読み
でから、パソコン内に刺しゅうデータ
を準備します。



お願い

- 「刺しゅうデータに関する注意」(→P.176～P.177) にあるすべての注意事項をよく読み、理解してください。理解しない状態で進めると、模様データをミシンに正しく呼び出せないおそれがあります。

- パソコンのUSBポートにUSBフラッシュメモリーを差し込みます。



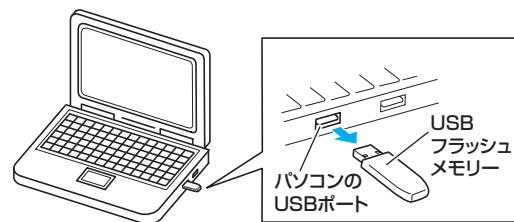
- パソコンで「コンピュータ（マイコンピュータ）」を開き、「リムーバブルディスク」を選択します。



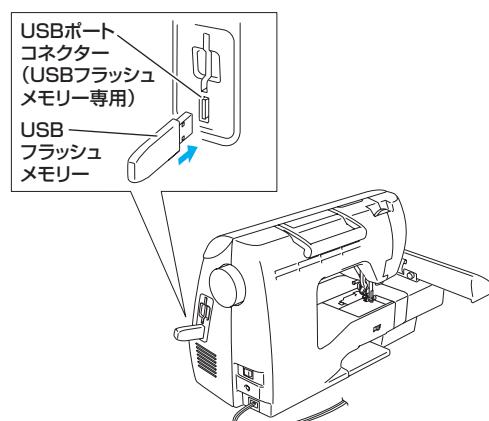
- 「リムーバブルディスク」内に、刺しゅうデータ（フォルダ・模様データ）をコピーします。



- パソコンのUSBポートからUSBフラッシュメモリーを注意して取り外します。



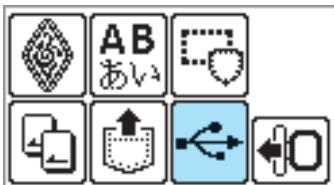
- ミシンのUSBポートコネクターにUSBフラッシュメモリーを差し込みます。



7



を押します。



▶ USBフラッシュメモリーのルートフォルダ内にあるフォルダ、または模様データが表示されます。



お知らせ

- 最初にフォルダ名が のアイコン上にアルファベット順に表示され、次に.pesファイル、.penファイル、.dstファイルが のアイコン上にアルファベット順にて表示されます。



- .pesファイル、.penファイルには模様の絵柄が表示され、.dstファイルにはファイル名・ファイルフォーマット・ファイルサイズが表示されます。



お願い

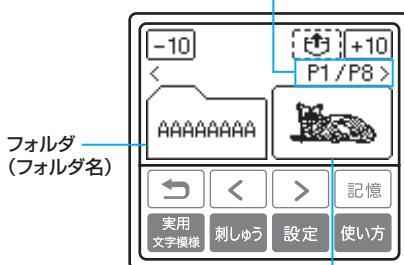
- USBフラッシュメモリーに含まれてる模様の数が201個以上(フォルダも含む)ある場合、または(模様数が201個以上なくても)刺しゅうデザインの色数が多すぎる場合は、「模様を減らしてください」というエラーメッセージが表示されます。その場合は、ミシンからUSBフラッシュメモリーを取り外し、パソコン上で模様の数を減らしてください。ミシンのエラーメッセージを消して、手順 6 からやり直してください。

8

呼び出す模様データが入ったフォルダ、または模様ファイルを選択します。

(前ページキー) (次ページキー) で画面を切り替えます。

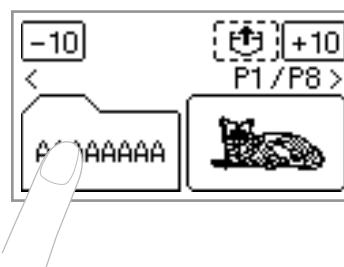
現在表示されているページ／総ページ数



模様ファイル(絵柄またはファイル名)

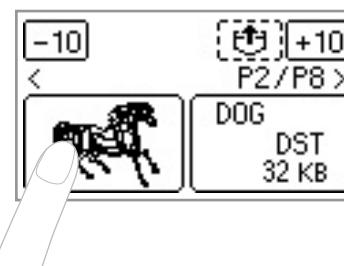
- / を押すと、10個前または10個後のフォルダ・模様表示に切り替えます。

■ フォルダを選択したとき



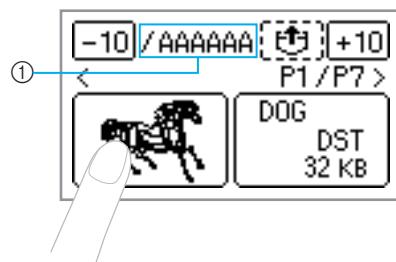
▶ フォルダ内の模様データが表示されます。手順 9 に進んでください。

■ 模様ファイルを選択したとき



▶ 模様が反転表示されます。手順 10 に進んでください。

9 呼び出す模様を選択します。



① フォルダ名(フォルダを選択したときは、6文字まで表示)

- ルートフォルダに戻るには、[◀]を押します。

10 [記憶] を押します。

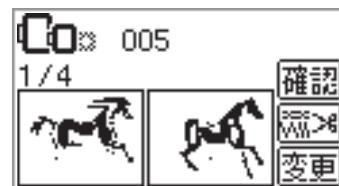


*1) この部分の表示は手順 8 の操作によって異なります

- ▶ 模様が呼び出されます。
- ▶ 刺しゅう画面が表示されたら、準備完了です。

11 ミシンに模様を記憶したい場合は、
[記憶] を押します。

12 必要に応じて模様を調整してから、刺しゅうをはじめます。



模様を記憶させる

名前などのよく使用する文字の組み合わせや、大きさや位置を調整した模様などをミシンに記憶させることができます。12組までの模様を記憶させることができます。

- 記憶させる模様を選択したら、**記憶**(記憶キー)を押します。



▶ 「記憶中」と表示されます。完了すると、もとの画面に戻ります。

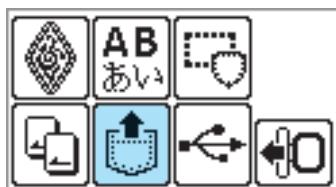
お願い

- 記憶中は、ミシンの電源を切らないでください。
途中で電源を切ると、模様データが消えることがあります。

模様を呼び出す

ミシンに記憶させた模様を呼び出して、刺しゅうすることができます。

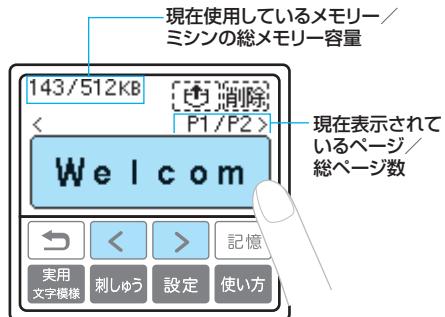
- ↑**を押します。



▶ ミシンに記憶させた模様が表示されます。

- 呼び出す模様を選択します。

< (前ページキー) **>** (次ページキー) で画面を切り替えて、呼び出す模様のキーを押します。



▶ 模様が反転表示されます。

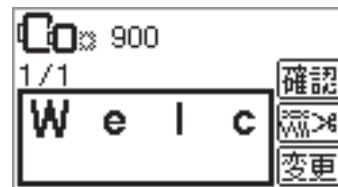
- を押します。

削除を押すと、選択した模様を消去します。



▶ 模様が呼び出され、縫製画面が表示されます。

- 必要に応じて模様を調整してから、刺しゅうします。



刺しゅう

模様の記憶機能を使う



付録

ここでは、ミシンのお手入れ方法と困ったときの対処方法などを紹介します。

お手入れ	184
困ったとき	186
アップグレードの方法	203
本体仕様	204
さくいん	205

お手入れ

簡単なミシンのお手入れ方法を説明します。

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。

本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。

万一、ブーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店またはお客様相談室(ミシン119番)にご相談ください。

ミシンを保管するときのご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

- 温度が著しく高くなる場所
- 温度が著しく低くなる場所
- 急激に温度が変化する場所
- 湿気、湯気の多い場所
- 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- 屋外や直射日光の当たる場所
- ほこり、油煙の多い場所

お願い

- 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。
長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

本体表面の掃除

ミシン本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤をうすめて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤でふいたあとは、乾いた布でふき取ります。



注意

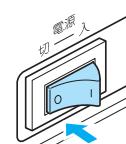
- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

かまの掃除

針板の下にあるかまを掃除します。

かまには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。定期的に掃除してください。

1 電源を切ります。



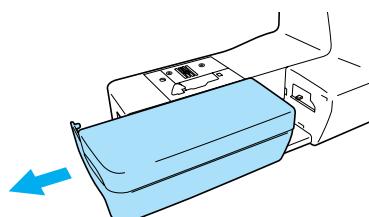
2 電源プラグをコンセントから抜きます。

注意

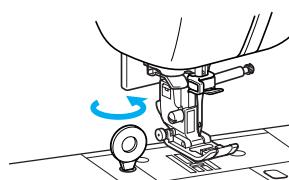


- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

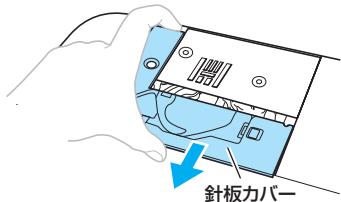
3 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



4 付属のネジ回しで針板カバーのネジを外します。



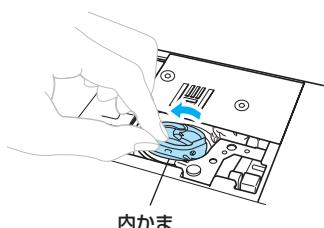
- 5** 針板カバーの向こう側に指を引っかけ、手前にスライドさせます。



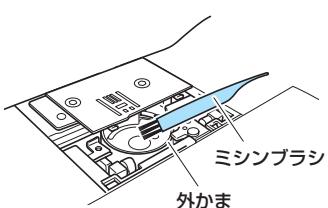
▶ 針板カバーが外れます。

- 6** 内かまを取り出します。

内かまの手前部分を持って、上に引き出します。



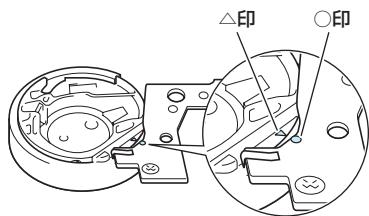
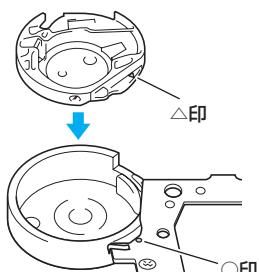
- 7** 付属のミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



お願い

- 内かまに油をささないでください。

- 8** 下図のように△印と○印があうように、内かまを取り付けます。

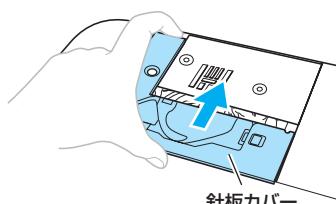


- △印と○印を合わせます。



- 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

- 9** 針板カバーのツメの部分を針板に差し込んでから、奥にスライドさせます。



- 10** ネジ回して針板カバーのネジをしめ、補助テーブルをもとに戻します。

注意



- キズが付いた内かまは使用しないでください。万一、使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。内かまは最寄りの販売店でお買い求めください。



- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目および弊社サポートページ、ブラザーソリューションセンター（<http://solutions.brother.co.jp>）のQ&Aを確認してください。
それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。

よくあるご相談

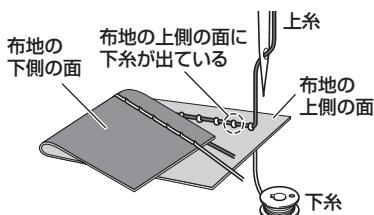
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

■ 上糸がつる	(→ P.186)
■ 布裏で糸がからまる	(→ P.187)
■ 糸調子が合わない	(→ P.189)
■ 布がミシンに入り込んでとれなくなつた	(→ P.190)

上糸がつる

■ こんなとき

- 上糸がピンと一本線になっている。
- 布地の上側の面に下糸がポツポツと出ている（イラスト参照）。
- 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
- 上糸がつっていて、布にしわがよってしまう。
- 上糸が強く、糸調子を調節してぬい直してもまったく変わらない。



■ 原因

下糸のセットがまちがっている

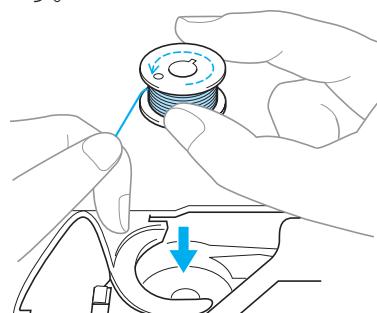
下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っ張られてしまいます。そのため、布地の上に糸が出てしまします。

■ 対処方法／確認内容

下糸を正しくセットしなおします。

- 1 電源を切ります。
- 2 いったんボビンを内かまから取り出します。
- 3 糸が正しい方向から出るように、ボビンを内かまにセットします。

- 糸が必ず左巻きになるように、右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。そのまま右手でボビンを内かまに入れます。

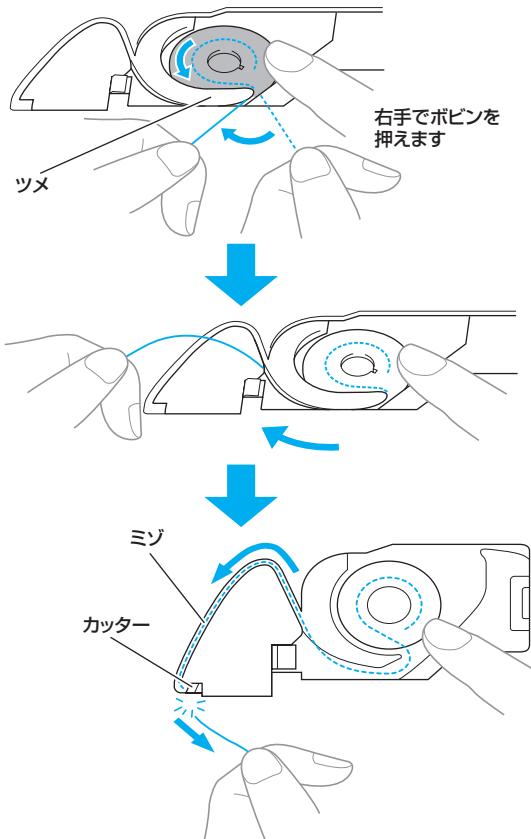


糸が逆方向から出た状態でボビンをセットすると、正しい糸調子をぬうことができません。

4

ボビンを指で押さえながら糸を針板のミゾに通します。

- 右手でボビンを押さえ、左手で巻き終わりの糸をツメに引っかけます。糸を引っぱりながら針板のミゾにそって糸を通し、最後に手前に引いてカッターで糸を切れます。

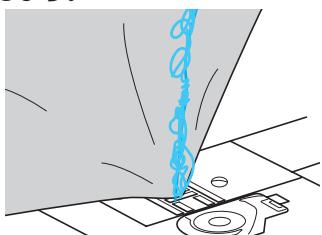


内かまにボビンの糸を正しくセットしなければ、正しい糸調子でぬうことができません。

布裏で糸がからまる

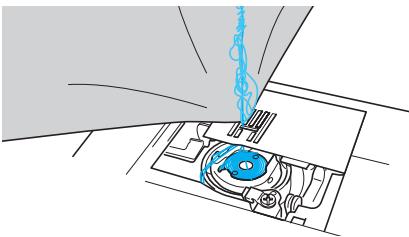
こんなとき

- 布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



- ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。

- 布地の下側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。



■ 原因

上糸のセットがまちがっている

上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができず、かまの中に上糸がたまり、グチャグチャにからんでしまいます。

■ 対処方法／確認内容

からんだ糸を取り除き、上糸をセットしなおします。

1

からんだ糸を取ります。取れない場合は、はさみで糸を切れます。

「かまの掃除」(→P.184)を参照してください。

2

いったん上糸をミシンから取り外します。

3

以下の手順に従って、上糸をもう一度セットしなおします。

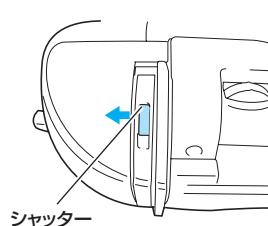
- ボビンを内かまから取り出した場合は、「下糸をセットする」(→P.41)と「上糸がつる」(→P.186)の「対処方法／確認内容」を参照して、セットしなおしてください。

4

押えレバーを上げます。



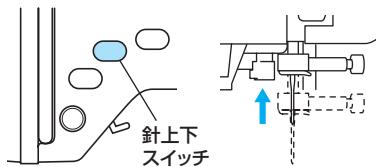
△ 押えを上げると、シャッターが開きます。



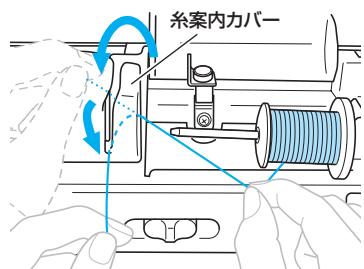
押えが下がった状態では、上糸を正しくセットできません。

- 5** (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上に上げます。

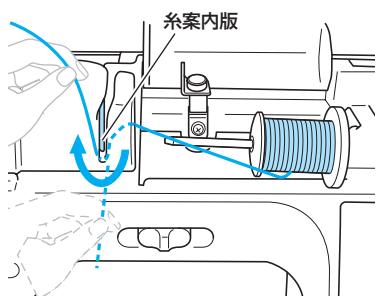
針上下スイッチで針を上に上げていなければ、上糸を正しくセットできません。



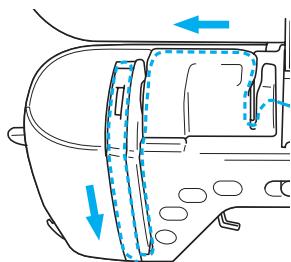
- 6** 糸を糸案内カバーの奥から手前にかけます。引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



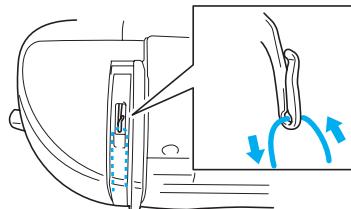
- 7** 糸案内板の下から上へ糸をかけます。



- 8** 下図に示されているように、上糸をかけます。



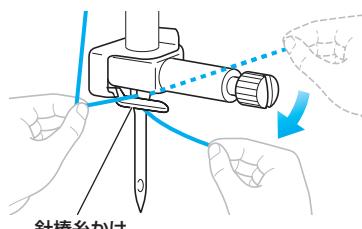
- 9** 図のように天びんの右側から左側へ糸がかかるていることを確認します。天びんに糸がしっかりととかかっていなければ、ぬうことができません。



● 確実に天びんに糸がかかるっていることを確認してください。

- 10** 針棒糸かけに糸を通します。

左手で糸を保持し、右手で糸かけを行うと糸かけがしやすくなります。



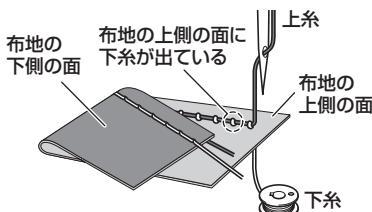
- 11** 「上糸を通す」(→P.42) の
13~18に従って針に糸を通します。

糸調子が合わない

■ こんなとき

- 症状① 布地の上側にポツポツと下糸が出ている。
- 症状② 布地の上側で上糸が直線になる。
- 症状③ 布地の下側にポツポツと上糸が出ている。
- 症状④ 布地の下側で下糸が直線になる。
- 症状⑤ 布地の下側のぬい目がゆるい、またはたるむ。

症状①



症状③



■ 原因／対処方法／確認内容

原因 1

糸が正しくミシンにセットされていない。

<上記の症状①、②に該当する場合>

下糸が正しくセットされていません。

上糸の糸調子を初期設定（反転表示）に戻し、「上糸がつる」（→ P.186）を参照してセットし直します。

<上記の症状③～⑤に該当する場合>

上糸が正しく通っていません。

上糸の糸調子を初期設定（反転表示）に戻し、「布裏で糸がからまる」（→ P.187）を参照して糸をかけ直します。

原因 2

布地に合った糸や針を使用していない。

ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。

布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの原因になったりします。

- 「布地と針の種類による針の使い分け」（→ P.50）の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。

原因 3

上糸調子ダイヤルの数値が適正でない。

「糸調子を調節する」（→ P.68）を参照して、適正な糸調子になるように調節します。

使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正

な糸調子は異なります。

※ 実際にお使いになる布地の端切れで試しみないをして、糸調子を調節してください。

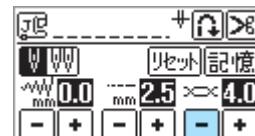


お願い

- 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子を正しく調節できません。上糸かけ、下糸セットの確認を先に行つてから、糸調子の調節を行ってください。

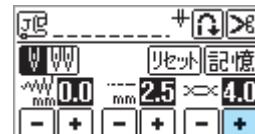
● 布地の上側に下糸が見える場合

表示パネルの [-] を押して、上糸の調子を弱くします。



● 布地の下側に上糸が見える場合

表示パネルの [+] を押して、上糸の調子を強くします。



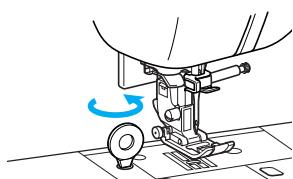
布がミシンに入り込んで とれなくなつた

布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。

操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。

■ 布をミシンから取り外す

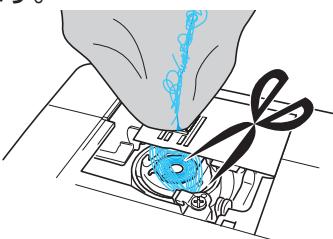
- 1** 直ちにミシンを停止させます。
- 2** 電源を切ります。
- 3** 針を取り外します。
針が布に刺さっている場合は、ブーリーを奥側に回して針を布から外してから、針を取り外してください。
●「針を交換する」(→ P.51) を参照してください。
- 4** 押えレバーを上げて、抑えと抑えホルダーを取り外します。
●「抑えを交換する」(→ P.53)、「抑えホルダーを取り外す」(→ P.55) を参照してください。
- 5** 布を持ち上げて、布の下の糸を切れます。
ここで布を取り外すことができる場合は、取り外してください。かまの掃除をするために引き続き、次の手順へお進みください。
- 6** 付属のネジ回しで針板カバーのネジを外します。



- 7** 針板カバーを外します。



- 8** からんだ糸を切ってボビンを取り出します。

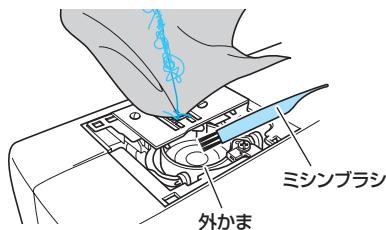


- 9** 内かまを取り出します。

内かまに糸が残っている場合は、取り除いてください。

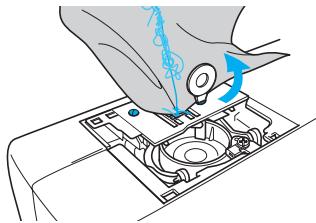


- 10** 付属のミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



ここまで手順で布を取り外せた場合	→手順 17 に進む
ここまで手順で布が取り外せない場合	→手順 11 に進む

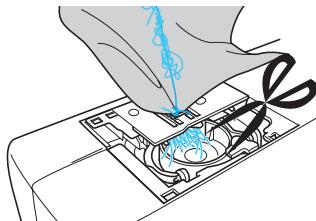
- 11** 付属のネジ回しを使って、針板の二つのネジを取り外します。



お願い

- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

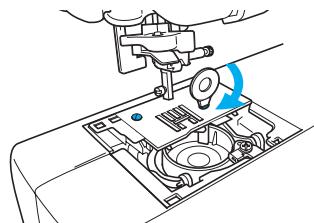
- 12** 針板を少し持ち上げ、絡んだ糸を切って、針板を取り外します。
針板から布と糸を取ります。



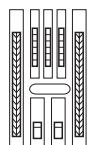
ここまで手順を終えても布が取り外せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。

- 13** かまや送り歯のまわりの糸を取り除きます。
14 プーリーを回して、送り歯を上に上げます。
15 針板の2つのネジ穴を針板取付け部の2つの穴に合わせながら、ミシンに針板をはめ込みます。

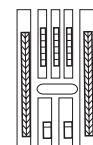
- 16** 針板の右側のネジを手で軽く締めます。次に、左側のネジをネジ回しでしっかりと締めます。最後に右のネジもしっかりと締めます。



プーリーを回して、送り歯が針板のミゾの端に当たらず、スムーズに動くことを確認してください。



正しい送り歯の位置

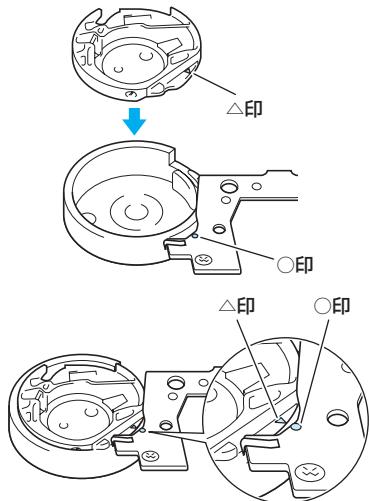


正しくない送り歯の位置

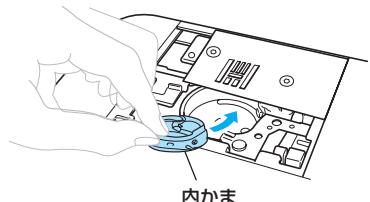
お願い

- 取り外したねじを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

- 17** 下図のように△印と○印が合うよう
に、内かまを取り付けます。



- △印と○印を合わせます



- 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

!**注意**



- キズが付いた内かまは使用しないでください。万一、使用すると上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。内かまは最寄りの販売店でお買い求めください。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

- 18** 「かまの掃除」(→P.184) の⑨
~⑩に従って針板カバーを取り付けま
す。

- 19** 針の状態を確認して、針をミシンに取
り付けます。

曲がっているなど針が悪くなっている場
合は、必ず新しい針を取り付けてくださ
い。

- 「正しい針の見分け方」(→ P.51)、「針
を交換する」(→ P.51) を参照してく
ださい。

!**注意**



- 曲がった針は絶対に使用しな
いでください。針折れの原因
になります。

!**お願い**

- ここまで手順を終えたあとは、ミシンが正しく
動くように、以降の「ミシンの動作を確認する」の
手順を続けてください。

!**お知らせ**

- 布がミシンに入り込んだ際に、針が損傷して
いるおそれがありますので、新しい針に交換
することをお勧めします。

■ ミシンの動作を確認する

いったん針板を取り外したあとは、正しく取
り付けられていることを確認するために、ミシン
の動作確認をしてください。

- 1** 電源を入れます。

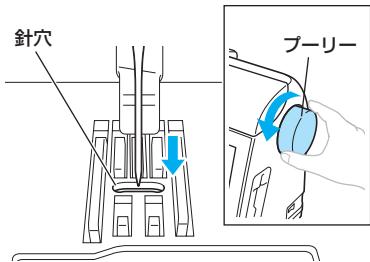
- 2** 中基線の模様³を選択します。

!**お願い**

- 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

- 3** プーリーをゆっくりと手前に回し、針が針穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。

針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、「布をミシンから取り外す」(→P.190)の手順**14**からやり直してください。



- 4** ジグザグ模様 7 [] を選択します。このとき、ぬい目の長さと振り幅を最大にしてください。

● 設定の変更については、「ぬい目を調節する」(→ P.67) を参照してください。

- 5** プーリーをゆっくりと手前に回し、針棒と送り歯が正しく動くことを確認します。

針や送り歯が針板に当たる場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。

- 6** 電源を切ってから、ボビンと押えをセットします。

● 「下糸をセットする」(→ P.41)、「押えを交換する」(→ P.53) を参照してください。

- 7** 上糸をかけなおします。

● 上糸のかけ方については、「上糸を通す」(→ P.42) を参照してください。



お願い

● 上糸が正しくセットされていなければ、糸がらみの原因になります。正しく上糸をセットしてください。

- 8** 普通地で試しひいをします。



お願い

● 正しくぬえない場合、原因として、上糸が正しくセットされていないことや薄い布地を使用していることが考えられます。試しひいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方やお使いの布地を確認してください。

こんなときには

■ ぬう前の準備

こんなとき	原因	対処	参照ページ
下糸がボビンに きれいに巻けない	引き出した糸を正しく巻き付けていない。	引き出した糸は、時計回りに4~5回ボビンに巻き付けます。	P.37
	下糸巻き案内に糸がしっかりとからかっていない。	下糸巻き案内に糸をしっかりととかけます。	P.37
	ボビンの回転が遅い。	スピードコントロールレバーを「はやく」にします。	P.38
下糸巻き中、ボビン受け座の下に下糸が巻かれた	下糸の巻き方がまちがっている。	受け座の下に巻かれた糸をほどいた後、下糸を正しく巻きます。	P.39
針穴に糸が通らない	針が正しい位置にない。	針上下スイッチで針を上げます。	P.43
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P.51
ランプが 点灯しない	ランプが故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	—
	電源が入っていない。	電源を入れます。	P.29
液晶画面に何も表示されない	液晶画面の明るさが明るすぎる、または暗すぎる。	液晶画面の明るさを調整します。	P.201
スイッチを押しても動かない	液晶画面にアニメーションが表示されている。	液晶画面に指で触れてアニメーションを消去します。	P.30
刺しゅうキーを押しても動かない	刺しゅう機が取り付けられていない。	刺しゅう機を取り付けます。 EMU18シリーズの場合は、別売の刺しゅう機をお買い求めください。	P.146
刺しゅう機が取り付けられない	刺しゅう機差し込み口のふたが閉まっている。	刺しゅう機差し込み口のふたのつまみに指をかけて、ふたを開けます。	P.147

■ ぬっているとき

こんなとき	原因	対処	参照ページ
ミシンが動かない	電源が入っていない。	電源を入れます。	P.29
	スタート／ストップスイッチを押していない。	スタート／ストップスイッチを押します。	P.62
	押えレバーが上がっている。	押えレバーを下げます。	P.61
	フットコントローラーを接続した状態で、スタート／ストップスイッチを押している。	フットコントローラーを接続しているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。スタート／ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外します。	P.61
	下糸巻きを行った後、下糸巻き軸が右側のままになっている。	下糸巻き軸を左側に戻します。	P.39
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P.51
	針のとめネジがゆるんでいる。	ドライバーでとめネジをしっかりとしめます。	P.52
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.51
	針が布地や糸に合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.50

こんなとき	原因	対処	参照ページ
針が折れる	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P.53
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P.68
	布地を無理に引っ張っている。	布地は軽く押さえます。	—
	糸こまや糸こま押えが正しく取り付けられていない。	糸こまと糸こま押えを正しく取り付けます。	P.43
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
	本製品純正のボビンを使用していない。	本製品純正のボビンを使用してください。	P.35
	糸こまが正しくセットされていない。 糸こま押えの大きさが合っていない。 針棒糸かけから糸が外れている。	上糸を正しくセットします。	P.42
上糸が切れる	糸に結び目やこぶがある。	その部分を取り除きます。	—
	針が糸に合っていない。	糸に合った針を使用します。	P.50
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P.68
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P.184
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.51
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
上糸が切れる	本製品純正のボビンを使用していない。	本製品純正のボビンを使用してください。	P.35
下糸がからまる 下糸が切れる	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.41
	ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換します。	—
	糸がからまっている。	からんだ糸を取り除き、かまを掃除します。	P.184
	本製品純正のボビンを使用していない。	本製品純正のボビンを使用してください。	P.35

こんなとき	原因	対処	参照ページ
布地にしわがよる	上糸または下糸のセットがまちがっている。	上糸、下糸を正しくセットします。	P.41 P.42
	糸こまが正しく取り付けられていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P.43
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.50
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.51
	薄地の場合に、ぬい目があらすぎる。	ぬい目を細かくします。または布地の下にハトロン紙などを敷いてぬいます。	P.68 P.76
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.68
ぬい目がとぶ	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P.42
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.50
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.51
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	
	針板の下やかまにほこりなどがたまっている。	針板ふたを取り外してかまを掃除します。	P.184
ぬっているときの音が高い ガタガタと音がする	送り歯やかまにほこりがたまっている。	かまを掃除します。	
	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P.42
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
	本製品純正のボビンを使用していない。	本製品純正のボビンを使用してください。	P.35
布地を送らない	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを左に動かします。	P.113
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目の長さを長くします。	P.68
	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P.53
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P.184
	ぬい始めに段差があって、ジグザグ押えが傾いている。	ジグザグ押え<J>の固定ピンで押えを水平にしてぬいます。	P.75
布地が逆方向に送られる	送り機構が故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	—
布がミシンに入り込んでとれない	糸が針板の下でからんでいる。	布を持ち上げて、布の下の糸を切れます。次にかまの掃除をします。	P.187
刺しゅう機が動かない	模様を選択していない。	模様を選択します。	P.156
	刺しゅう機が正しくセットされていない。	刺しゅう機を正しくセットします。	P.146

■ 仕上がり

こんなとき	原因	対処	参照ページ
糸調子が合わない	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P.42
	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.41
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.50
	押えホルダーが正しく取り付けられていない。	押えホルダーを正しく取り付けます。	P.55
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.68
	本製品純正のボビンを使用していない。	本製品純正のボビンを使用してください。	P.35
模様がきれいに ねえない	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P.53
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.68
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P.184
布裏で糸がからまる	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P.42
上糸がつる	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.41
きれいに 刺しゅうできない	刺しゅう枠に布地がきちんと張られていな い。布地の張り方がゆるい。	刺しゅう枠に布地を正しく張ります。	P.151
	接着芯を貼っていない。	伸びる布地、薄い布地、目のあらい布地、ぬ い縮みしやすい布地には、必ず刺しゅう用接 着芯を貼ってください。	P.150
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P.184
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.172
	キャリッジや刺しゅう枠の周辺にものが置い てある。	刺しゅう機のキャリッジや刺しゅう枠がもの にぶつかると、模様がくずれます。刺しゅう 枠が動く範囲には、ものを置かないようにし てください。	P.148
	刺しゅう枠からはみ出した布地が、じやまにな なっている。	刺しゅう枠からはみ出した布地がじやまにな らないように布地を張り替え、模様を回転さ せて刺しゅうをします。	—
	重たい衣類に刺しゅうしていて、テーブルか ら布地が垂れ下がっている。	布地がテーブルから垂れ下がった状態で刺 しゅうをすると、刺しゅう機の動きが悪くな ります。布地が垂れ下がらないようにしてく ださい。	—
	布地がひっかかっている。はさみ込まれてい る。	ミシンをストップさせて、布地を正しい状態 にします。	—
	刺しゅうの途中で、刺しゅう枠を取り外したり取 り付けたりしたときに、キャリッジを動 かした。	途中でキャリッジを動かすと、模様くずれの 原因となります。刺しゅう枠を取り外したり取 り付けたりするときは、注意してください。	—

液晶画面のメッセージ表示

誤った操作をしたときのメッセージや操作のアドバイスが、液晶画面に表示されます。表示された内容に従ってください。以下に記載のないメッセージが表示された場合は、お買い上げの「販売店」または「お客様相談室（ミシン119番）」（フリーダイヤル0120-340-233）までお問い合わせください。

表示	原因
▲説明書の工ラーメッセージをみてください。 <input type="button" value="閉じる"/>	上糸がかまにからんだ、針が曲がって針板に当たったなどでミシンが停止した （→P.186 参照）
①上糸が切れていないか確かめてください。 <input type="button" value="閉じる"/>	上糸が切れた 上糸が正しくセットされていない 上糸がなくなった
①押えレバーを上げてください。 <input type="button" value="閉じる"/>	押えが下がった状態で、刺しゅう機の初期設定を行おうとした
①押えレバーを下げてください。 <input type="button" value="閉じる"/>	押えが上がった状態で、スタート／ストップスイッチ・返しぬいスイッチ・糸切りスイッチのいずれかを押した
記憶中	模様の記憶中
①このカードは使用できません。 <input type="button" value="閉じる"/>	本製品で使用できない模様カードをセットして、カードの模様を選択しようとした
①この画面ではぬえません。 <input type="button" value="閉じる"/>	縫製画面以外で、スタート／ストップスイッチまたは返しぬいスイッチを押した
①この模様は使えません。 <input type="button" value="閉じる"/>	このミシンで使用できない模様を選択しようとした
①これ以上組合せできません。 <input type="button" value="閉じる"/>	19文字以上の文字を組み合わせようとした
①刺しゅうカードを入れてください。 <input type="button" value="閉じる"/>	刺しゅうカードがセットされていないときに、液晶画面の  を押した

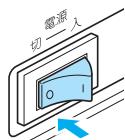
表示	原因
① 刺しゅう機がついていない時には使えません。 [閉じる] セン。	刺しゅう機が取り付けられていないときに、刺しゅうキーを押した
① 刺しゅう機がついている時には使えません。 [閉じる] ん。	刺しゅう機が取り付けられているときに、使用できない機能を使用しようとした
▲刺しゅうキャリッジが動きます。注意してください。OK	刺しゅう機を取り付けた
① 下糸が少なくなりました。 下糸を巻いてください。 [閉じる]	下糸がなくなった 下糸が残り少なくなった
① 下糸巻き軸を左に戻してください。 [閉じる]	下糸巻き軸を右にした状態で、返しねいスイッチ・針上下スイッチ・糸切りスイッチのいずれかを押した
下糸巻き中	下糸巻き装置で下糸巻き動作中
① 設定条件を記憶します。よろしいですか? [キャンセル] OK	実用模様の設定を変更して、[記憶] を押したとき
① 電源を切って刺しゅう機を取り外してください。 [閉じる]	刺しゅう機が取り付けられているときに、実用／文字模様キーを押した
① 針が下の時にはこのスイッチは使えません。 [閉じる] ん。	針が下がった状態で、刺しゅう模様の選択やレイアウトの変更をしようとした
① 針上下スイッチで針を上に上げてください。	針が下がっているときに、ミシンが動く動作をしようとした
① 2本針設定を解除して針を交換してください。 [キャンセル] さい。VV+VV	2本針の設定をした状態で、2本針が使用できない模様を選択した
① フットコントローラーをはずしてください。 [閉じる]	刺しゅうのときに、フットコントローラーを使用しようとした フットコントローラーが取り付けられた状態で、スタート／ストップスイッチを押した

表示	原因
① 振幅コントロールをOFFにしてください。 [閉じる]	振幅コントロールがONの状態で、フットコントローラーを接続せずにスタート／ストップスイッチを押した 振幅コントロールが使用できない模様を選択した (→ P.113 参照)
① 模様が消えます。よろしいですか? [キャンセル] [OK]	刺しゅう模様を選択した状態で、戻るキーまたは刺しゅうキーを押した
① 縫製範囲からはみ出します。回転しますか? [キャンセル] [90°]	刺しゅう枠からはみ出すまで文字を組み合わせようとした
① ボタン穴かがりレバーを上げてください。 [閉じる]	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり・かんどめ・ダーニング以外の模様を選択してスタート／ストップスイッチまたは返しぬいスイッチを押した
① ボタン穴かがりレバーを下げてください。 [閉じる]	ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがり・かんどめ・ダーニングを選択してスタート／ストップスイッチを押した
① 模様を選んでください。 [閉じる]	模様を選択していない状態で、スタート／ストップスイッチまたは返しぬいスイッチを押した
① 模様が枠からはみだします。 [閉じる]	刺しゅう枠に入りきらない文字数を設定しようとした
① 容量がたまりません。模様を消してください。 [キャンセル] [削除]	記憶エリアがいっぱいのときに、さらに記憶させようとした
① 模様を減らしてください。 [閉じる]	USB フラッシュメモリー (USB フラッシュドライブ) に 201 個以上の模様データ (フォルダも含む) が入っているときに、模様を呼び出そうとした または、保存データが 200 個以内であっても、色数の多い模様データが入っているときに、模様を呼び出そうとした
① USB メディアを入れてください。 [閉じる]	USB フラッシュメモリーを接続せずに、模様を呼び出した 対応機種ではない USB フラッシュメモリーを使おうとした
① USB メディアを読み込んでいる最中に交換しないでください。 [閉じる]	USB フラッシュメモリーを読み込んでいる状態で、USB フラッシュメモリーを抜き、再び挿して模様を選択しようとした
F01 ~ F07	ミシンが故障していることを考えられますので、お買い上げの販売店またはお客様相談室 (0120-340-233) までお問い合わせください。

液晶画面に何も表示されないとき

電源を入れても液晶画面に何も表示されないときは、液晶画面の明るさが明るすぎる、または暗すぎるときです。その場合は、次の操作をしてください。

1 電源を切ります。



2 操作パネルのいずれかのキーを押しながら、電源を入れます。



3 □ + を押して、画面の明るさを調整します。



4 もう一度電源を切って、電源を入れ直します。

電子音

キーを操作しているときや、誤った操作をしたときなどに、電子音が鳴ります。

正しい操作をしたとき

「ピッ」と鳴ります。

誤った操作をしたとき

「ピッピッ」または「ピッピッピッピッピッ」などと鳴ります。

糸がからむなど、ミシンがロックしたとき

「ピッピッピッピッ…」と4秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。OKボタンを押すと、操作可能な状態に戻ります。

必ず原因を確認して改善してから、再開してください。

■ 電子音を消したいとき

購入時は、操作パネルのキーを操作すると音が鳴るように設定されています。この音を鳴らないように変更できます。

1 電源を入れます。



▶ 液晶画面が点灯します。

2 操作パネルの [設定] (設定キー) を押します。



▶ 設定画面が表示されます。

3 ▶ (次ページキー) を押します。

④ ブザーの OFF を押します。



▶ 電子音が鳴らないように設定されます。

⑤ < (戻るキー) を押します。



▶ もとの画面に戻ります。

アップグレードの方法

USBフラッシュメモリーとパソコンを使用して、ミシンにインストールされているソフトウェアをアップグレードすることができます。アップグレード情報がブラザーソリューションセンター(<http://solutions.brother.co.jp/>)に掲載されましたら、ウェブサイトに記載の手順と下記内容に従ってダウンロードしてください。

お願い

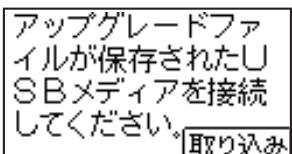
- USBフラッシュメモリーを使ってソフトウェアをアップグレードするときは、USBフラッシュメモリー内にアップグレードファイルだけを保存してください。それ以外のデータが含まれていると、正しくアップグレードできません。
- USBフラッシュメモリーはどの容量のものでも使用できます。

お知らせ

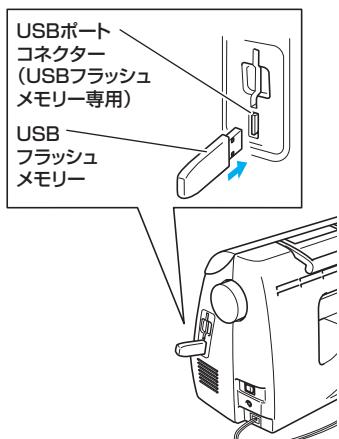
- アップグレードを行うと、記憶した文字または飾り模様の組み合わせ模様データが消去されます。なお、記憶した刺しゅう模様データは消去されません。

1 操作パネルの [設定] (設定キー) を押しながら、電源を入れます。

△ 次の画面が表示されます。



2 ミシンのUSBポートコネクターにUSBフラッシュメモリーを差し込みます。 アップグレードファイルのみ保存されているUSBフラッシュメモリーを使用してください。

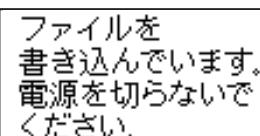


お知らせ

- アクセスインジケーター付USBフラッシュメモリーを使用する場合は、パソコンやミシンにUSBフラッシュメモリーを挿入したときに、アクセスインジケーターが点滅し始め、USBフラッシュメモリーが認識されるまで約5~6秒かかることがあります。(USBフラッシュメモリーの種類によって、認識されるまでの時間が異なります。)

3 [取り込み] を押します。

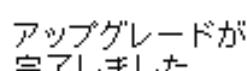
△ 次の画面が表示されます。



お願い

- エラーが発生すると、エラーメッセージが表示されます。その場合は、電源を切り、もう一度 1 からやり直してください。

4 次の画面が表示されたら、アップグレードは完了です。



5 USBフラッシュメモリーを取り外し、ミシンの電源を入れ直します。

本体仕様

項目	仕様
本体サイズ	幅 436mm × 高さ 293mm × 奥行 214mm
本体質量	EMU18 シリーズ：8.5kg EMU19 シリーズ：8.0kg (刺しゅう機：2.0kg)
液晶画面	バックライト拡散式タッチパネル
使用ミシン針	家庭用ミシン針 HA × 1
ランプ	白色 LED
ぬい速度	毎分 70 ~ 850 針
定格電圧 / 消費電力	100V / 50W 50 / 60Hz
搭載模様	実用 : 67
	飾り : 31
	サテンステッチ : 16
	クロスステッチ : 5
	飾りサテン : 10
	実用飾り : 39
	アルファベット : 55 × 3 書体
	ひらがな : 80
	カタカナ : 81
	数字 : 21
	記号 : 7
	漢字 : 15
最大振り幅	7.0mm
最大送り幅	5.0mm
刺しゅう	刺しゅう範囲 180mm × 130mm (最大)
	刺しゅう速度 每分最大 650 針
	最少ピッチ 0.1mm
	搭載模様 絵柄模様 : 75 枠模様 : 10 種、12 ステッチ 英数 : 3 書体 かな・カナ : 3 書体

さくいん

付録

数字

2本針 16, 21, 46

Q

Q&A 186

U

USB フラッシュメモリー
(USB フラッシュドライブ) 178
USB ポートコネクター 24, 178

あ

アーム 56
アイレット 120
あき止まり 115
厚地をぬう 75
アップグレード 203
アプリケ 109, 167
アドバイス 198
アルファベット 80, 82, 156, 159
安全にお使いいただくために 1

い

位置 170
糸案内カバー 23, 37, 44
糸案内皿 24, 44
糸案内板 23, 37, 44
糸色 165
糸色名 158
糸切り 23, 65, 71
糸切りスイッチ 25, 65
糸こま抑え 13, 35, 43
糸こまネット 13, 36
糸たて棒 23, 35, 43
糸調子 68, 172
糸通し装置 45
糸通しレバー 45
糸をまちがえてぬったとき 172
色替 157

う

ウイングニードル 126
ウォーキングフット 16, 21, 111
受け座 38
薄地をぬう 76
ウルトラポス 19, 22, 157
上糸 42
上ふた 23, 35, 43

え

絵柄模様 162

液晶画面 26, 30, 157, 201
液晶画面の操作 30, 157
エクストラテーブル 17, 19, 56
エラーメッセージ 198

お

大きなもの 56
オープニング画面 31
送り歯 24
押え 14
押え圧ダイヤル 24, 75
押え固定ピン 14, 75
押えの交換 53
押えホルダー 54, 55
お手入れ 184

か

カーブをぬう 74
回転キー 171
ガイド付まつりぬい押え 19, 21, 77
ガイドミゾ 38
返しぬい 64, 70
返しぬいスイッチ 25, 64
確認 158
飾りサテン 80, 132
飾りぬい 121
飾り模様 80
片押え 14, 102
片返し 103
カタカナ 83, 156, 161
カッター 38, 42
角をぬう 74
かな 83, 159
かま 42, 184
画面調整 31
画面の明るさ 31, 201
皮をぬう 76
換気口 24
漢字カード 164
かんどめ 116
カントリー糸 19, 22, 157

き

記憶 72, 134, 176
記憶キー 26
基線 90
ギヤザー 123
キャリッジ 148
曲線をぬう 74
キルター 19, 21, 112
キルティング 111
キルト押え 16, 21, 112

く

組み合わせ	130
くり返し	131
クレイジーキルト	110
クロスステッチ	80

け

ケース	13
-----	----

こ

ゴムテープ付け	107
コンセント	29

さ

サイズキー	170
サイドカッター押え	19, 21, 87
サテンステッチ	80
サテンぬい	113
左右反転	72, 134
三重ぬい	115
サンフェロン	14

し

シェルタック	124
時間	157
ジグザグ押え	14, 86, 89, 101, 106, 108, 115, 122
ジグザグの振り幅	67
刺しゅう	140
刺しゅう糸	140
刺しゅう押え	17, 20, 143
刺しゅうカード	20, 22, 163
刺しゅうカード差し込み口	24, 164
刺しゅう機	146
刺しゅうキー	26
刺しゅう機差し込み口	23, 147
刺しゅうシート	20, 22, 152
刺しゅうの記憶	176
刺しゅう範囲	171
刺しゅう模様	156
刺しゅう用水溶性シート	19, 22, 140
刺しゅう用接着芯	19, 22, 140
刺しゅう枠	17, 20, 22, 151
刺しゅうを中断するとき	173
下糸	35
下糸巻き案内	23, 37
下糸巻き軸	39
下糸を引き出す	49
しつけぬい	89
実用飾り模様	80
実用／文字模様キー	26
実用模様	80
自動糸切り	71
自動返しぬい	70
自動止めぬい	70
次ページキー	26

伸縮ぬい	106
------	-----

す

水溶性シート	19, 22, 140
スカラップ	123
すそ上げ	91
スタート	61
スタート／ストップスイッチ	25, 62, 166
ストッパー	52
スピードコントロールレバー	25, 38, 62, 114
スマースフト	76
スマッキング	123

せ

接着芯	19, 22, 140
設定キー	26
設定の確認・変更	31
前ページキー	26
前面	23

ぞ

操作音	201
操作スイッチ	25
操作パネル	26
掃除	184
速度	62
側面	24
そで付け	115

た

ダーニング	118
たち目かがり	85
たち目かがり押え	14, 85
試しぬい	74

ち

直線ぬい	89
著作権	156

つ

使い方	33
使い方キー	26
つき合わせ	101, 125
つくろいぬい	118
筒もの	56

て

手で針に糸を通す	46
電源	28
電源コード	24, 29
電源コンセント	29
電源スイッチ	24, 29
電子音	201
てんびん確認窓	44

と

特長	12
途中で糸がなくなったとき	173
止めぬい	64, 70
とめネジ	52
ドライバー	13, 52
トラブル	186
取扱説明書	14
取扱説明DVD	15
取り外しレバー	149
ドロップレバー	24, 99, 113
ドロンワーク	127

な

長さ	68, 133
----	---------

に

ニーリフター	16, 77
ニーリフター差し込み口	23, 77

ぬ

ぬい糸	14
ぬい方	60
ぬいしろの始末	85
ぬいしろの幅をそろえる	77
ぬい目の長さ	68
布地のセット	61
布地ブロード	14

ね

ネジ回し	13, 184, 190, 191
------	-------------------

の

伸びる布地	76, 106
-------	---------

は

バージョン	31
ハードケース	13
背面	24
はさみ	14
パッチワーク	110
はとめ穴	120
はとめ穴パンチ	13, 97, 120
幅	67
針板	24, 77
針板カバー	24, 41, 185
針板ふた	24, 41
針位置	31, 77
張りが強い糸	36
針上下スイッチ	25
針数	158, 173
針停止位置	31
針の交換	51
針の種類	50
針棒糸かけ	24, 44

反転	134, 171
ハンドル	24

ひ

ピーシング	110
ビニールをぬう	76
表示言語	31
ひらがな	80, 83, 156, 161

ふ

ファゴティング	122
ファスナー付け	101
ブーリー	24, 43, 61, 99
付属品パック	14
付属品	13
付属品トレイ	16
フットコントローラー	13, 62
フットコントローラージャック	24
ブラザー刺しゅう糸	157
フリーアーム	56
フリーモーションキルト	112
振り幅	67
振幅コントロール	114
プログラム糸切り	71
プロダクトNo.	31

へ

ヘアルーム	126
別売刺しゅう機セット	20

ほ

方向を変える	74
補強	115
ポケット口	115
補助糸たて棒	16, 21, 47
保証書	15
ボタン穴かがり	94
ボタン穴かがり押え	14, 95, 116, 118
ボタン穴かがりレバー	24, 97, 117, 119
ボタン付け	99
ボタン付け押え	14, 99
ほつれ止め	64, 85
ボビン	14, 35
ボビン受け座	38

ま

まつりぬい	91
まつりぬい押え	14, 92

み

ミシンの使い方	33
ミシン針	14, 50
ミシンブラシ	13, 185
密度	132

め

名称	23
メッセージ	198

も

文字刺しゅう	159
戻るキー	26
模様一覧	14
模様ぬい押え	14, 120, 129
模様の位置	170
模様の大きさ	132
模様の確認	131
模様の記憶	134, 176
模様の組み合わせ	130
模様のくり返し	131
模様の種類	80, 156
模様の選択	81, 156
模様の調整	136
模様の長さ	133
模様の幅	67
模様の反転	134, 171
模様の密度	132
模様の呼び出し	135

よ

呼び出し	135
------	-------	-----

ら

ランプ	29
-----	-------	----

り

リッパー	13, 97
------	-------	--------

れ

レイアウトの調節	170
----------	-------	-----

わ

ワイドテーブル	16, 21, 57
枠模様	162

アフターサービス

- ご購入の際、販売店でお渡しする保証書は大切に保管してください。
- 修理については、お買い上げの販売店または下記の「お客様相談室(ミシン119番)」にご相談ください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または下記の「お客様相談室(ミシン119番)」へご相談ください。

お客様相談室(ミシン119番)0120-340-233

本製品についての、使い方やアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または「お客様相談室(ミシン119番)」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室(ミシン119番)

T E L : 0120-340-233

F A X : 052-824-3031

受付時間：月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日：土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
ミシン背面の定格ハリマーク(銀色シール)の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店または上記「お客様相談室(ミシン119番)」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

ホームページ

- ブラザーのホームページでは、家庭用ミシンに関する様々な情報を掲載しております。
<http://www.brother.co.jp/>

- ブラザーソリューションセンターでは、家庭用ミシンに関するサポート情報を掲載しております。
http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html

brother

ブラザーアイダス株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1 〒467-8561

114-U18/U19
Printed in China



XF5021-001